

**第二期瀬戸内市
子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査結果報告書**

**平成 31 年 3 月
岡山県 瀬戸内市**

目 次

第1章 調査実施の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 調査票の配付と回収状況	2
4 報告書の見方について	2
(1) 電算処理の注意点	2
(2) グラフの見方について	2
5 調査対象者の属性・家族状況	3
(1) 就学前児童の年齢	3
(2) 小学生の学年	3
(3) 居住地区	4
(4) 調査回答者の属性	5
6 調査結果からみた課題・分析	6
 第2章 子育て家庭を取り巻く環境	 11
1 子育ての環境について	11
2 主な保育者とその就労状況	12
(1) 母親の就労状況	12
(2) 父親の就労状況	16
 第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	 21
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望	21
(1) 平日の定期的な教育・保育事業	21
(2) 今後の利用希望	34
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	36
(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	36
(2) 長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望	38
3 地域の子育て支援事業の利用状況	39
(1) 地域の子育て支援拠点事業の利用状況	39
(2) 今後の利用意向	41
(3) 地域の子育て支援に関する事業の周知度と今後の利用意向について	42
4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	43
(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処について	43

5 不定期の一時預かり等の利用について.....	48
(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況.....	48
(2) 宿泊を伴う一時預かり等の利用状況.....	53
6 放課後の過ごし方について.....	56
(1) 放課後児童クラブの利用状況.....	56
(2) 今後の放課後児童クラブの利用意向.....	62
(3) 平日の放課後の過ごし方の希望.....	67
(4) 土曜日、日曜・長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望.....	72
第4章 育児休業制度の利用状況.....	81
1 育児と仕事の両立支援制度について.....	81
(1) 育児休業制度の利用状況.....	81
(2) 職場復帰の状況.....	83
(3) 短時間勤務制度の利用状況.....	84
第5章 子育て全般（独自設問）.....	87
1 仕事と家庭の両立について.....	87
2 子育ての環境や支援への期待.....	89

第 1 章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、全ての子どもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して、平成27年3月に「瀬戸内市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいますが、本計画が平成27年度から31年度までの5か年計画であることから、2020年度を始期とする第2期計画の策定を予定しています。

第2期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭のニーズの動向分析等を行い、本市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題の整理を目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数および調査期間・方法は、以下のとおりです。

■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童の保護者の方へ)」	
調査対象者	平成30年12月1日現在、瀬戸内市に在住の就学前児童を持つ世帯(無作為抽出)
調査票配布数	939人
調査期間	平成31年1月24日～平成31年2月4日
調査方法	郵送による配布・回収
②調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学生の保護者の方へ)」	
調査対象者	平成30年12月1日現在、瀬戸内市に在住の小学生を持つ世帯(無作為抽出)
調査票配布数	448人
調査期間	平成31年1月24日～平成31年2月4日
調査方法	郵送による配布・回収

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布・回答状況は、以下のとおりです。

■ 調査票の配布・回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童の保護者	939	455	48.5
小学生の保護者	448	220	49.1

4 報告書の見方について

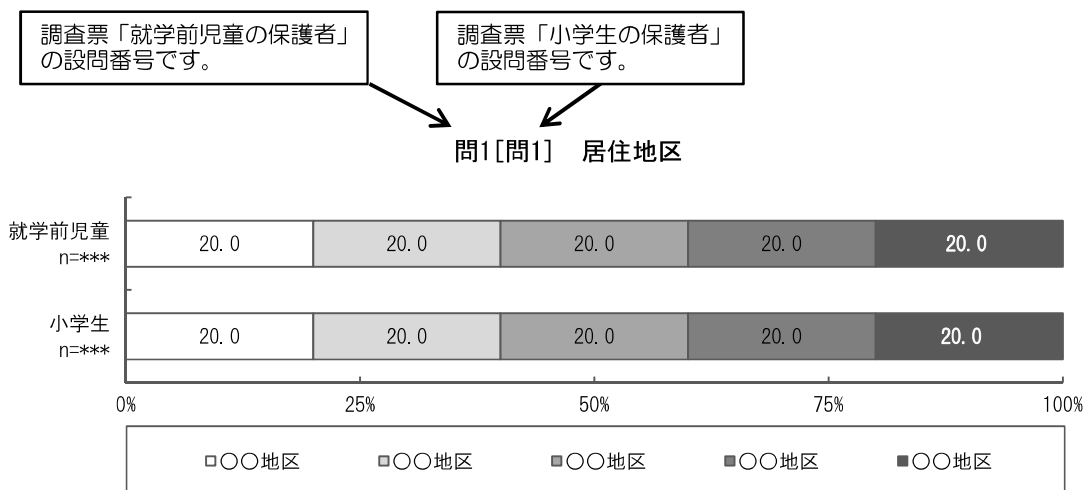
(1) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

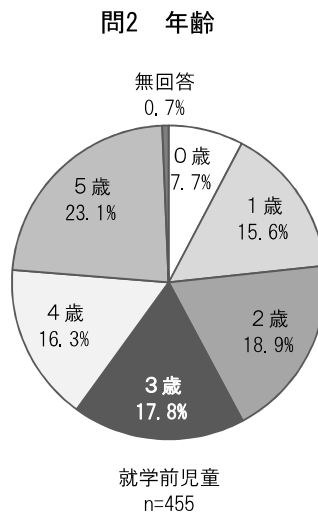
(2) グラフの見方について



5 調査対象者の属性・家族状況

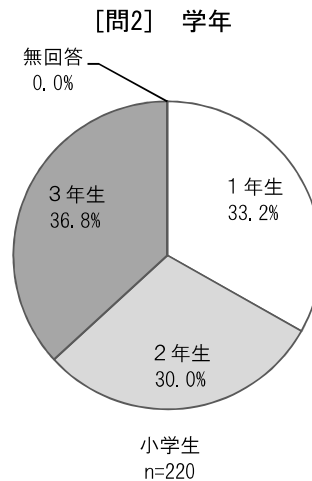
(1) 就学前児童の年齢

○就学前児童455人の年齢は、以下のとおりです。



(2) 小学生の学年

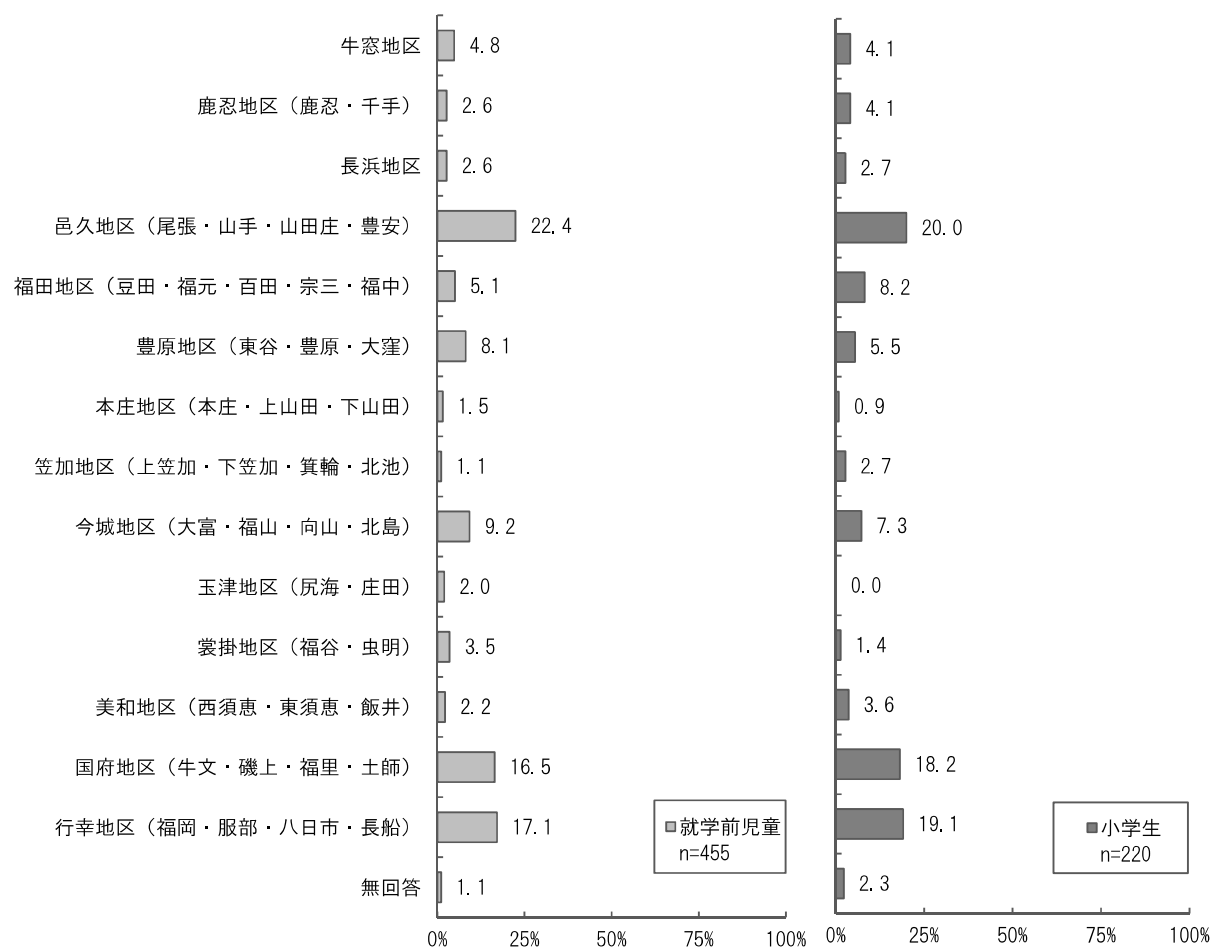
○小学生220人の学年は、以下のとおりです。



(3) 居住地区

○居住地区は以下のとおりです。

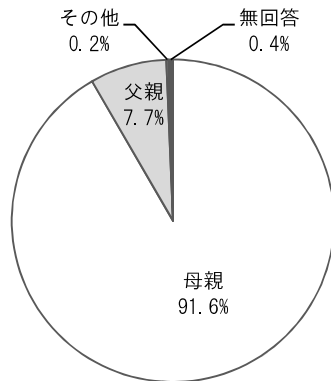
問1[問1] 居住地区



(4) 調査回答者の属性

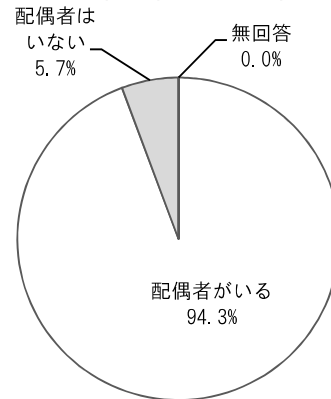
○回答された方の属性は以下のとおりです。

問3 調査回答者（就学前児童）



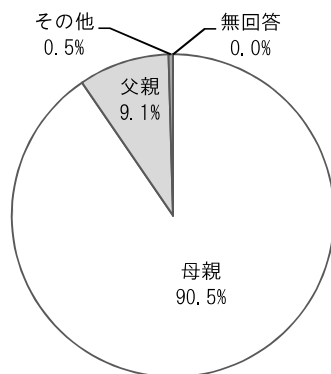
就学前児童
n=455

問5 配偶者の有無（就学前児童）



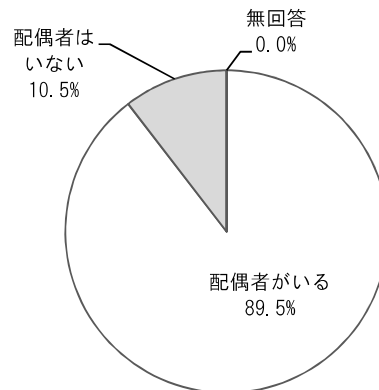
就学前児童
n=455

[問3] 調査回答者（小学生）



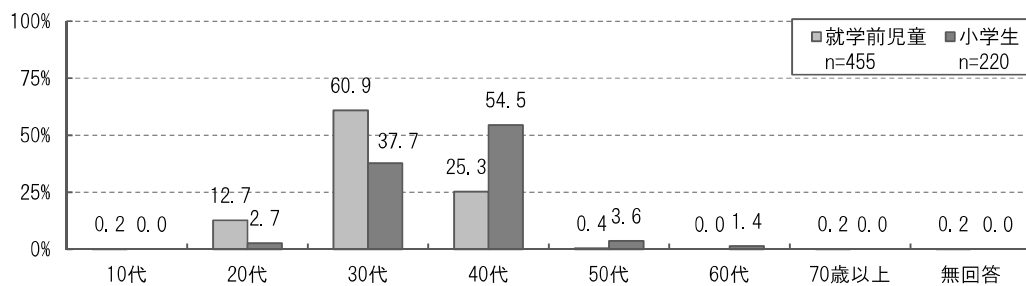
小学生
n=220

[問5] 配偶者の有無（小学生）



小学生
n=220

問4[問4] 回答者の年齢



6 調査結果からみた課題・分析

課題1 子育て中の保護者からの視点に立った施策展開

安心して子どもを産み育てることができるまちかどうかの意識をみると、就学前児童保護者・小学生保護者ともに「そう思う＋まあそう思う」と肯定的な回答をした方が8割を超え、「あまりそう思わない＋そう思わない」の否定的な回答を上回る結果となっています。また、前回結果と比較すると、肯定的な回答の割合が就学前児童は同程度であるものの小学生では8.3^{ポイント}増となっています。

さらに評価を引き上げるためには、子育て中の保護者の視点に立った施策展開が必要です。【問30[問23]】

課題2 ニーズに対応した認定こども園、幼稚園、預かり保育等の整備

平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望の比率をみると、ほとんどの事業において利用希望が利用状況を上回っており、特に「認定こども園」が20.7^{ポイント}増、「幼稚園（預かり保育も含む）」が17.0^{ポイント}増のように10^{ポイント}以上の伸びとなっています。

そのため、利用者ニーズに対応できるよう「認定こども園」「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」等の整備について検討することや事業の質的向上・今後の見込量の精査などの対応が必要です。【問11-1、問12】

課題3 放課後児童クラブを充実させる事業内容

放課後の過ごし方の希望をみると、就学前児童では小学校低学年のうちは「放課後児童クラブ」を26.7%が希望していますが、小学校高学年になると20.0%に留まり、前者と比べ6.7^{ポイント}減少しています。その一方で、「自宅」「習い事」等の希望が増加しています。また、放課後児童クラブの利用希望者の意向をみると、1週当たりの利用日数は就学前児童・小学生ともに「5日」の割合が最も高くなっています。

子どもの放課後の安全な過ごし方に対し、「放課後児童クラブ」は一定の役割を担っていることから、利用日数・利用時間等を含めた事業のあり方について検討することが必要です。【問22、問23 [問13]】

課題4 母親の就労状況に準じた教育・保育事業の運営

日常的に子育てに関わっている割合が高い母親の就労状況をみると、就学前児童では70.3%、小学生では86.8%の方が就労しています。その就労時間は就学前児童・小学生ともに「9時間」までの勤務が9割を超え、そのうち「8～9時間」が約3割となっていることから、帰宅時間まで預けられるような教育・保育事業の運営のあり方について検討が必要です。

また、母親の就労日数では「6日以上」の割合が就学前児童で6.9%、小学生で11.0%あることから、教育・保育事業に対する土曜日と日曜・祝日の運営が必要です。

【問6、問8、問8-1 [問6、問8、問8-1]】

課題5 周囲の援助が得られない子育て環境にある家庭への支援対策

周囲の援助が得られない子育て環境にある家庭は、就学前児童で7.7%、小学生で7.3%となっています。

このような状況をふまえ、孤立した育児環境にある家庭に対しては、個々のニーズに対応した子育て支援の手を差し伸べるとともに、安心できる育児環境への取組や支援が必要です。【問7[問7]】

課題6 「子育て支援センター」に対する利用者増対策

地域の子育て支援拠点事業である「子育て支援センター」の利用割合は17.4%となっています。また、新たな利用希望が11.6%と低率に留まっている一方で、利用者79人中41人(51.9%)が利用回数を増やしたいと回答しています。

「子育て支援センター」の利用については、多くはないものの一定の利用があります。約7割の未利用の理由については、本当に必要ないから利用しないのか、利用しづらい状況なのか、検証が必要です。加えて、保護者に対する利用勧奨の取組も必要となります。【問13、問14】

課題7 利用率の低い事業に対する利用向上をめざす対策

周知度があっても利用が少ない事業は、「子育て総合相談窓口」「子ども包括支援センターでの相談」「ファミリーサポートセンター」などがあげられ、その差は40^{ポイント}を超えています。また、利用希望の高い事業は「乳幼児健診」「保育園や幼稚園の園庭等の開放」があげられます。

そのため、該当事業の利用及び利用意向を向上させるためには利用者の視点に立った事業内容を再検討するとともに、事業内容を理解してもらえるよう周知のあり方の検討が必要です。【問15】

第2章

子育て家庭を取り巻く環境

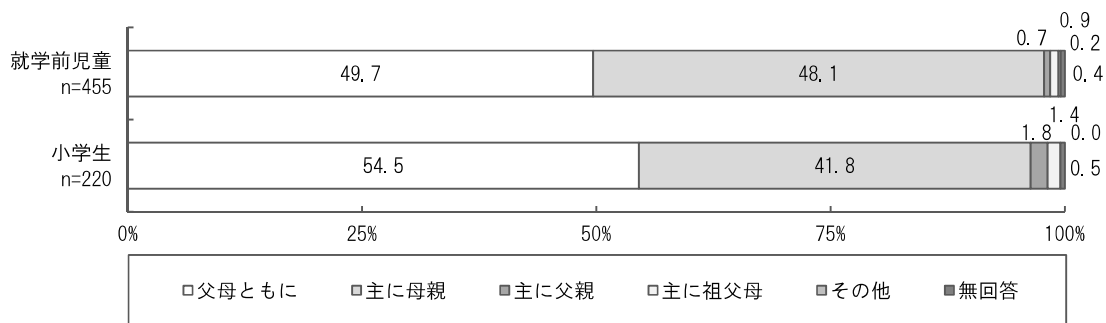
第2章 子育て家庭を取り巻く環境

1 子育ての環境について

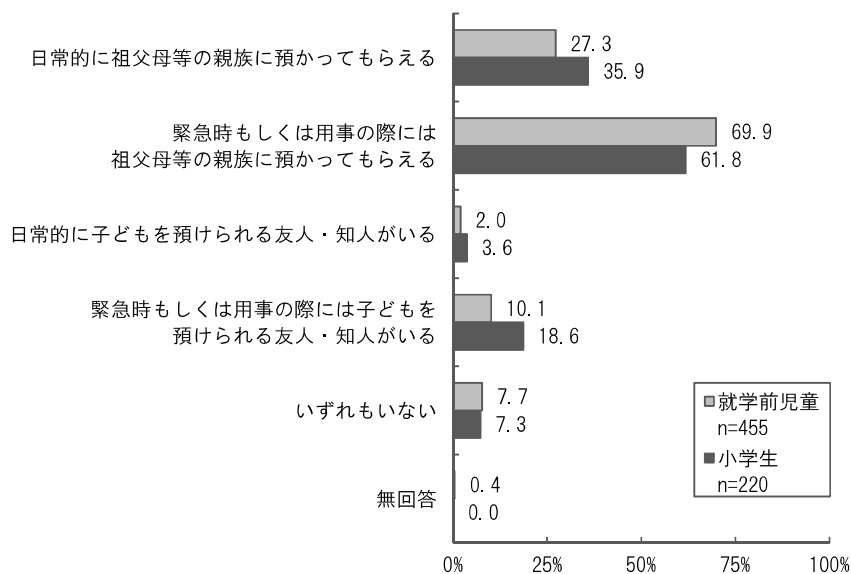
○主な保育者の状況をみると、就学前児童・小学生いずれも「父母ともに」「主に母親」で9割以上を占めています。

○子育てに関する親族・知人等協力者の状況をみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」は就学前児童が69.9%、小学生が61.8%、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」は就学前児童が27.3%、小学生が35.9%と親族の協力者は多い状況です。一方、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」（就学前児童10.1%・小学生18.6%）は2割未満であることから、緊急時であっても友人・知人には預けにくい状況がうかがえます。

問6[問6] 主な保育者の状況



問7[問7] 親族・知人等協力者の状況

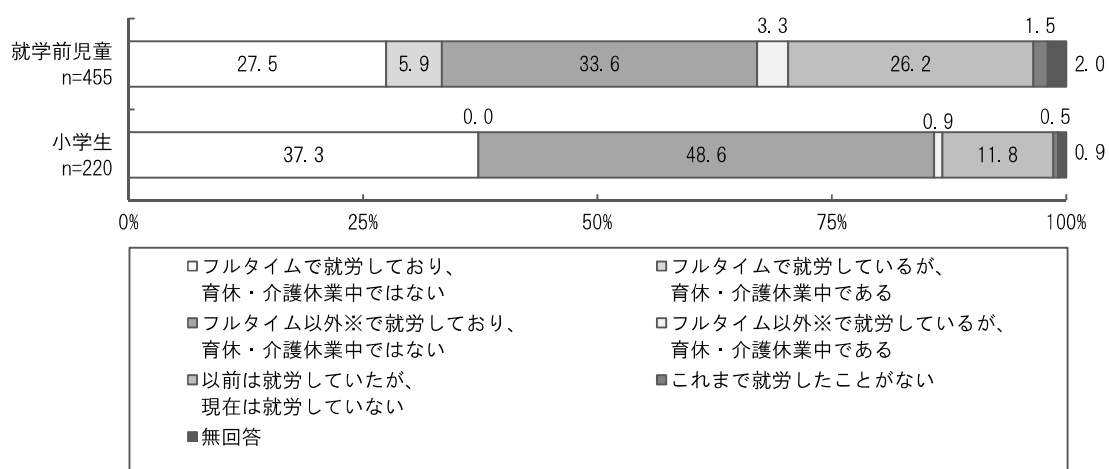


2 主な保育者とその就労状況

(1) 母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で70.3%、小学生で86.8%となっています。そのうち産休・育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で9.2%、小学生では0.9%となっています。

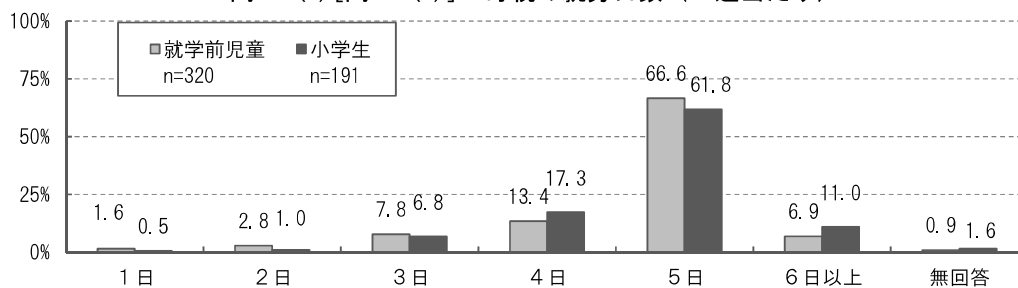
問8(1) [問8(1)] 母親の就労状況



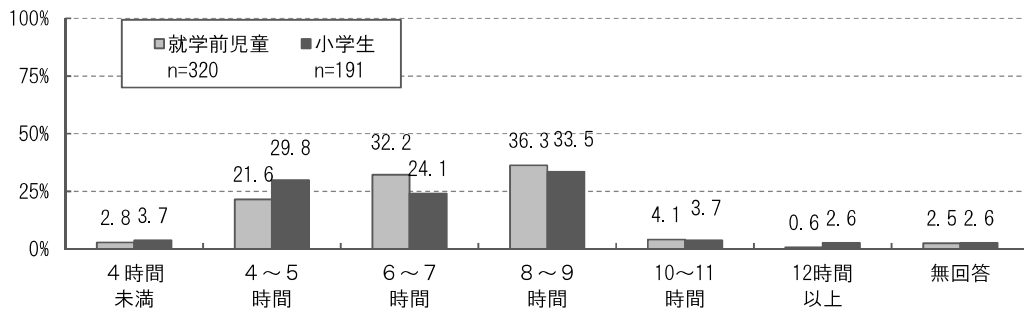
※正社員・アルバイト等の雇用形態に関わらず、通常時の勤務シフトで週40時間未満の就労であれば、「フルタイム以外」とします。

○就労日数と就労時間をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」（就学前児童66.6%・小学生61.8%）、「8～9時間」（就学前児童36.3%・小学生33.5%）と回答した割合が最も高くなっています。

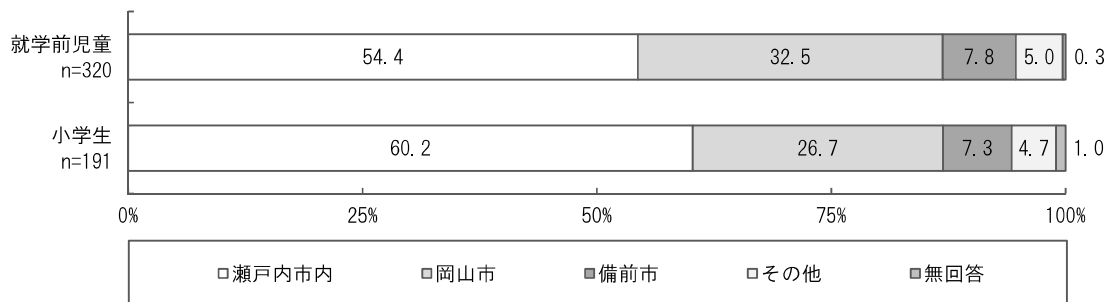
問8-1(1) [問8-1(1)] 母親の就労日数（1週当たり）



問8-1(1) [問8-1(1)] 母親の就労時間（1日当たり）

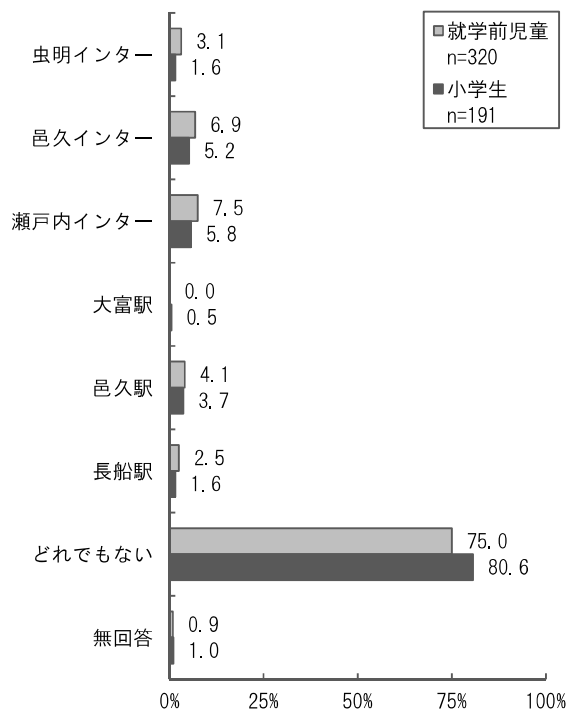


問8-2(1) [問8-2(1)] 勤務地

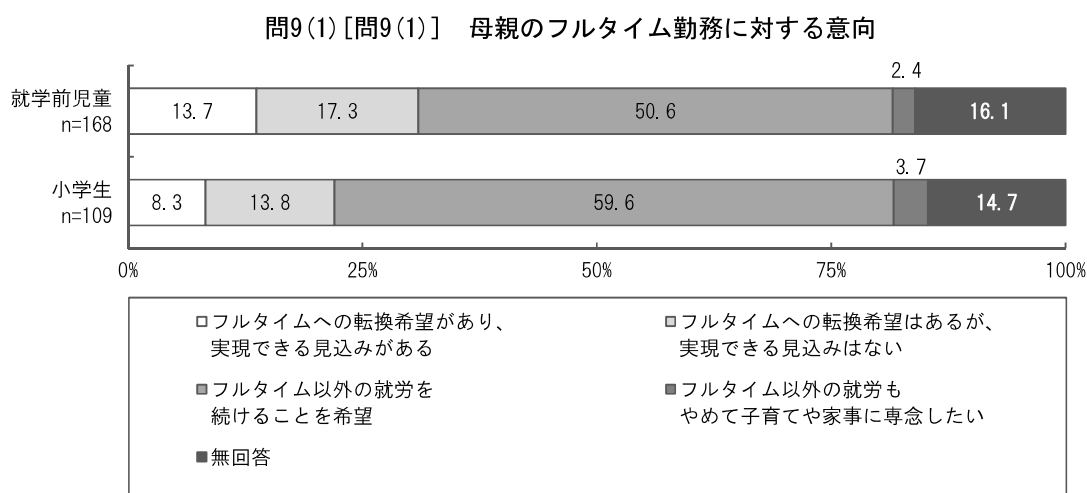


○通勤に使用している最寄りのインターや駅については、就学前児童・小学生ともに「どれでもない」（就学前児童75.0%・小学生80.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

問8-3(1) [問8-3(1)] 通勤に使用している最寄りのインター・駅



○「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせた「フルタイムへの転換希望」がある母親は、就学前児童で31.0%、小学生で22.1%となっています。



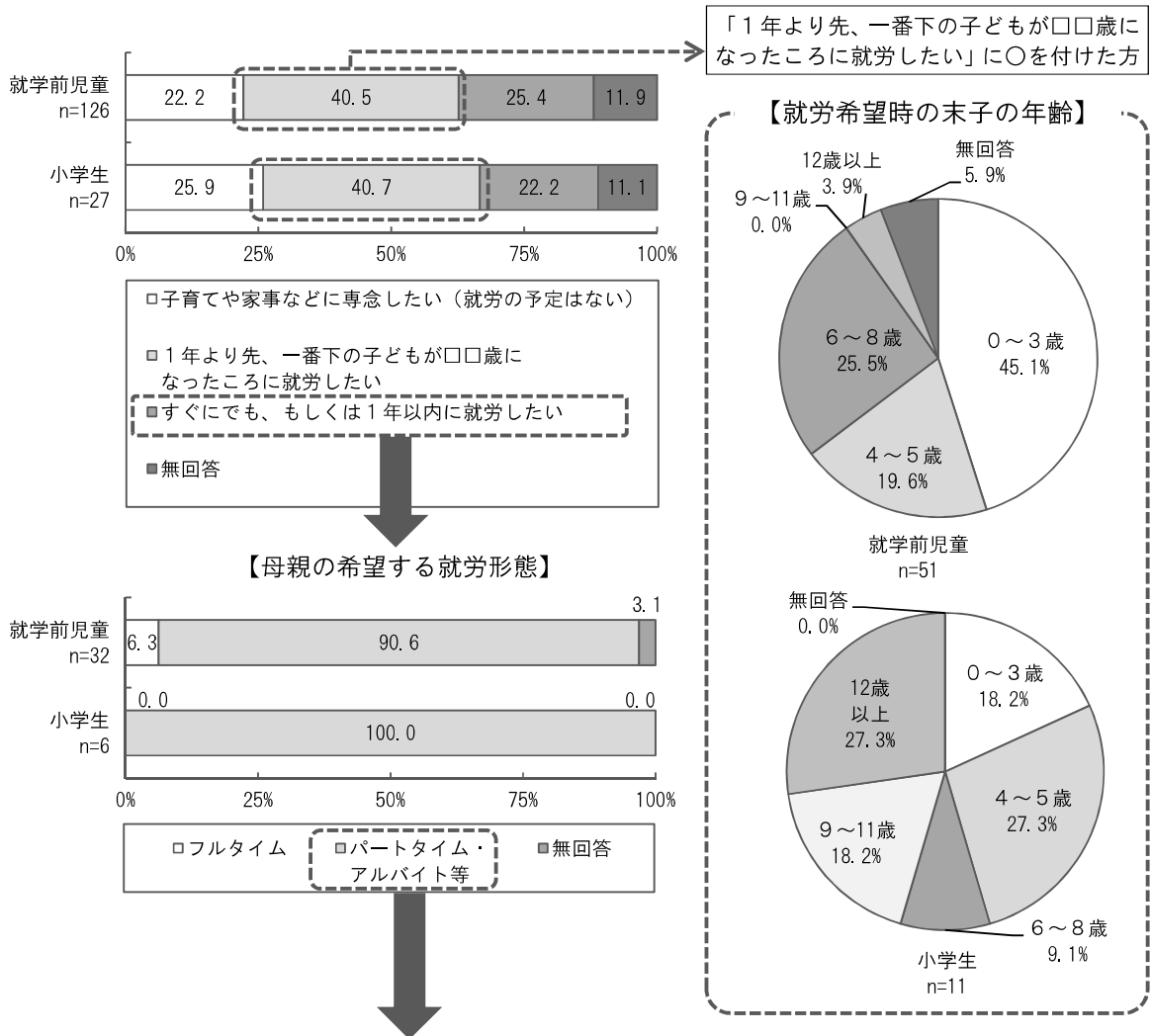
○現在は就労していないが今後の就労希望がある就学前児童の母親は65.9%（「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい（40.5%）」＋「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい（25.4%）」）となっています。「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」母親が希望する就労時期の子どもの年齢は「0～3歳」（45.1%）と回答した割合が最も高くなっています。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」母親が希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」（90.6%）、「フルタイム」（6.3%）となっています。

○現在は就労していないが今後の就労希望がある小学生の母親は62.9%（「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい（40.7%）」＋「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい（22.2%）」）となっています。「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」母親が希望する就労時期の子どもの年齢は「4～5歳」「12歳以上」（各27.3%）と回答した割合が最も高くなっています。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」母親が希望する就労形態は6名全員が「パートタイム、アルバイト等」となっています。

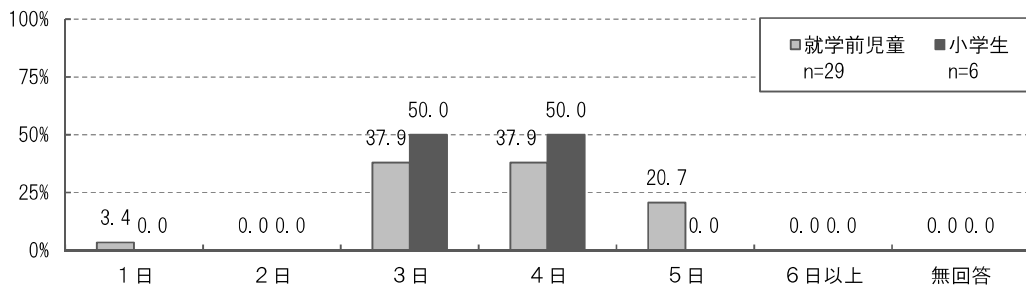
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数をみると、就学前児童・小学生ともに「3日」「4日」（就学前児童37.9%・小学生50.0%）の割合が最も高くなっています。

○希望就労時間は、就学前児童・小学生ともに「4～5時間」（就学前児童69.0%・小学生83.3%）の割合が最も高く、次いで「6～7時間」（就学前児童27.6%・小学生16.7%）となっています。

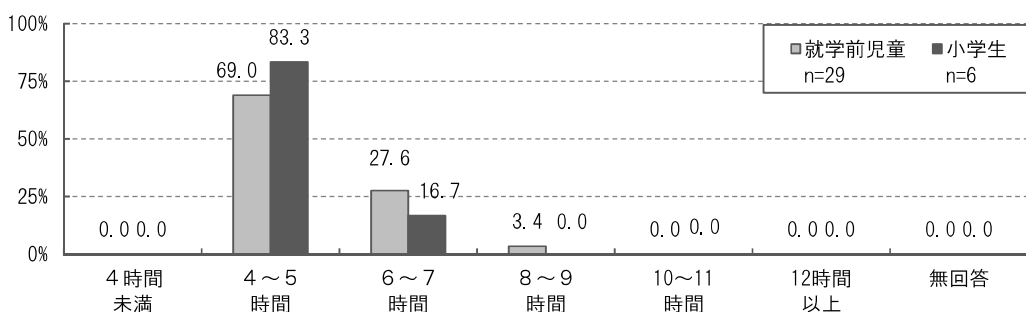
問10(1) [問10(1)] 就労していない母親の今後の就労意向



問10(1)② [問10(1)②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数（1週当たり）

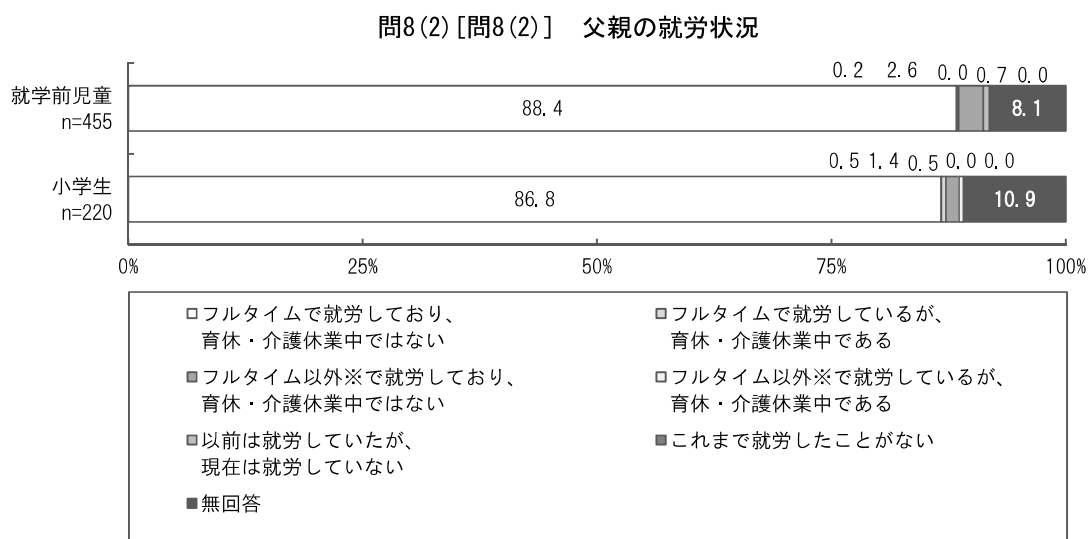


問10(1)② [問10(1)②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間（1日当たり）



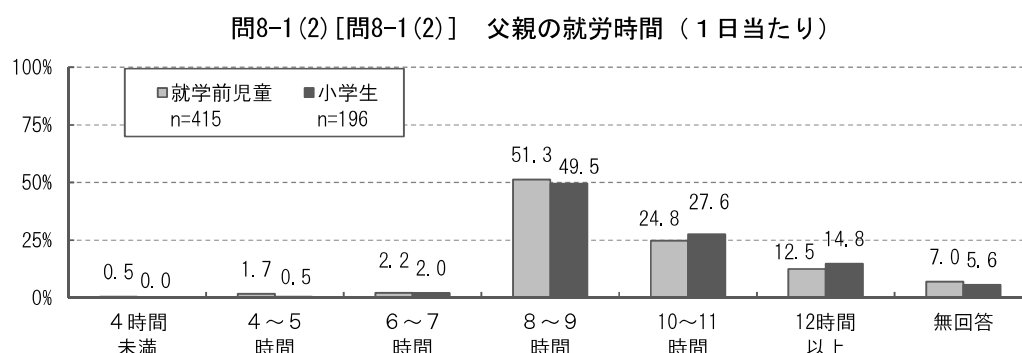
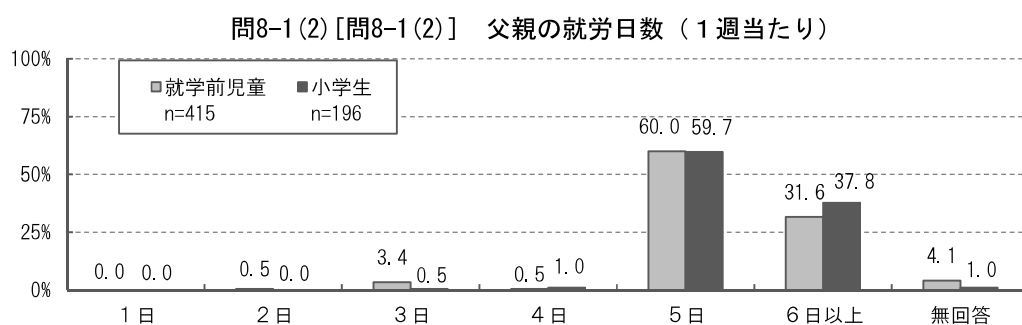
(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で91.2%、小学生で89.2%となっています。そのうち産休・育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で0.2%、小学生では1.0%となっています。



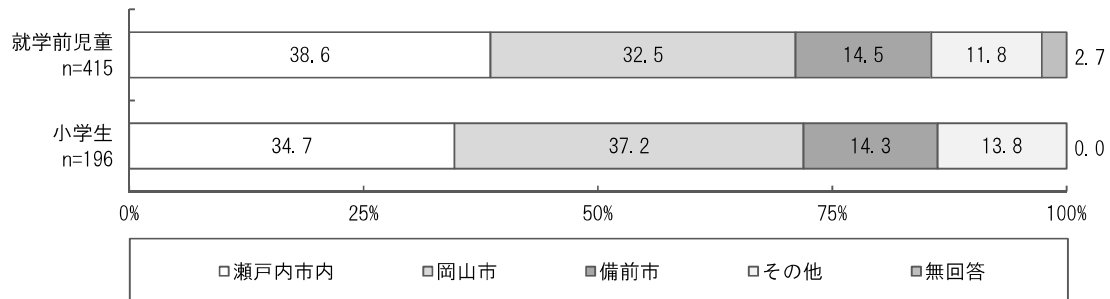
※正社員・アルバイト等の雇用形態に関わらず、通常時の勤務シフトで週40時間未満の就労であれば、「フルタイム以外」とします。

○就労日数と就労時間をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」（就学前児童60.0%・小学生59.7%）、「8～9時間」（就学前児童51.3%・小学生49.5%）と回答した割合が最も高くなっています。



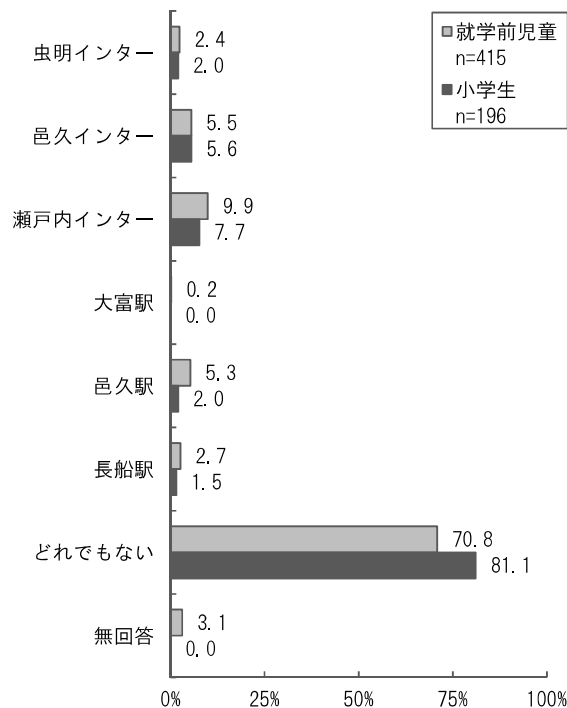
○勤務地は就学前児童が「瀬戸内市内」(38.6%)、小学生が「岡山市」(37.2%)と回答した割合が最も高くなっています。

問8-2(2) [問8-2(2)] 勤務地



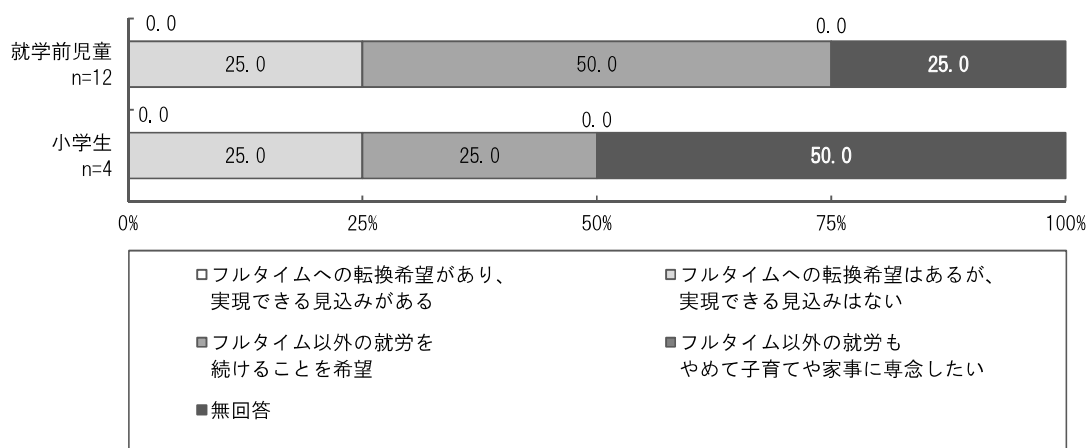
○通勤に使用している最寄りのインターや駅については、就学前児童・小学生ともに「どれでもない」(就学前児童70.8%・小学生81.1%)と回答した割合が最も高く、次いで「瀬戸内インター」(就学前児童9.9%・小学生7.7%)となっています。

問8-3(2) [問8-3(2)] 通勤に使用している最寄りのインター・駅

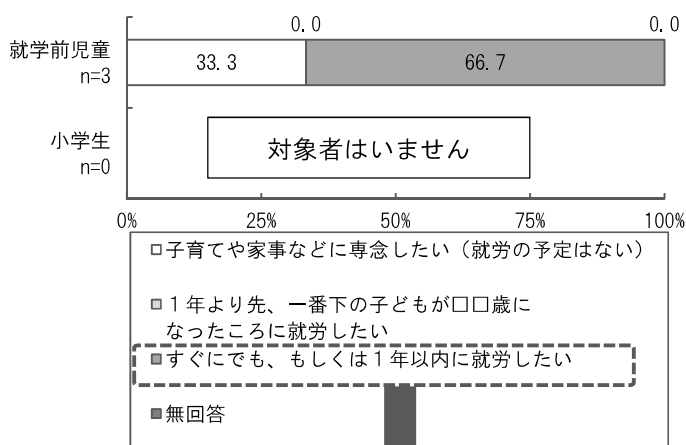


○「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせた「フルタイムへの転換希望」がある父親は、就学前児童・小学生ともに25.0%となっています。

問9(2) [問9(2)] 父親のフルタイム勤務に対する意向



問10(2) [問10(2)] 就労していない父親の今後の就労意向

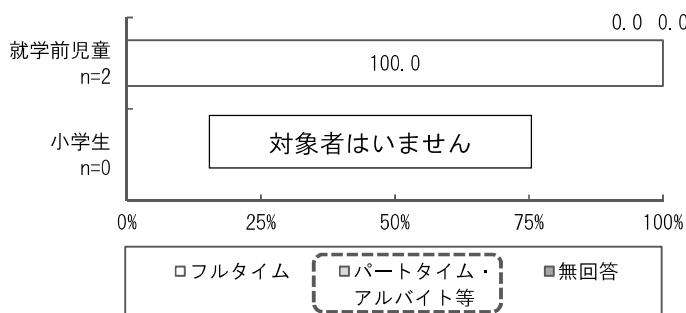


「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」に○を付けた方

【就労希望時の末子の年齢】

就学前児童・小学生ともに対象者はいません

【父親の希望する就労形態】



就学前児童・小学生ともに対象者はいません

第3章

子育て支援サービスの現状と 今後の利用希望

第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

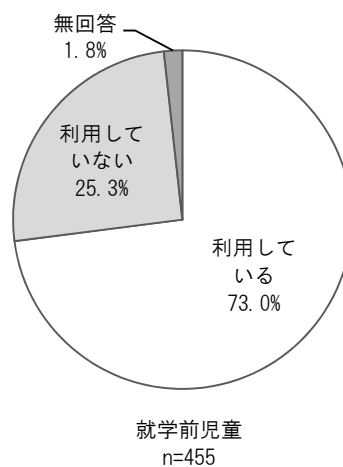
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業

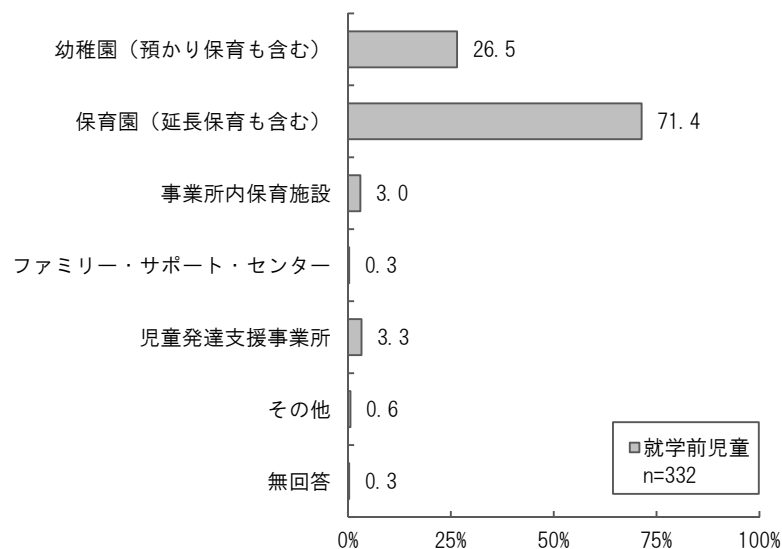
○定期的な教育・保育事業を「利用している」方は73.0%となっています。

○利用中の事業をみると、「保育園（延長保育も含む）」（71.4%）と回答した割合が最も高く、次いで「幼稚園（預かり保育も含む）」（26.5%）となっています。

問11 定期的な教育・保育事業の利用状況



問11-1 定期的な教育・保育事業の利用状況



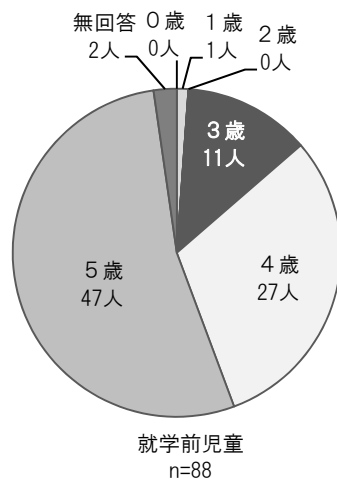
① 幼稚園（預かり保育も含む）利用者の状況

○幼稚園（預かり保育も含む）を利用していると回答した88人の年齢の内訳は以下の通りです。

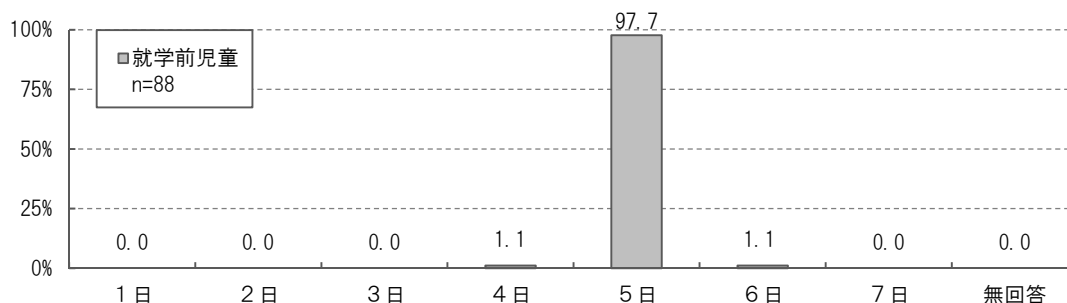
○利用日数をみると、「5日」（97.7%）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用時間をみると、「5時間」「6時間」（各37.5%）と回答した割合が最も高くなっています。

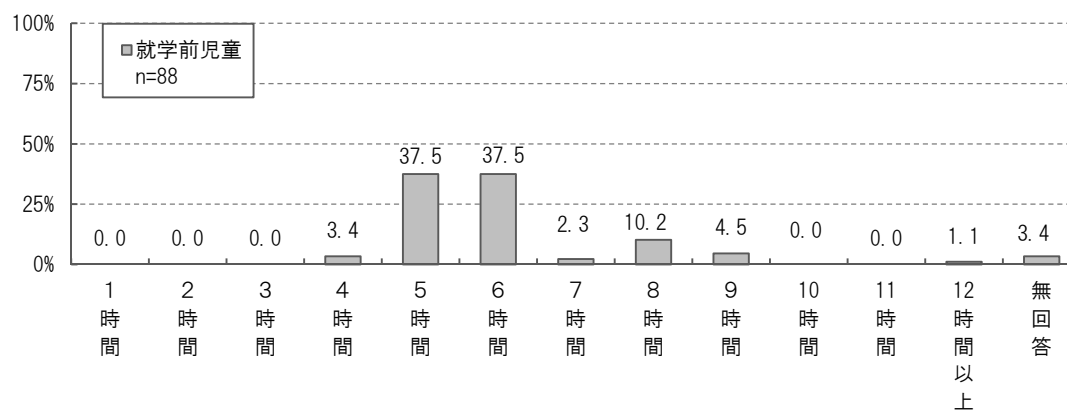
問11-1.1 幼稚園の年齢別利用者数



問11-1.1 幼稚園の利用日数（1週当たり）



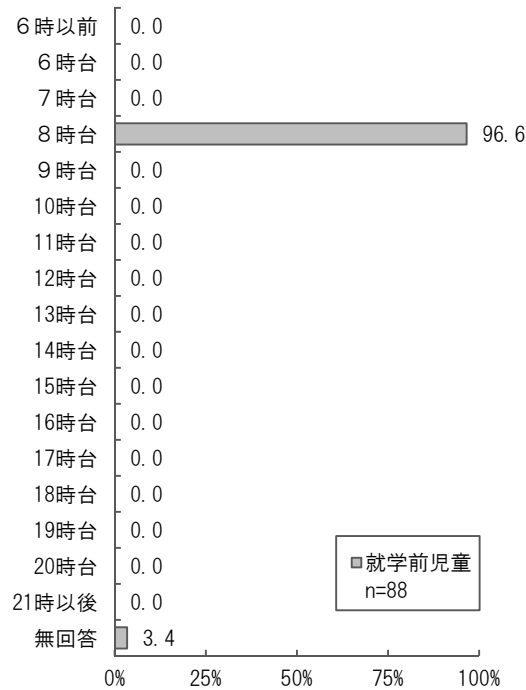
問11-1.1 幼稚園の利用時間（1日当たり）



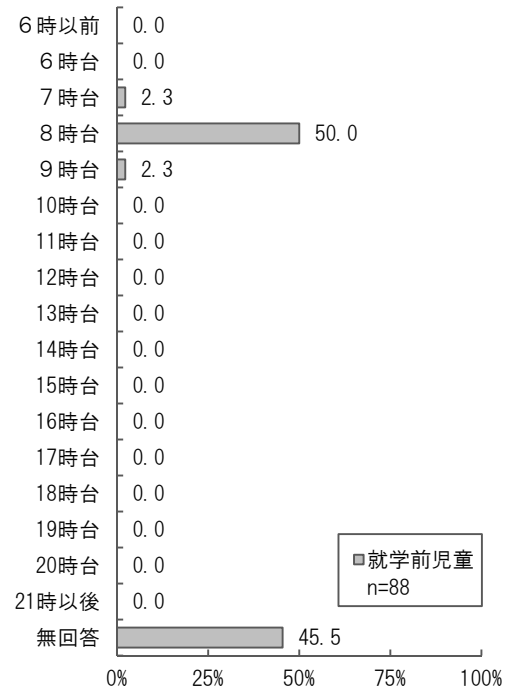
○利用開始時間・希望開始時間ともに「8時台」（利用開始時間96.6%・希望開始時間50.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用終了時間では「13時台～14時台」、希望終了時間では「14時台～15時台」と回答した割合が高くなっています。

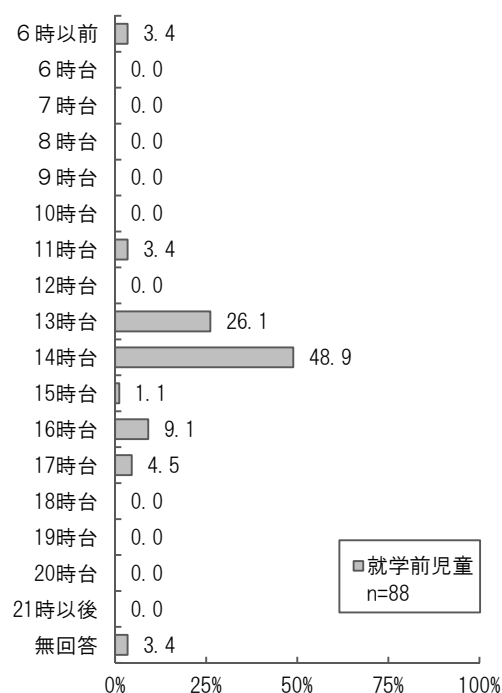
問11-1.1(1) 利用開始時間



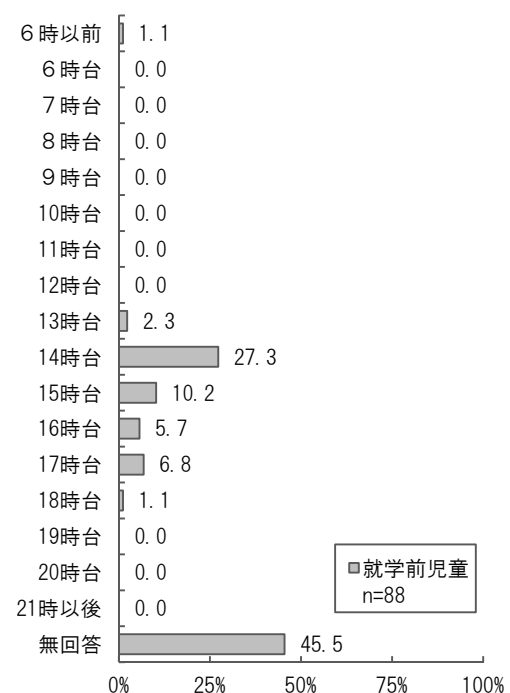
問11-1.1(2) 希望開始時間



問11-1.1(1) 利用終了時間



問11-1.1(2) 希望終了時間



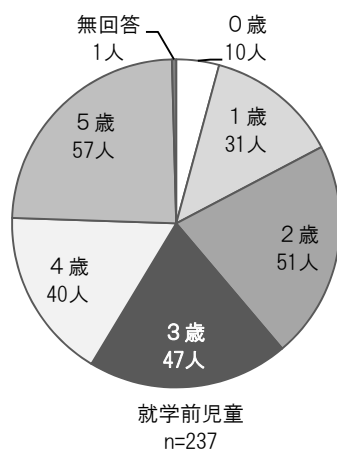
② 保育園（延長保育も含む）利用者の状況

○保育園（延長保育も含む）を利用していると回答した237人の年齢の内訳は以下の通りです。

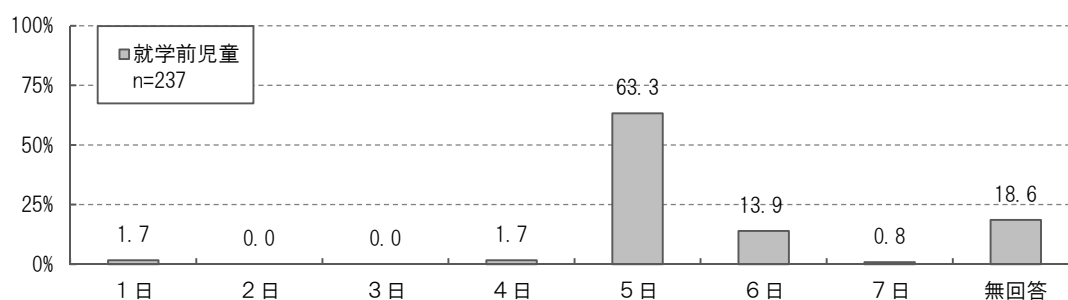
○利用日数をみると、「5日」（63.3%）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用時間をみると、「9時間」（26.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

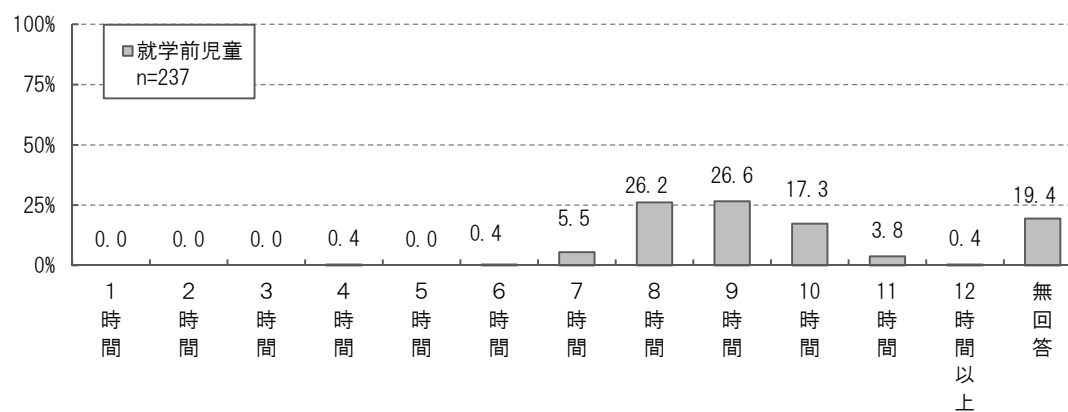
問11-1.2 保育園（延長保育も含む）の年齢別利用者数



問11-1.2 保育園（延長保育も含む）の利用日数（1週当たり）



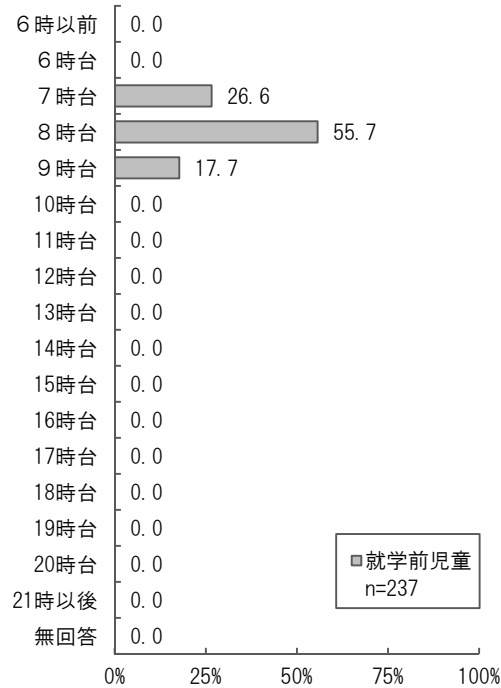
問11-1.2 保育園（延長保育も含む）の利用時間（1日当たり）



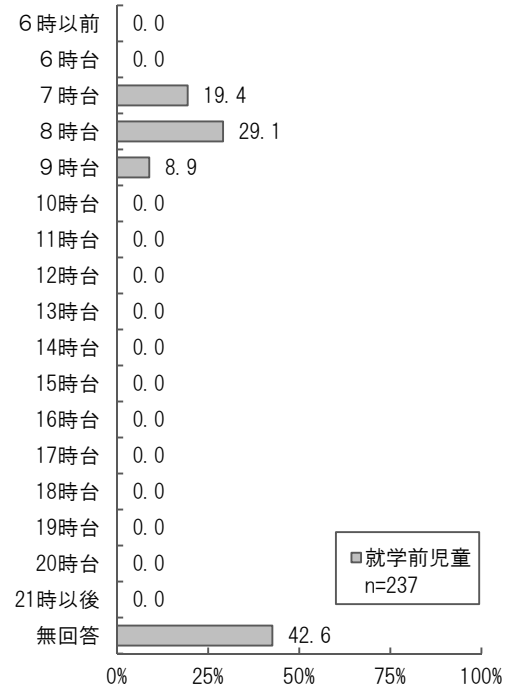
○利用開始時間・希望開始時間ともに「8時台」（利用開始時間55.7%・希望開始時間29.1%）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用終了時間・希望終了時間ともに「16時台～18時台」と回答した割合が高くなっています。

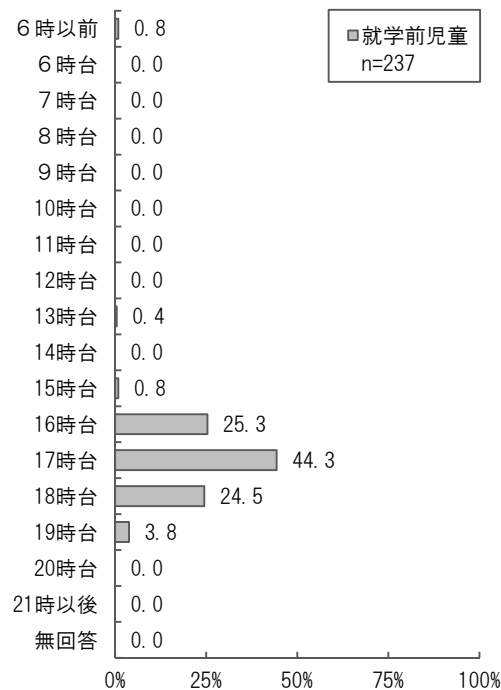
問11-1.2(1) 利用開始時間



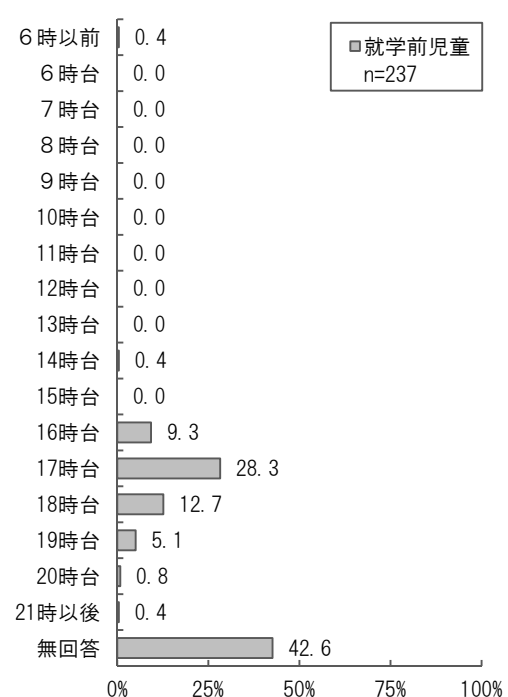
問11-1.2(2) 希望開始時間



問11-1.2(1) 利用終了時間



問11-1.2(2) 希望終了時間



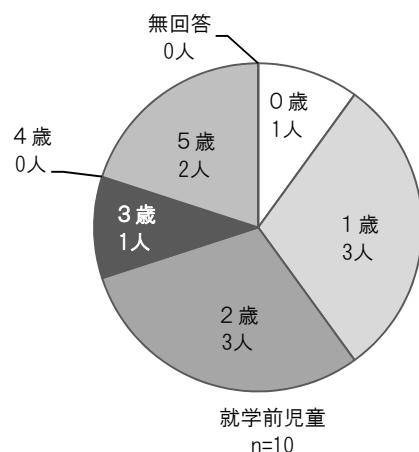
③ 事業所内保育施設利用者の状況

○事業所内保育施設を利用していると回答した10人の年齢の内訳は以下の通りです。

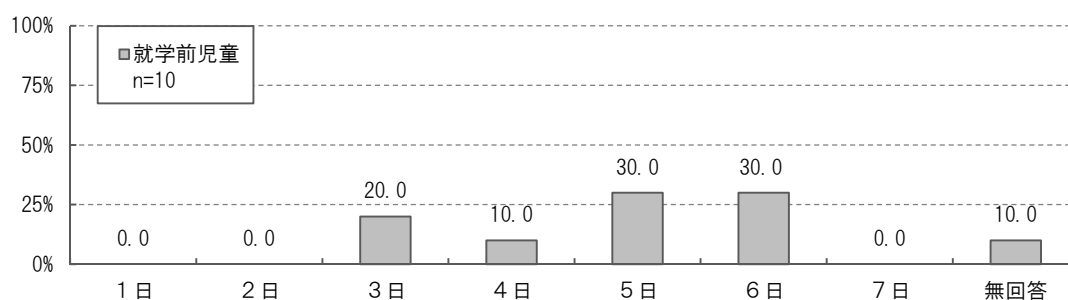
○利用日数をみると、「5日」「6日」（各30.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用時間をみると、「8時間」（40.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

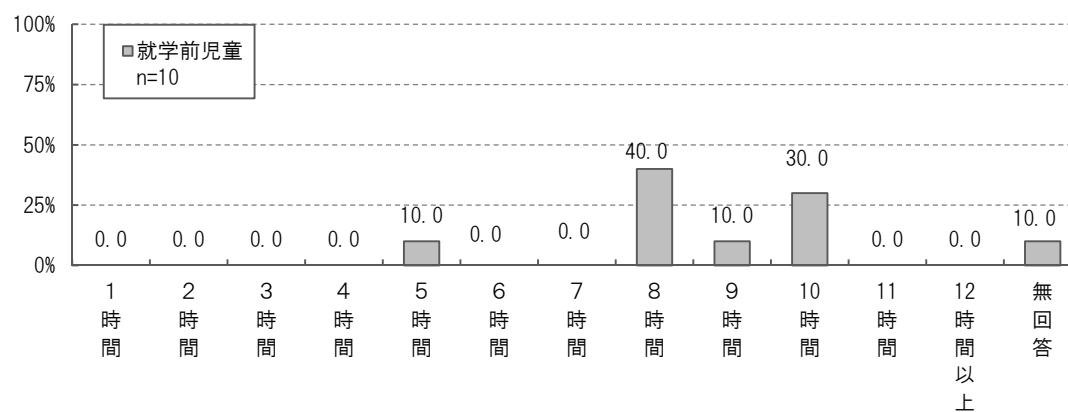
問11-1.3 事業所内保育施設の年齢別利用者数



問11-1.3 事業所内保育施設の利用日数（1週当たり）



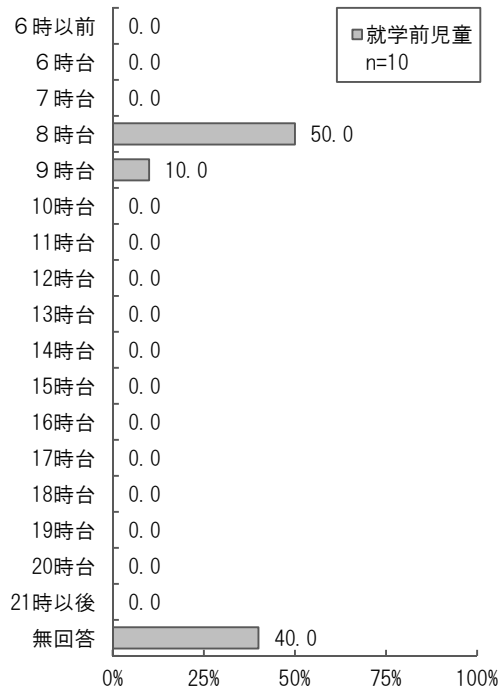
問11-1.3 事業所内保育施設の利用時間（1日当たり）



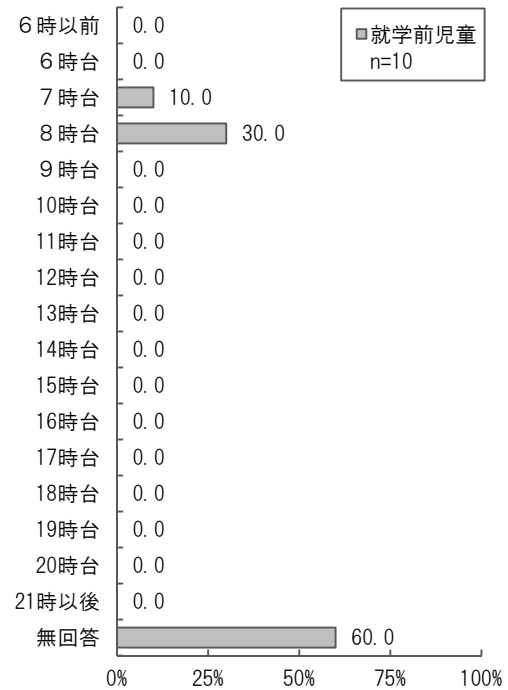
○利用開始時間・希望開始時間ともに「8時台」（利用開始時間50.0%・希望開始時間30.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用終了時間では「16時台」「18時台」が、希望終了時間では「18時台」と回答した割合が高くなっています。

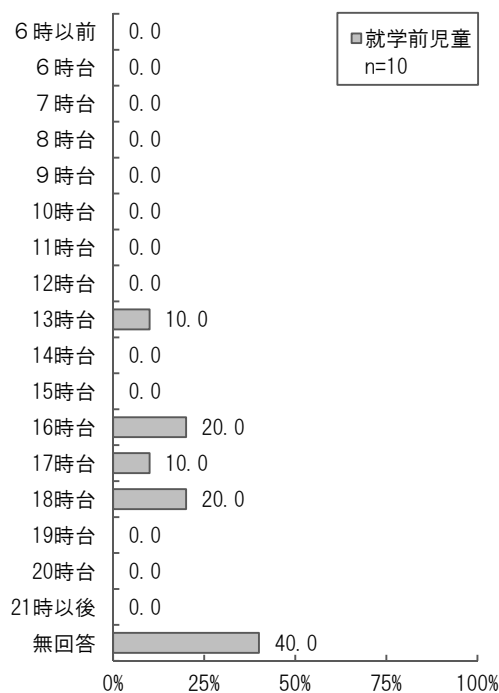
問11-1.3(1) 利用開始時間



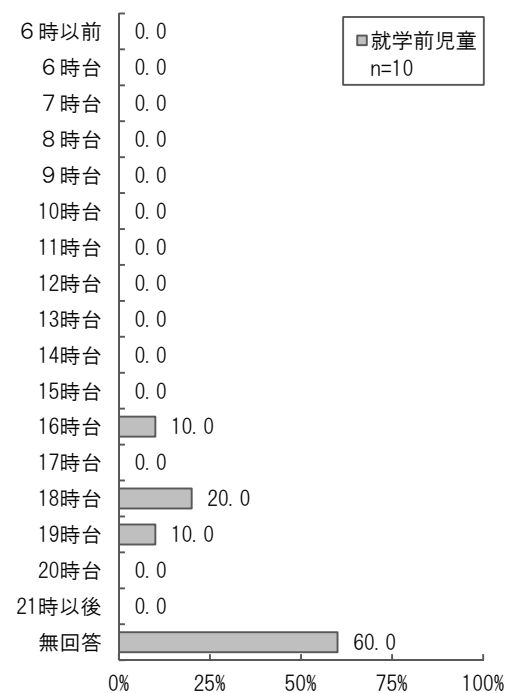
問11-1.3(2) 希望開始時間



問11-1.3(1) 利用終了時間



問11-1.3(2) 希望終了時間

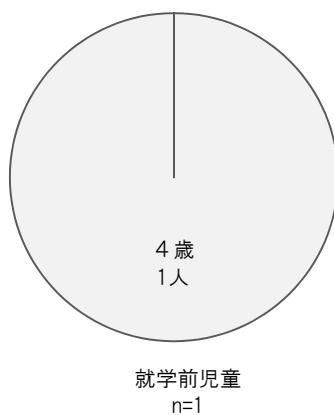


④ ファミリーサポートセンター利用者の状況

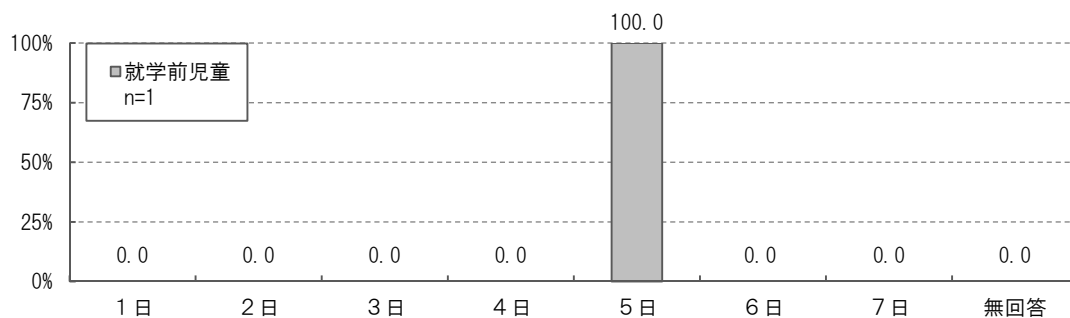
○ファミリーサポートセンターを利用していると回答した方は1人でした。

○利用日数は「5日」、利用時間は「1時間」と回答しています。

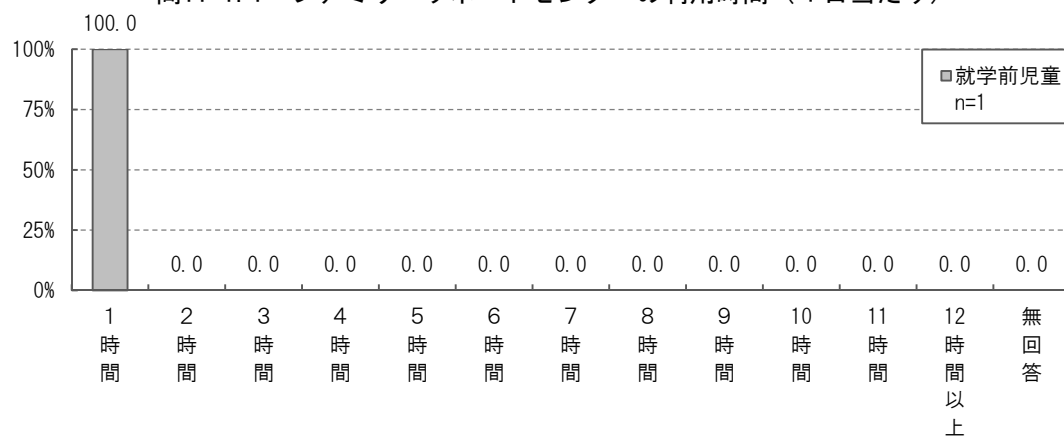
問11-1.4 ファミリーサポートセンターの年齢別利用者数



問11-1.4 ファミリーサポートセンターの利用日数（1週当たり）



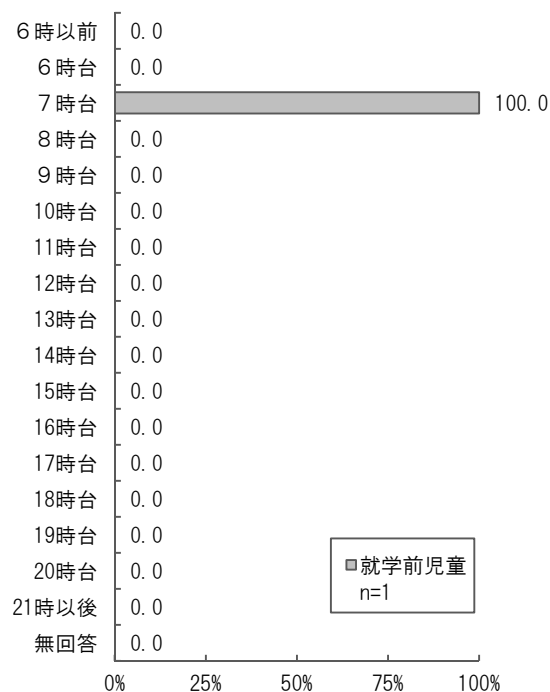
問11-1.4 ファミリーサポートセンターの利用時間（1日当たり）



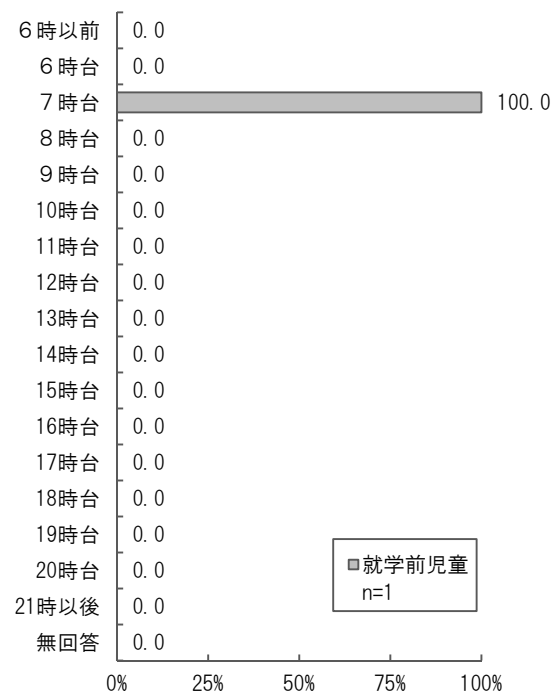
○利用開始時間・希望開始時間ともに「7時台」と回答しています。

○利用終了時間・希望終了時間ともに「8時台」と回答しています。

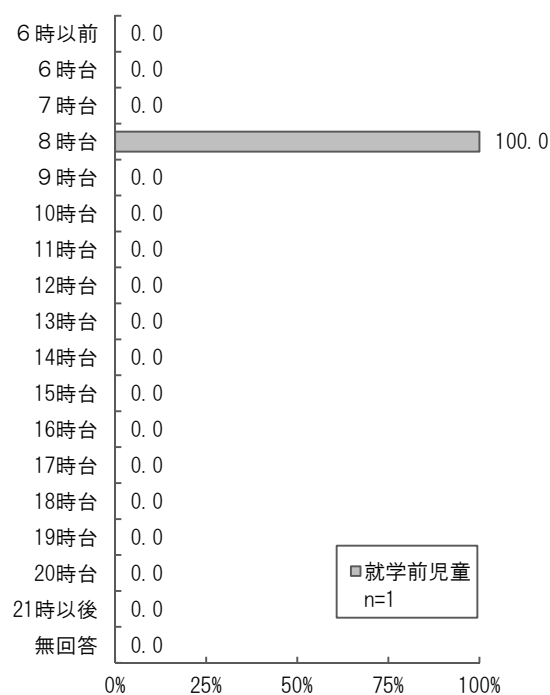
問11-1.4(1) 利用開始時間



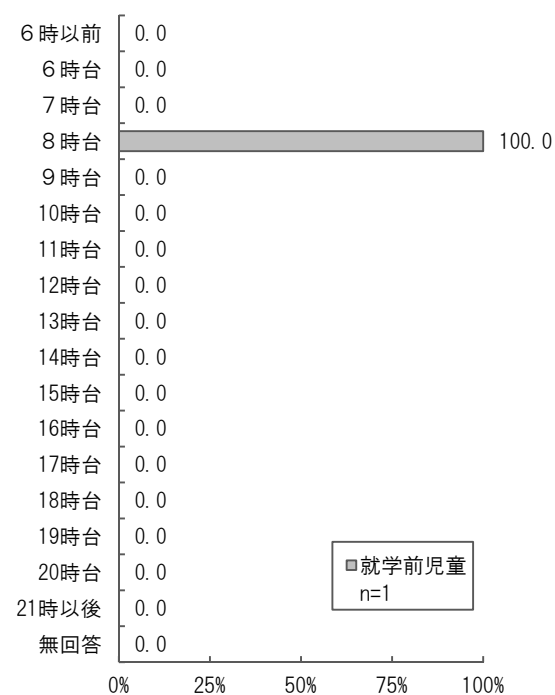
問11-1.4(2) 希望開始時間



問11-1.4(1) 利用終了時間



問11-1.4(2) 希望終了時間



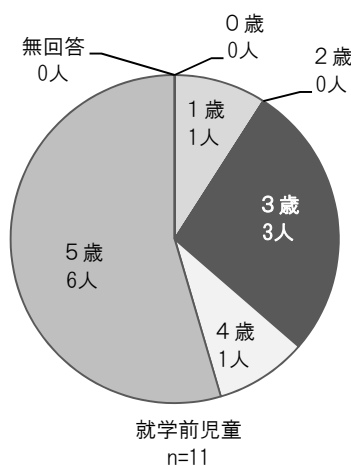
⑤ 児童発達支援事業所利用者の状況

○児童発達支援事業所を利用していると回答した11人の年齢の内訳は以下の通りです。

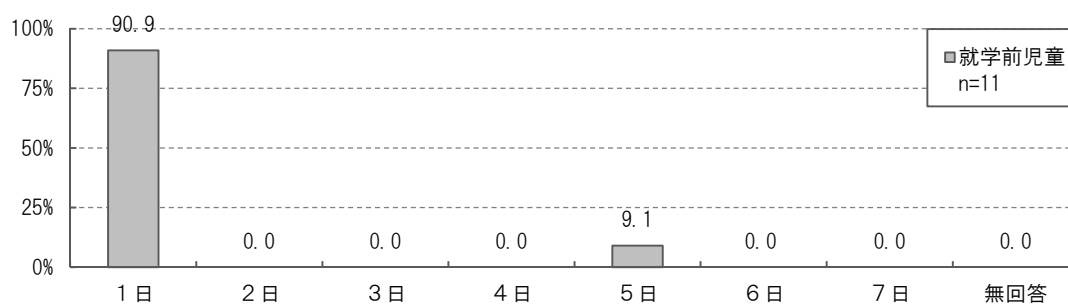
○利用日数をみると、「1日」(90.9%)と回答した割合が最も高くなっています。

○利用時間をみると、「2時間」(72.7%)と回答した割合が最も高くなっています。

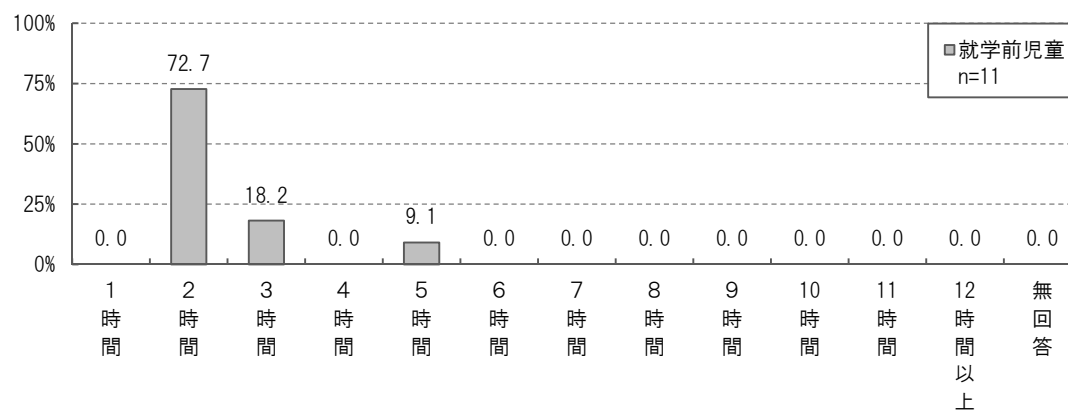
問11-1.5 児童発達支援事業所の年齢別利用者数



問11-1.5 児童発達支援事業所の利用日数（1週当たり）



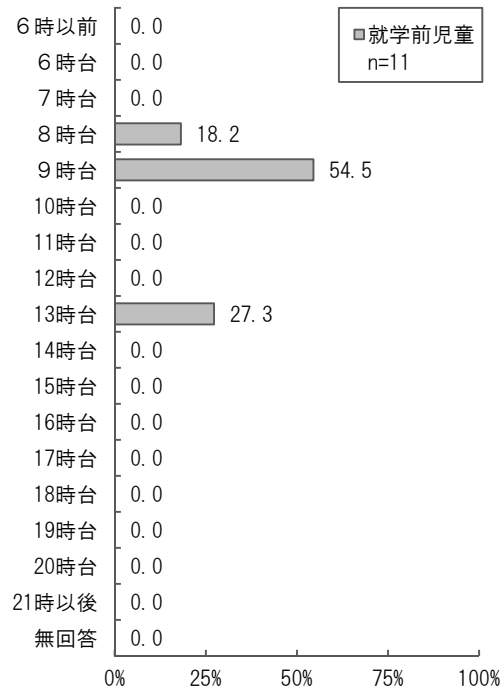
問11-1.5 児童発達支援事業所の利用時間（1日当たり）



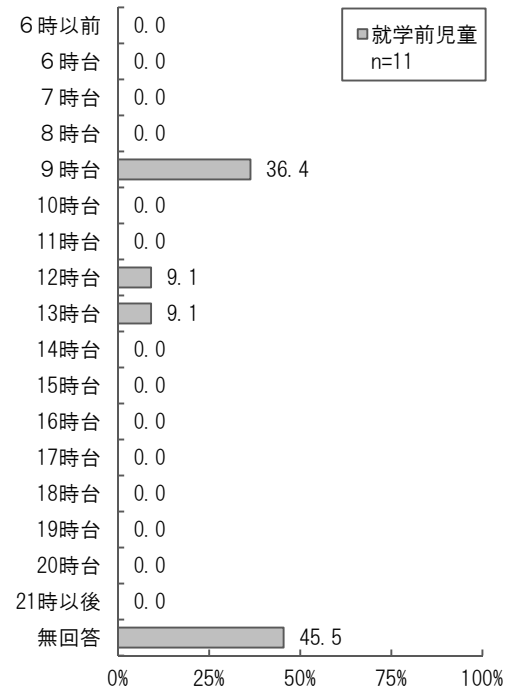
○利用開始時間・希望開始時間ともに「9時台」（利用開始時間54.5％・希望開始時間36.4％）と回答した割合が最も高くなっています。

○利用終了時間・希望終了時間ともに「11時台」（利用終了時間63.6％・希望終了時間27.3％）と回答した割合が最も高くなっています。

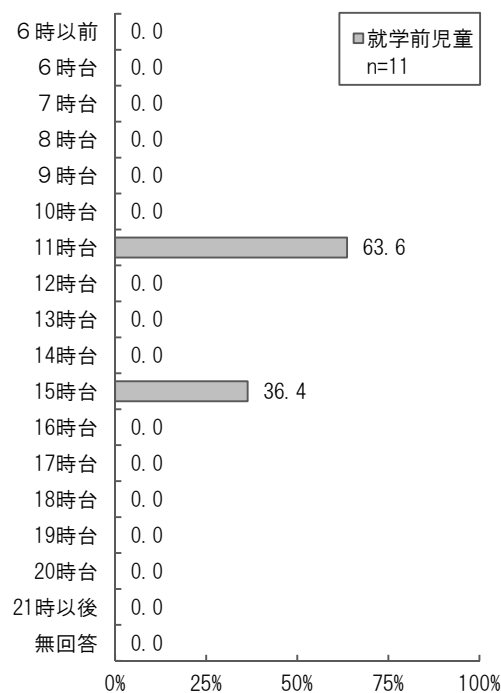
問11-1.5(1) 利用開始時間



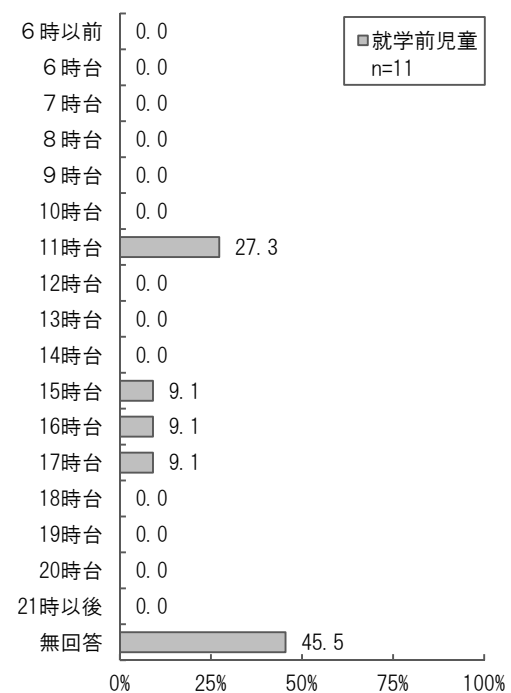
問11-1.5(2) 希望開始時間



問11-1.5(1) 利用終了時間



問11-1.5(2) 希望終了時間

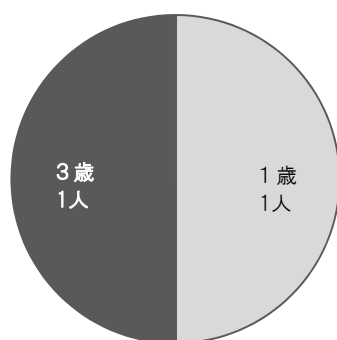


⑥ その他の事業利用者の状況

○その他の事業を利用していると回答した方は2人でした。

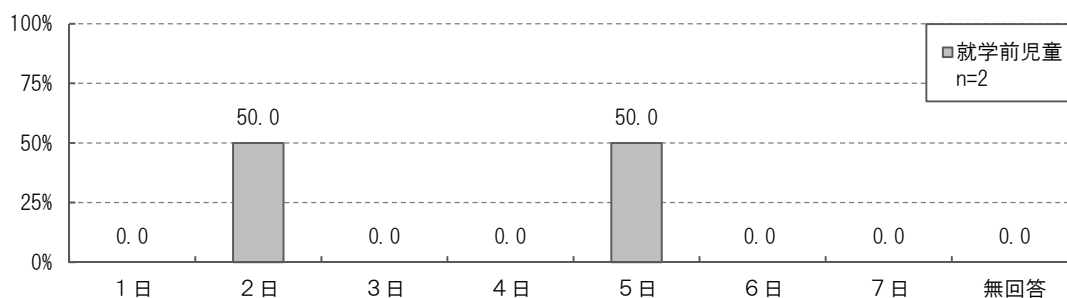
○利用日数では「2日」「5日」、利用時間では「4時間」「8時間」の回答がありました。

問11-1.6 その他の事業の年齢別利用者数

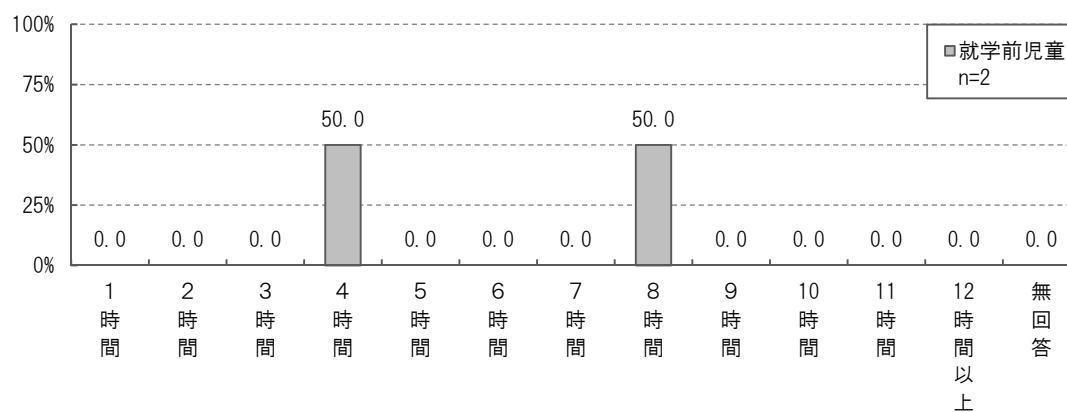


就学前児童
n=2

問11-1.6 その他の事業の利用日数（1週当たり）



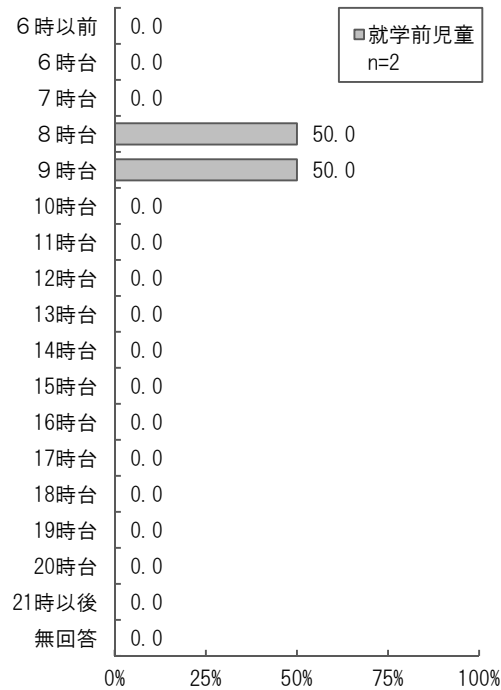
問11-1.6 その他の事業の利用時間（1日当たり）



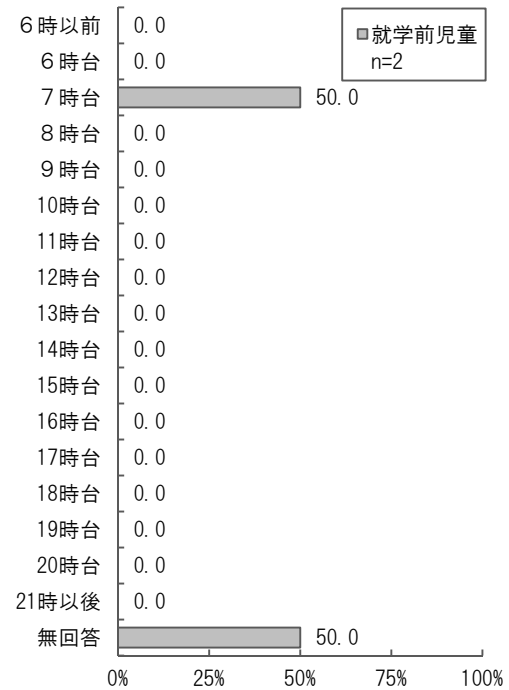
○利用開始時間では「8時台」「9時台」、希望開始時間では「7時台」と回答しています。

○利用終了時間では「13時台」「16時台」、希望終了時間では「17時台」と回答しています。

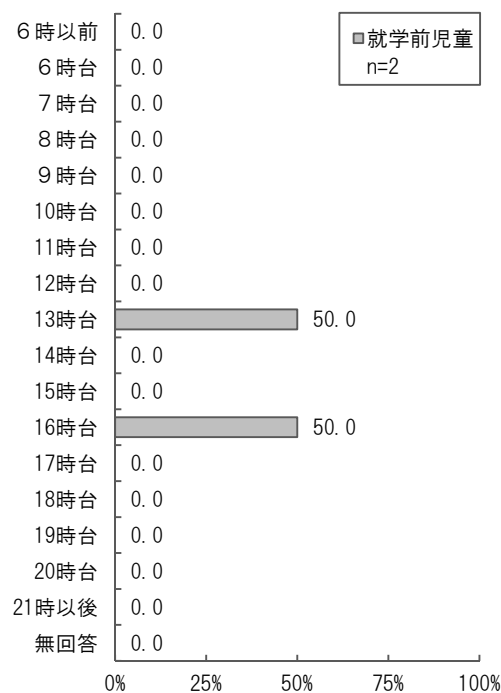
問11-1.6(1) 利用開始時間



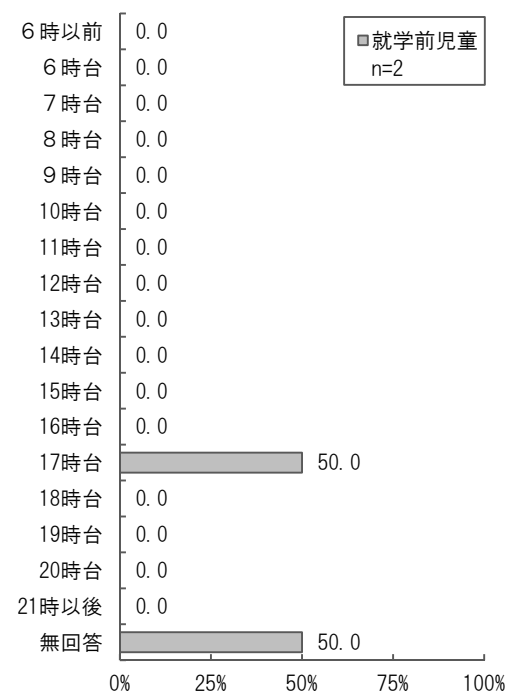
問11-1.6(2) 希望開始時間



問11-1.6(1) 利用終了時間



問11-1.6(2) 希望終了時間

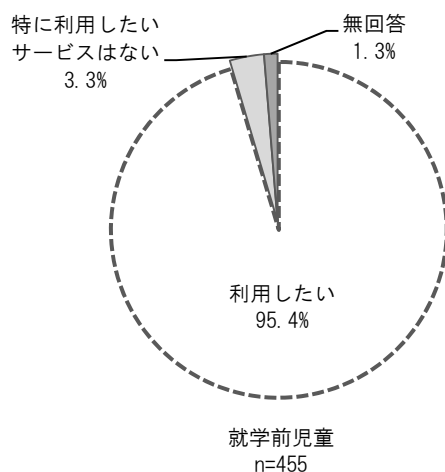


（２）今後の利用希望

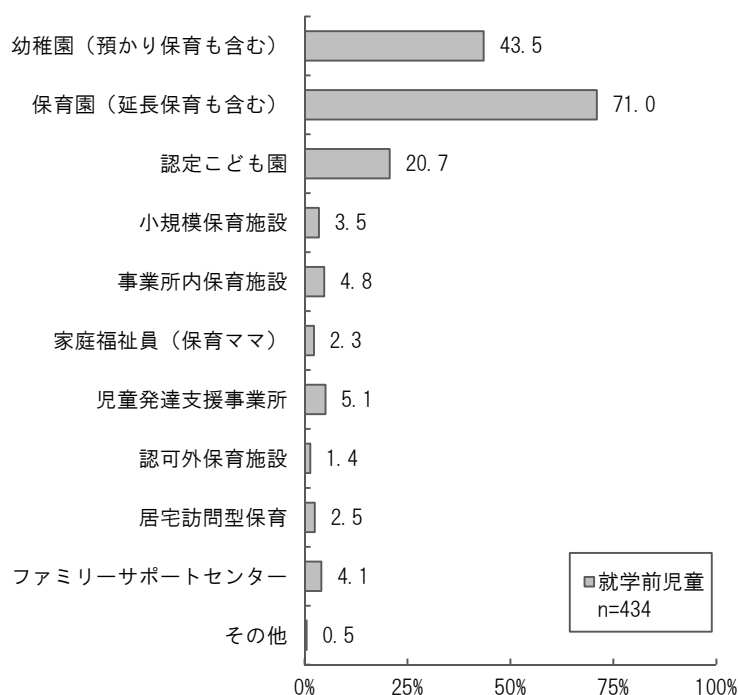
○定期的に利用したい事業の有無をみると、「利用したい」（95.4%）、「特に利用したいサービスはない」（3.3%）となっています。

○定期的に利用したい事業を個別にみると、「保育園（延長保育も含む）」（71.0%）、「幼稚園（預かり保育も含む）」（43.5%）と回答した割合が高くなっています。

問12 定期的に利用したい事業の有無

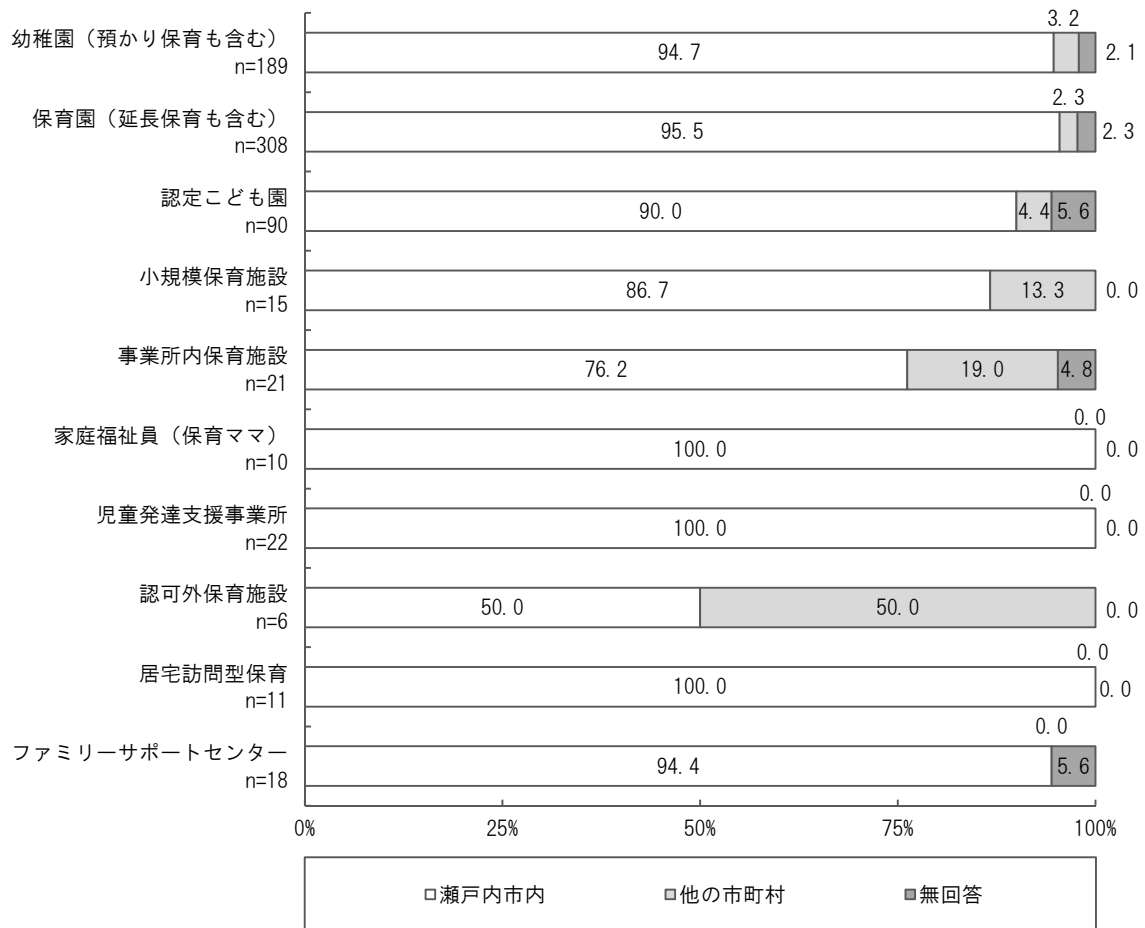


【利用したい事業】



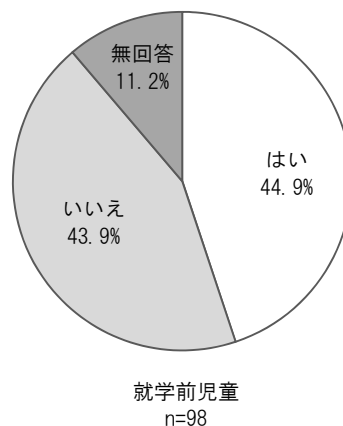
○定期的に利用したい事業の実施場所をみると、「瀬戸内市内」が大多数を占めています。

【利用したい事業の実施場所】



○幼稚園とそれ以外の教育・保育事業の利用を希望する方に対して、特に幼稚園の利用を強く希望するかでは、「はい」が44.9%、「いいえ」が43.9%となっています。

問12-1 特に幼稚園の利用を強く希望しているか



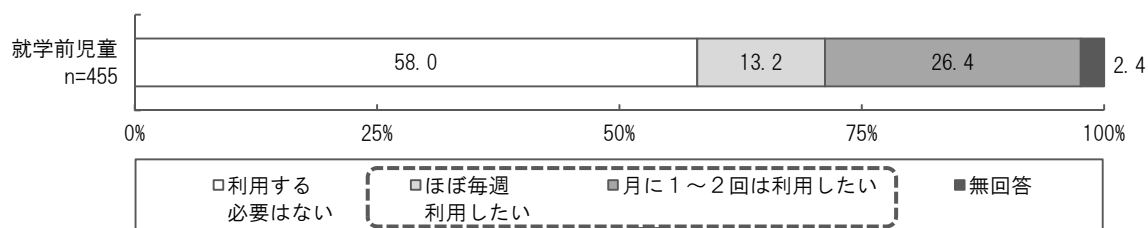
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

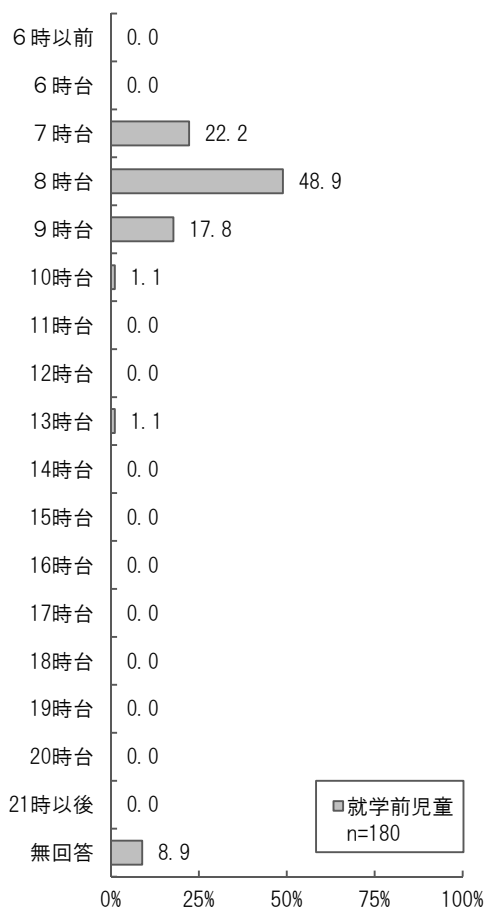
○土曜日の教育・保育事業の利用希望をみると、「ほぼ毎週利用したい」は13.2%、「月に1～2回は利用したい」は26.4%となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間は「7～9時台」が大半を占め、終了時間は「17時台～18時台」の希望割合が高くなっています。

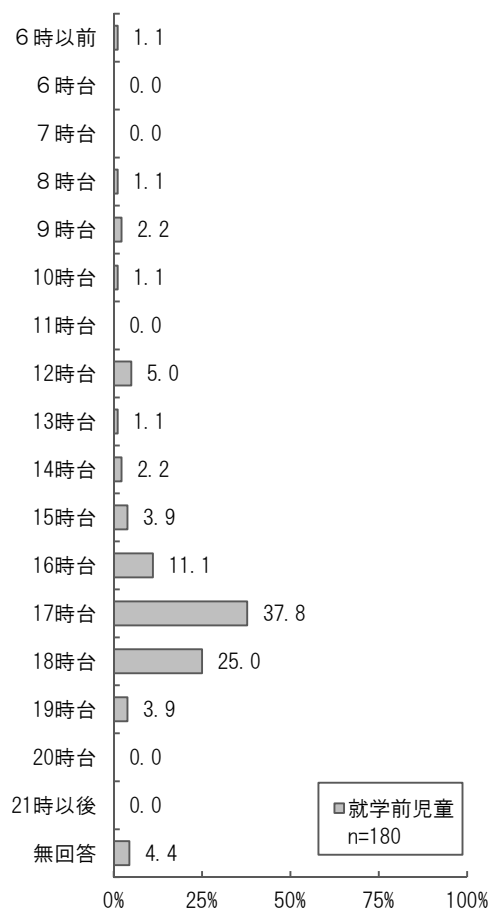
問16(1) 土曜日の利用希望



問16(1).1 希望開始時間



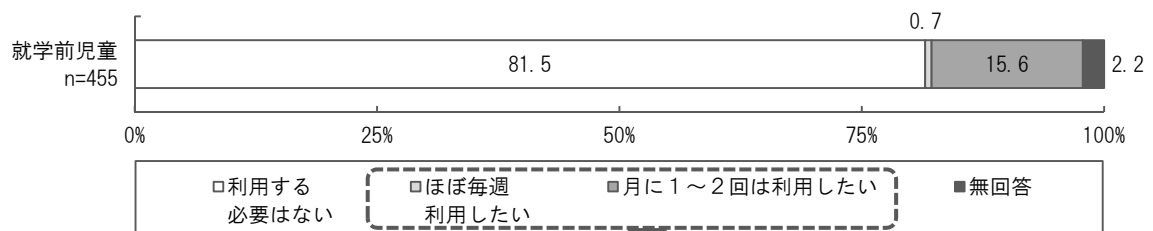
問16(1).1 希望終了時間



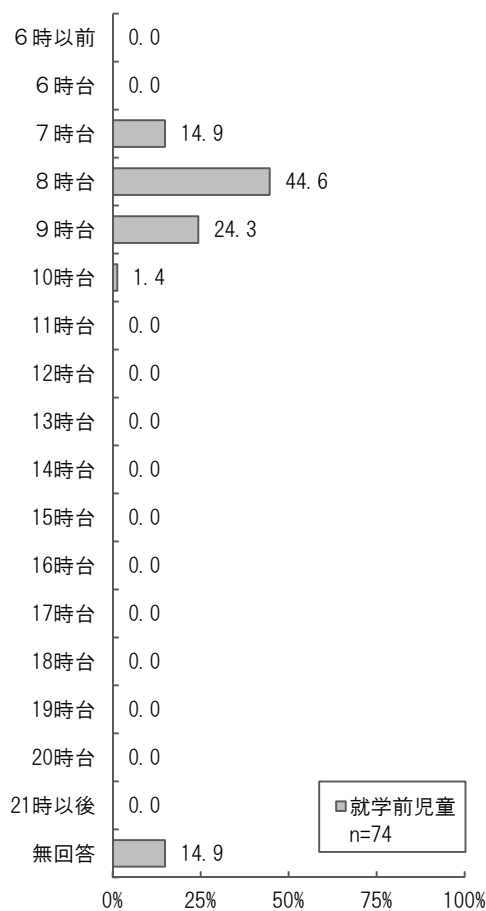
○日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が8割以上を占めるものの、「月に1～2回は利用したい」と約2割弱の方が希望しています。また、「ほぼ毎週利用したい」と定期的な利用を希望している方は0.7%に留まっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間は「7時台～9時台」が大半を占め、終了時間は「17時台～18時台」の希望割合が高くなっています。

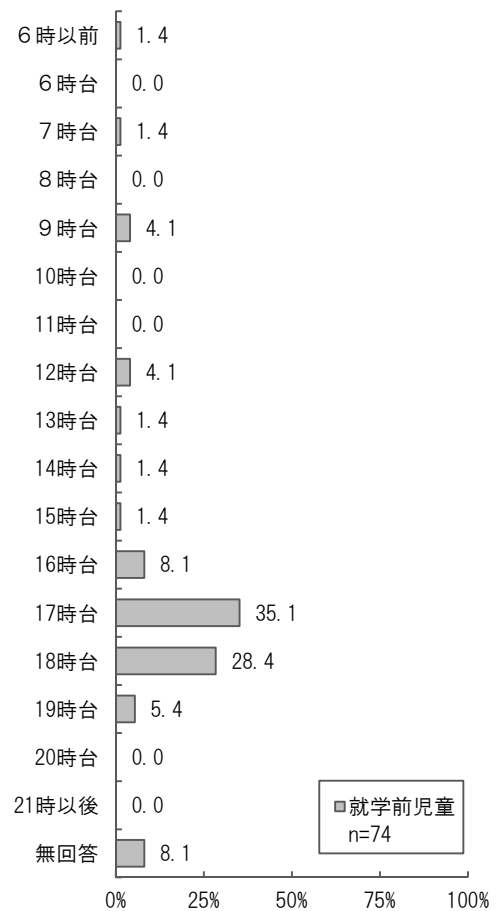
問16(2) 日曜・祝日の利用希望



問16(2).1 希望開始時間



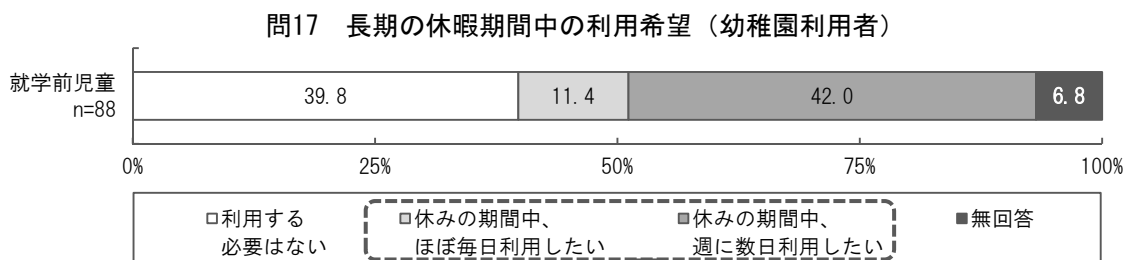
問16(2).1 希望終了時間



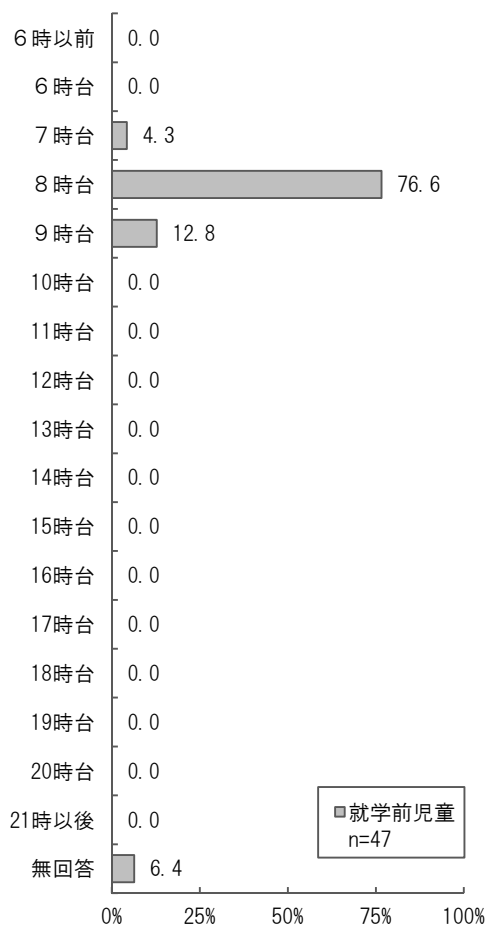
（２）長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

○長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が約４割いるものの、「休みの期間中、週に数日利用したい」（４２．０％）、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（１１．４％）と利用を希望している方が半数以上います。

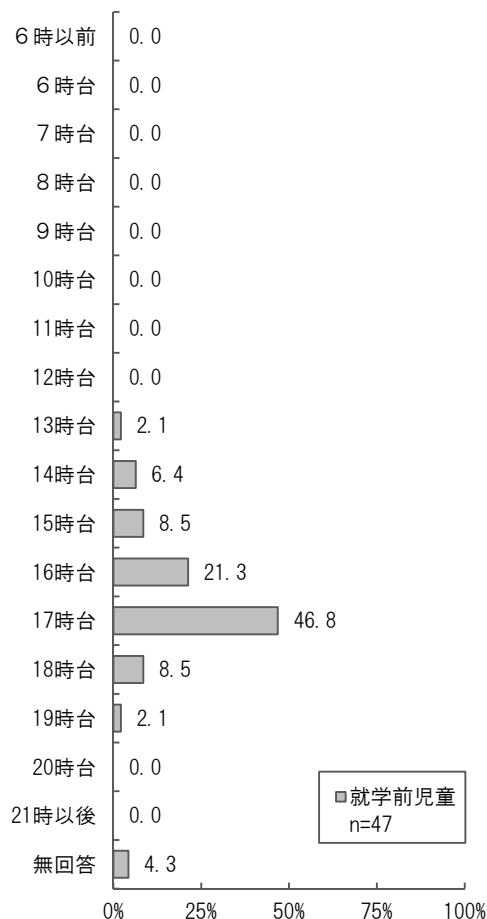
○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間は「８～９時台」が大半を占め、終了時間は「１６時台～１７時台」の希望割合が高くなっています。



問17.1 希望開始時間



問17.1 希望終了時間



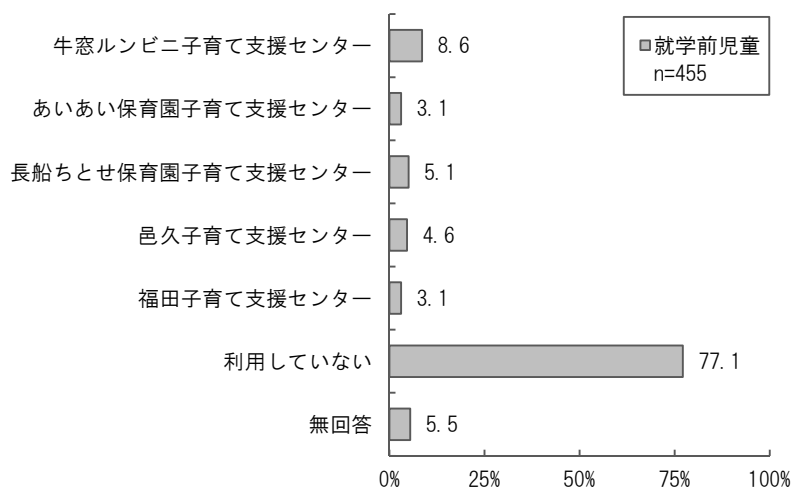
3 地域の子育て支援事業の利用状況

(1) 地域の子育て支援拠点事業の利用状況

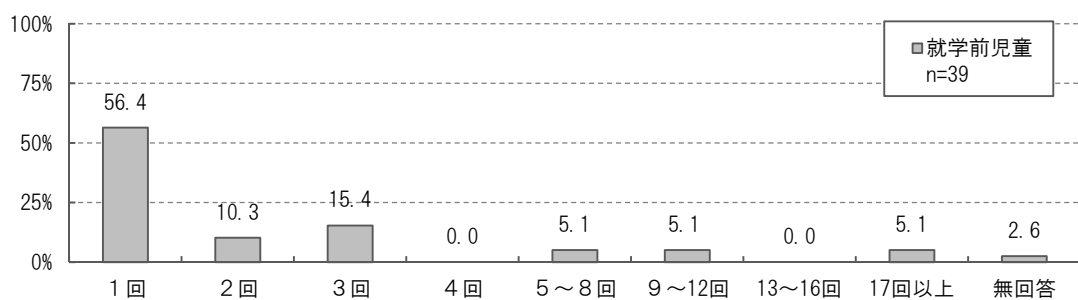
○市内にある子育て支援センターの利用状況をみると、「牛窓ルンビニ子育て支援センター」が8.6%と最も高くなっています。

○子育て支援センター別に利用者の1ヶ月当たりの利用回数をみると、「1回」の割合が最も高いのは「牛窓ルンビニ子育て支援センター」(56.4%)、「あいあい保育園子育て支援センター」(64.3%)、「福田子育て支援センター」(35.7%)となっています。他に、「長船ちとせ保育園子育て支援センター」は「2回」(30.4%)、「邑久子育て支援センター」では「1回」「5～8回」(各23.8%)が最も高くなっています。

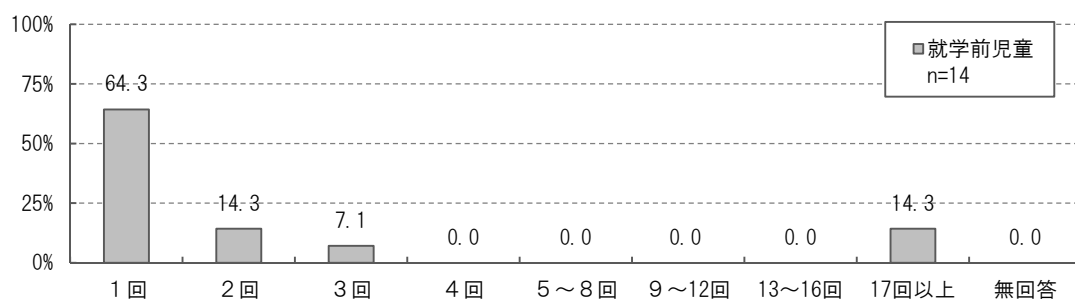
問13 地域の子育て支援拠点事業の利用状況



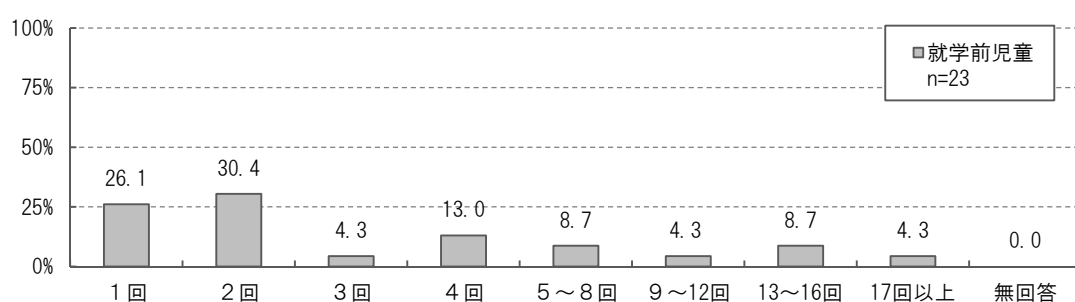
問13.1 牛窓ルンビニ子育て支援センターの利用回数（1ヶ月当たり）



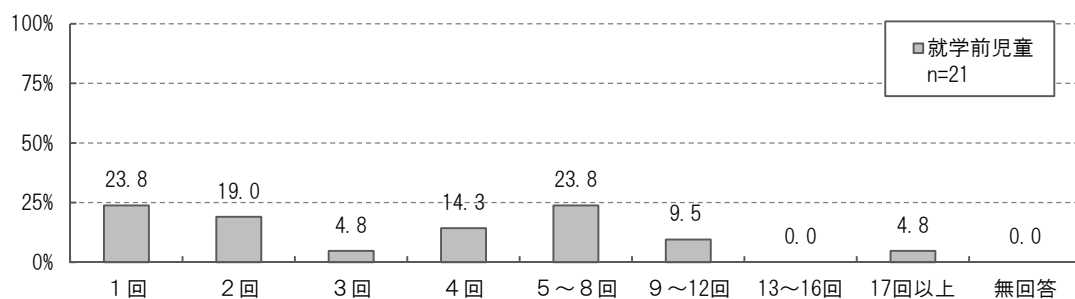
問13.2 あいあい保育園子育て支援センターの利用回数（1ヶ月当たり）



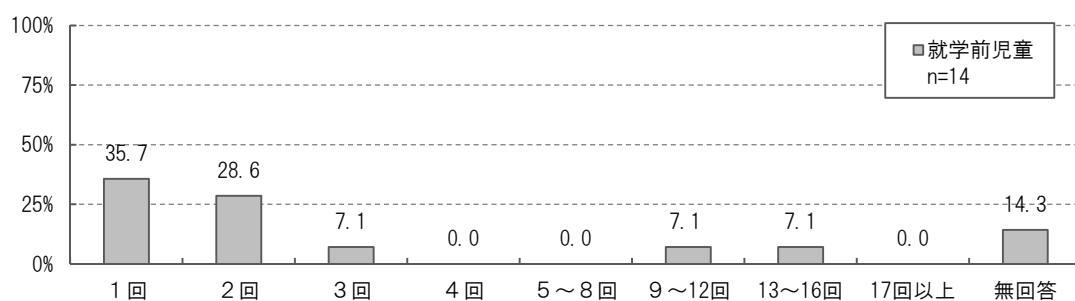
問13.3 長船ちとせ保育園子育て支援センターの利用回数（1ヶ月当たり）



問13.4 邑久子育て支援センターの利用回数（1ヶ月当たり）



問13.5 福田子育て支援センターの利用回数（1ヶ月当たり）

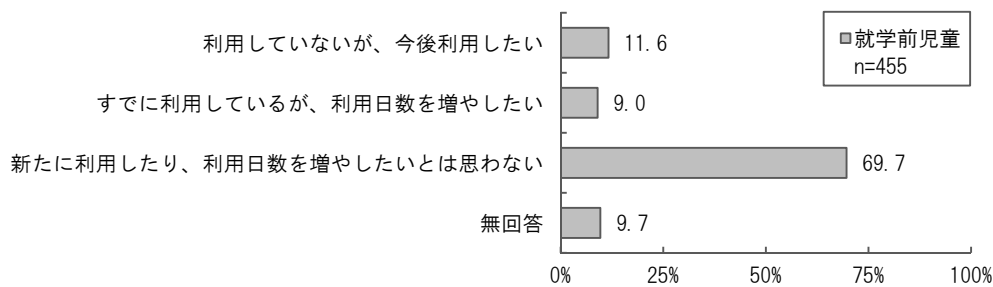


(2) 今後の利用意向

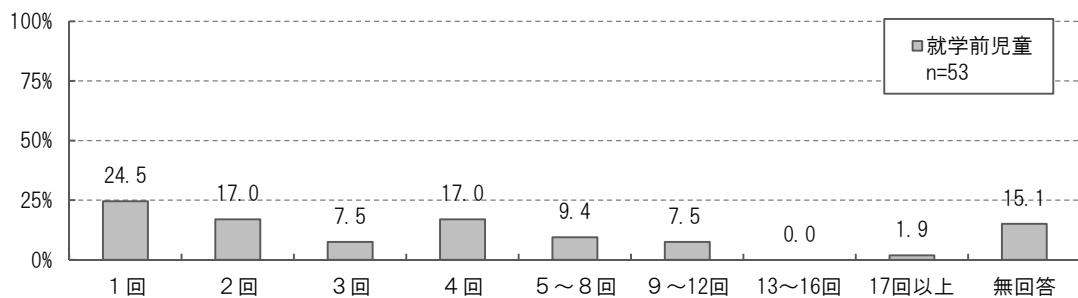
○子育て支援センターの今後の利用意向をみると、「利用していないが今後利用したい」は11.6%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」は9.0%となっています。

○未利用者の今後の利用希望回数は「1回」(24.5%)、「2回」「4回」(各17.0%)となっています。また、既利用者が今後増やしたい1ヶ月当たりの利用回数は、「5～8回」(34.1%)の割合が最も高く、次いで「9～12回」(22.0%)、「2回」「4回」(各12.2%)となっています。

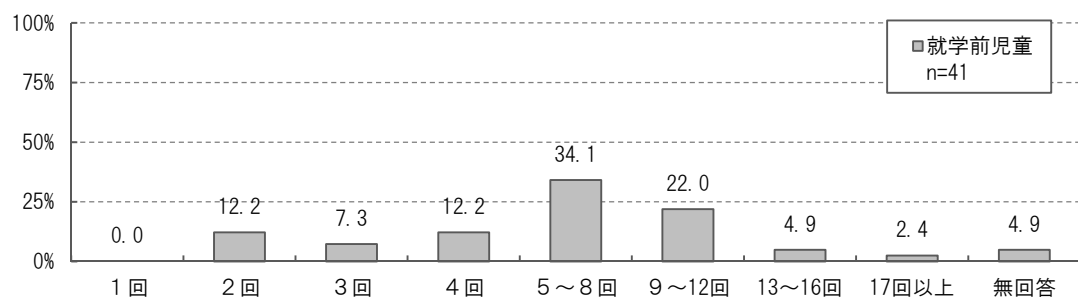
問14 市内の子育て支援センターの今後の利用意向



問14.1 未利用者の今後の利用希望回数（1ヶ月当たり）



問14.2 既利用者の今後増やしたい利用回数（1ヶ月当たり）

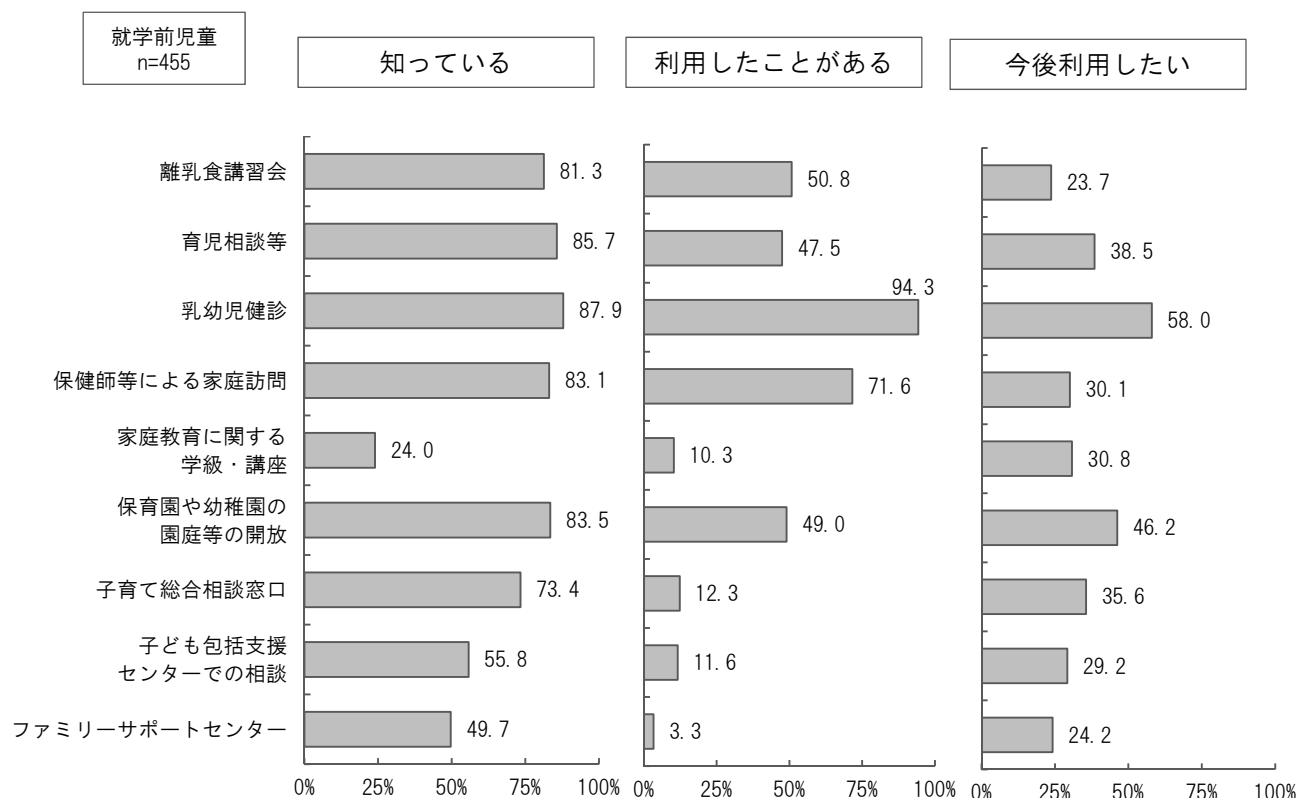


（３）地域の子育て支援に関する事業の周知度と今後の利用意向について

○地域の子育て支援に関する事業の認知度をみると、「乳幼児健診」（87.9%）、「育児相談等」（85.7%）、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」（83.5%）、「保健師等による家庭訪問」（83.1%）、「離乳食講習会」（81.3%）が8割を超えて上位を占めているものの、「家庭教育に関する学級・講座」（24.0%）の周知度は低くなっています。

○周知度が高くても利用が少ない事業は、「子育ての総合相談窓口」（12.3%）、「子ども包括支援センターでの相談」（11.6%）、「ファミリーサポートセンター」（3.3%）があげられます。

問15 事業の周知度と今後の利用意向



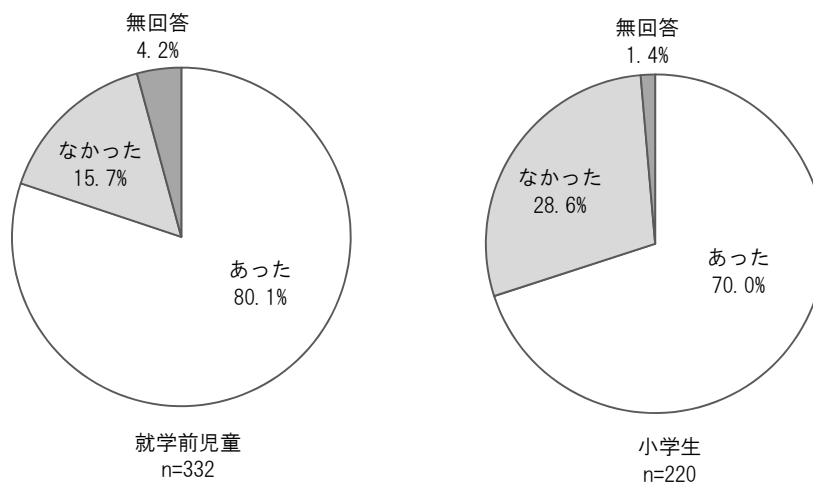
4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処について

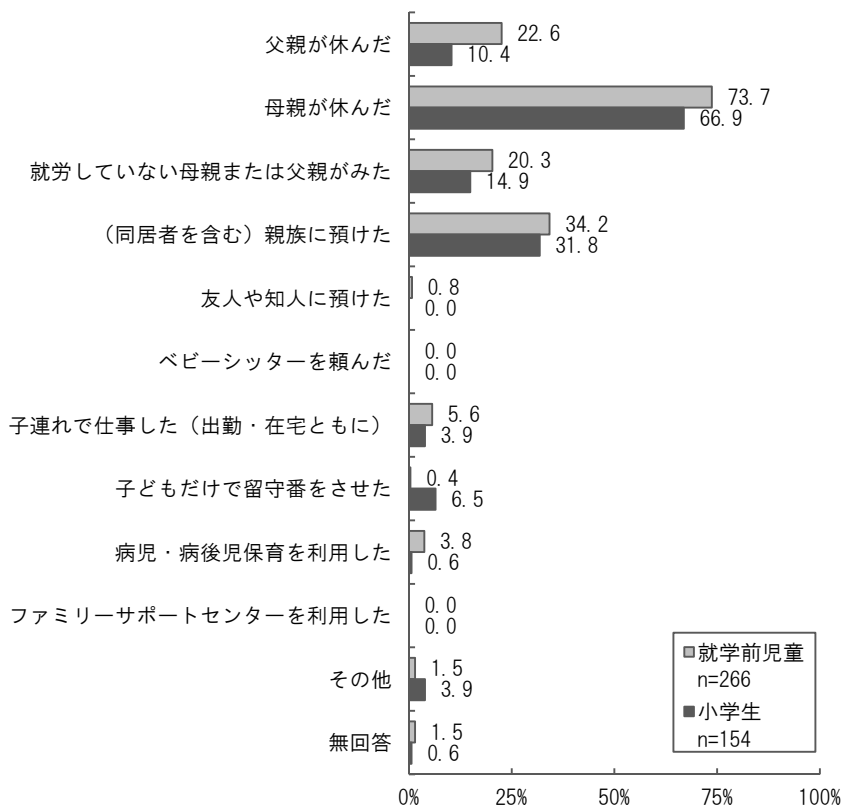
○病気やケガで、保育所や幼稚園が利用できなかったことが「あった」方は、就学前児童で80.1%、小学生で70.0%となっています。

○その際の対処方法をみると、「母親が休んだ」（就学前児童73.7%・小学生66.9%）と回答した割合が最も高く、次いで「（同居者を含む）親族に預けた」（就学前児童34.2%・小学生31.8%）となっています。

問18[問15] 病気やケガで、通常の事業が利用できなかった経験



問18-1[問15-1] この1年間の対処方法



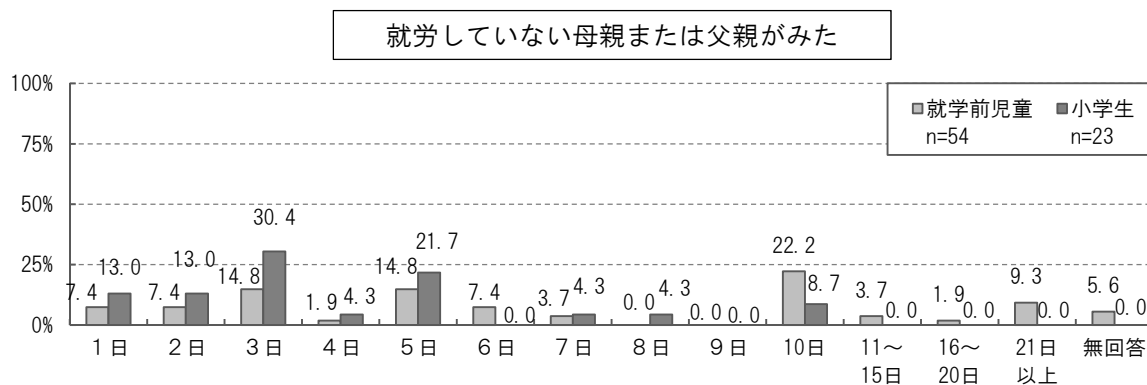
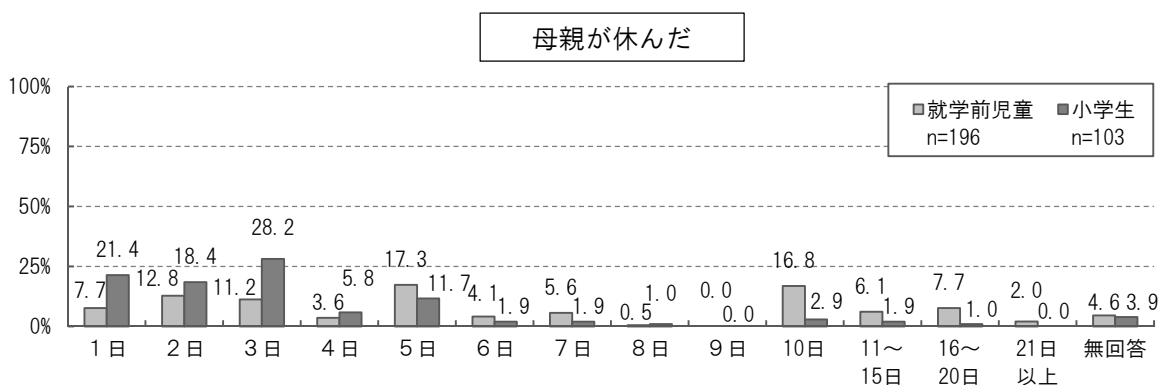
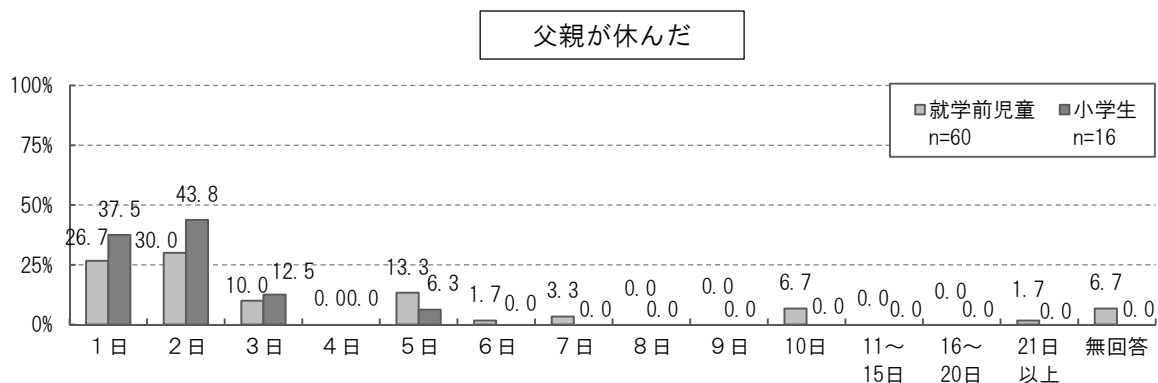
○対処方法別にこの1年間の対処日数をみると、『父親が休んだ日数』は「2日」（就学前児童30.0％・小学生43.8％）、「1日」（就学前児童26.7％・小学生37.5％）、『母親が休んだ日数』は就学前児童では「5日」（17.3％）、「10日」（16.8％）、小学生では「3日」（28.2％）、「1日」（21.4％）となっています。

○『就労していない母親または父親がみた日数』は、就学前児童では「10日」（22.2％）、「3日」「5日」（各14.8％）、小学生では「3日」（30.4％）、「5日」（21.7％）となっています。

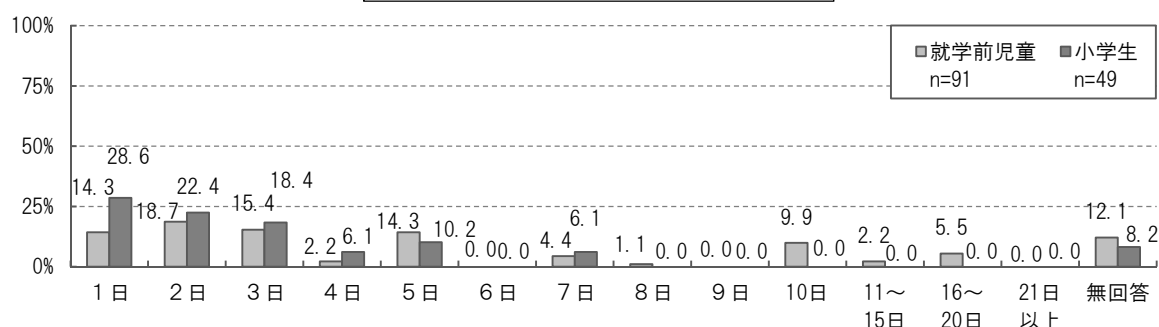
○『（同居者を含む）親族に預けた日数』は、就学前児童では「2日」（18.7％）、「3日」（15.4％）、小学生では「1日」（28.6％）、「2日」（22.4％）となっています。

○『友人や知人に預けた』は、就学前児童で2名の回答があり、「3日」「16～20日」となっています。

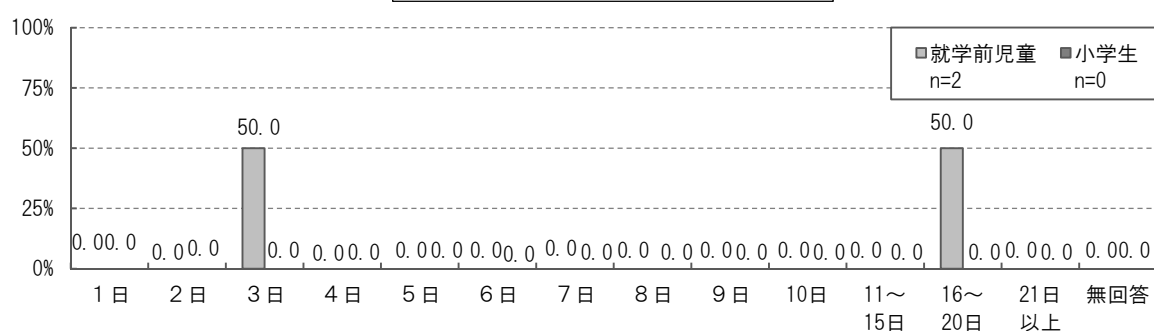
問18-1[問15-1] この1年間の対処方法（日数）



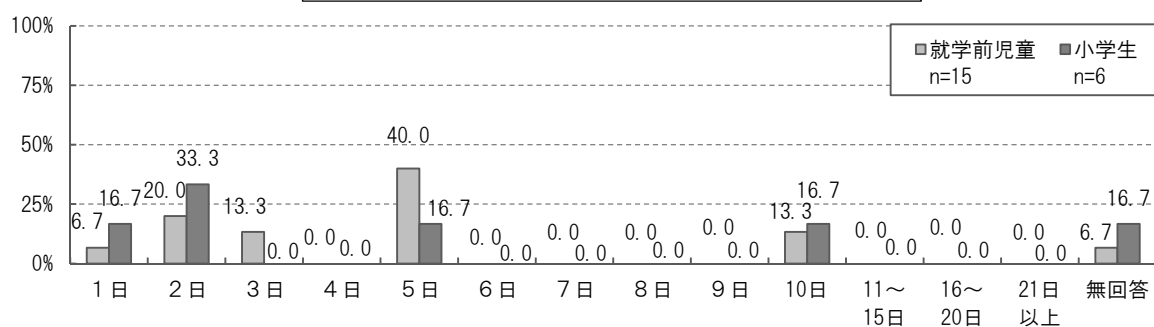
(同居者を含む)親族に預けた



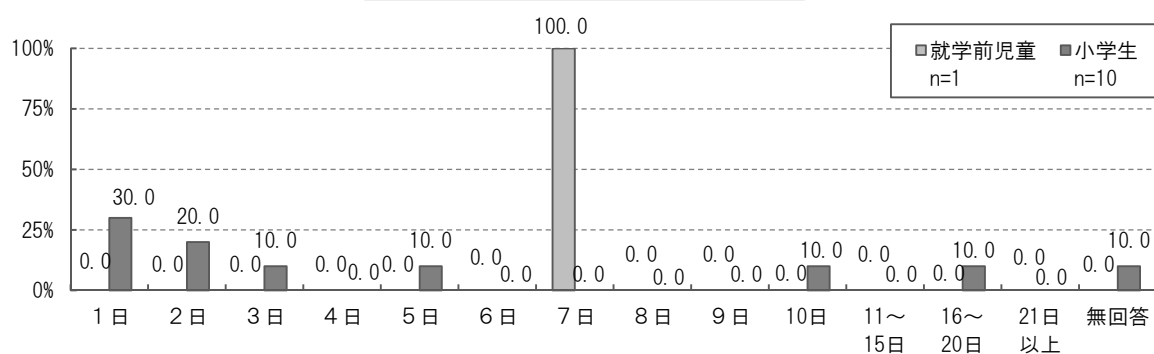
友人や知人に預けた

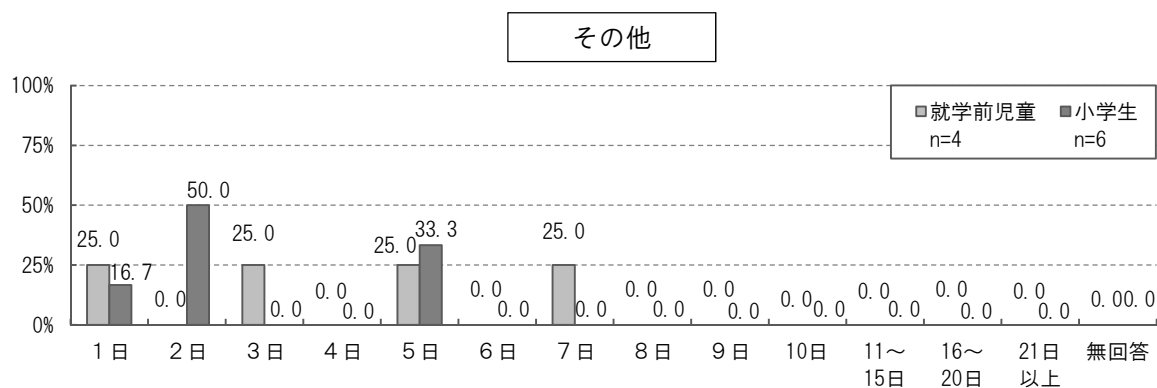
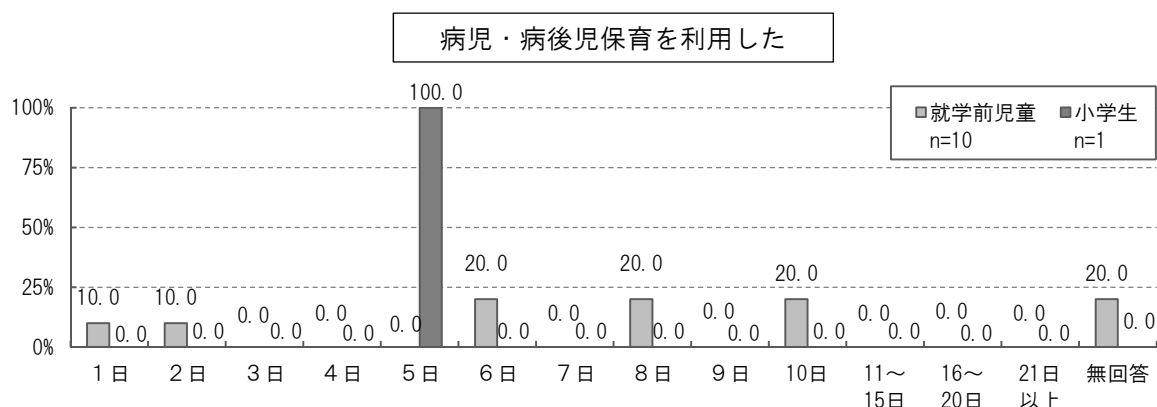


子連れで仕事した(出勤・在宅ともに)



子どもだけで留守番をさせた



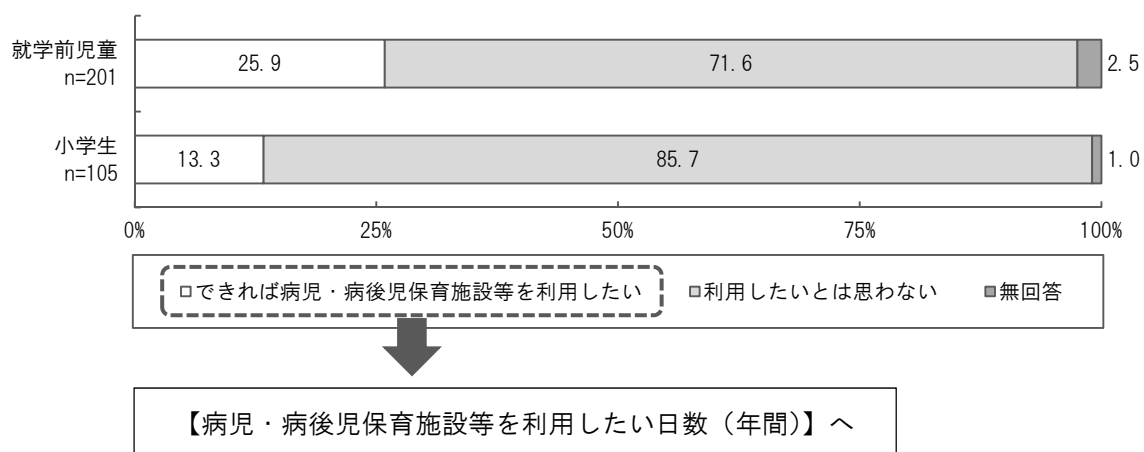


※「ファミリーサポートセンターを利用した」「ベビーシッターを頼んだ」は回答がなかったため、グラフを省略しました。

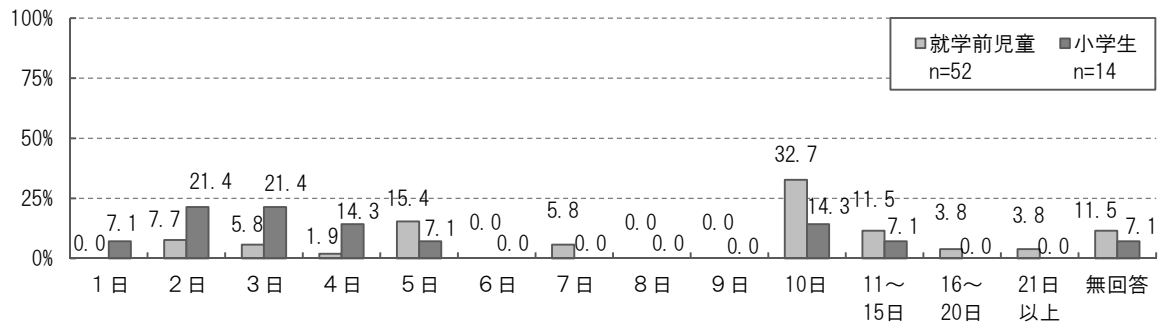
○父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が就学前児童では25.9%、小学生では13.3%となっています。

○その際の年間利用希望日数は、就学前児童では「10日」(32.7%)、「5日」(15.4%)、小学生では「2日」「3日」(各21.4%)、「4日」「10日」(各14.3%)となっています。

問18-2[問15-2] 父親・母親が休んだ際の病児・病後児保育施設の利用意向

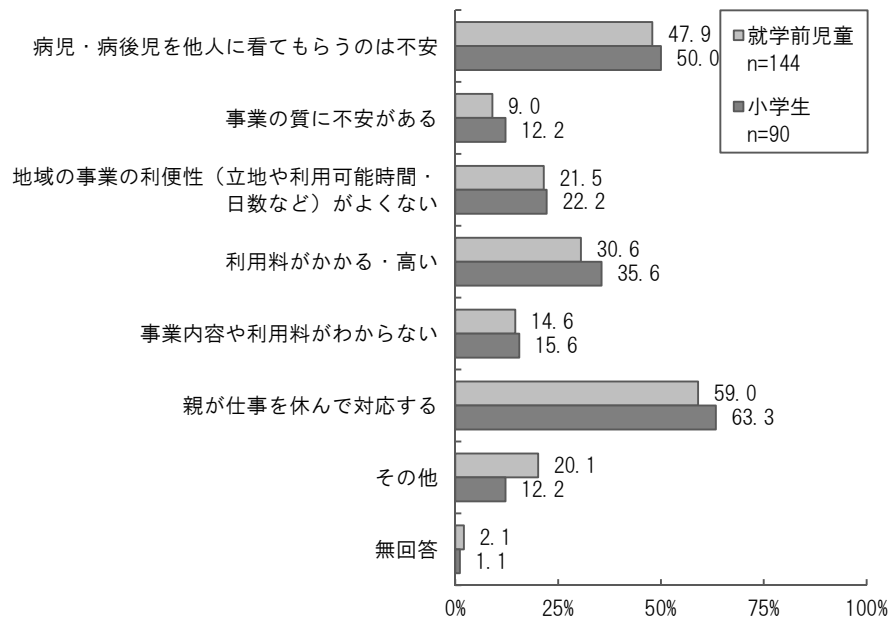


【病児・病後児保育施設等を利用したい日数（年間）】



○病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由は、就学前児童・小学生ともに、「親が仕事を休んで対応する」「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」で割合が高くなっています。

問18-3[問15-3] 病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由（複数回答）



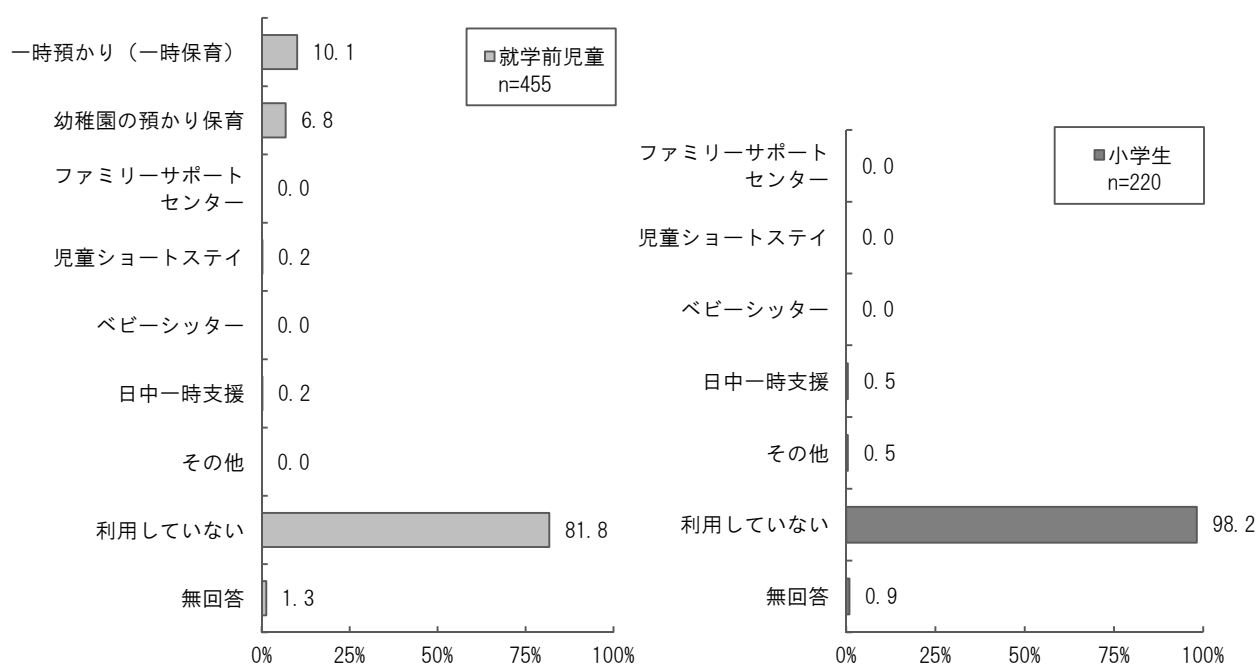
5 不定期の一時預かり等の利用について

(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況

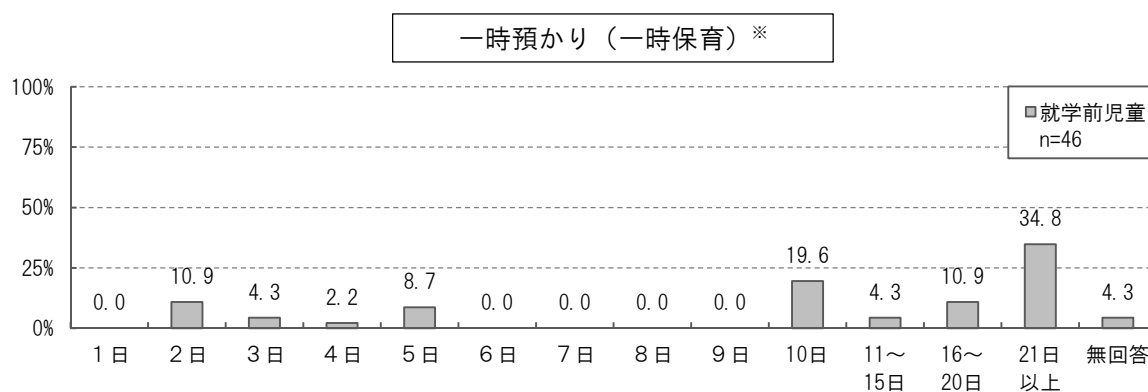
○不定期に利用している教育・保育事業の状況をみると、就学前児童の「一時預かり」（10.1%）、「幼稚園の預かり保育」（6.8%）は利用があるものの、その他の事業はあまり利用がない状況です。

○事業ごとの年間利用日数は、『一時預かり（一時保育）』『幼稚園の預かり保育』ともに「21日以上」（一時預かり34.8%・幼稚園の預かり保育29.0%）、「10日」（一時預かり19.6%・幼稚園の預かり保育19.4%）となっています。

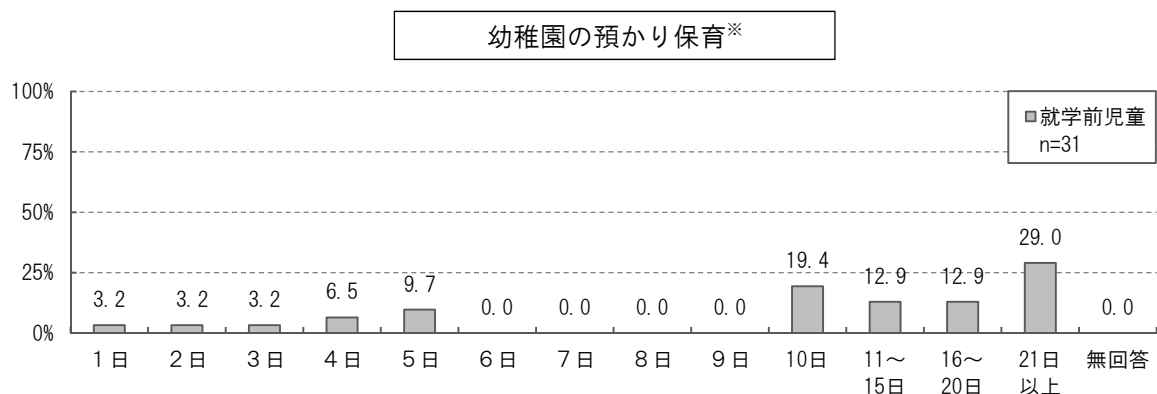
問19[問16] 不定期に利用している一時預かり等事業



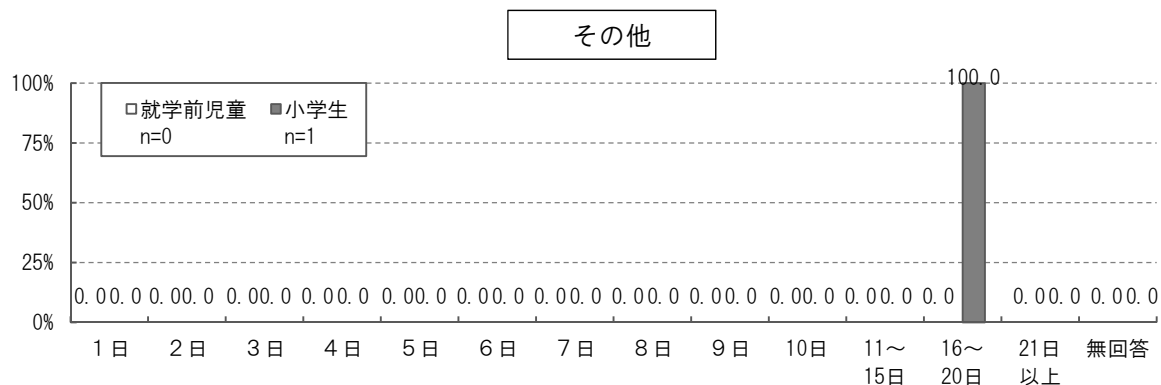
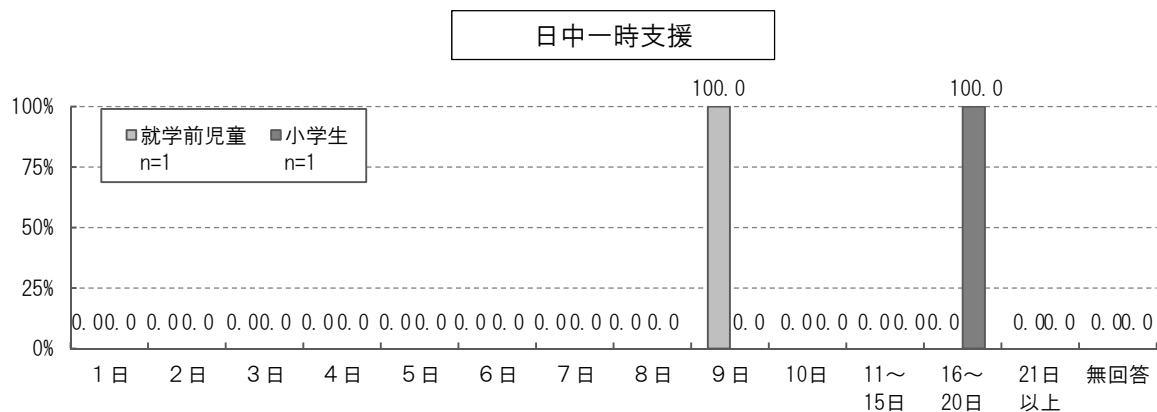
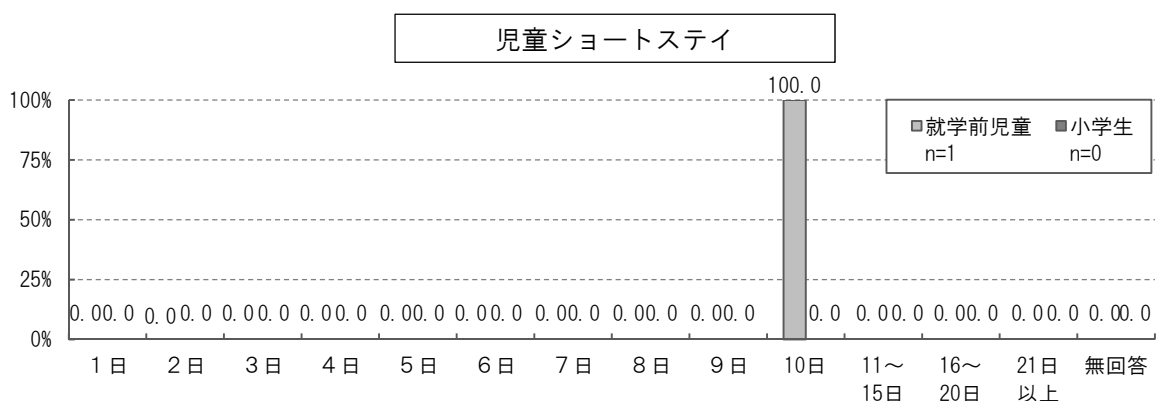
《利用日数（年間）》



※「一時預かり（一時保育）」という選択肢は就学前児童のみ



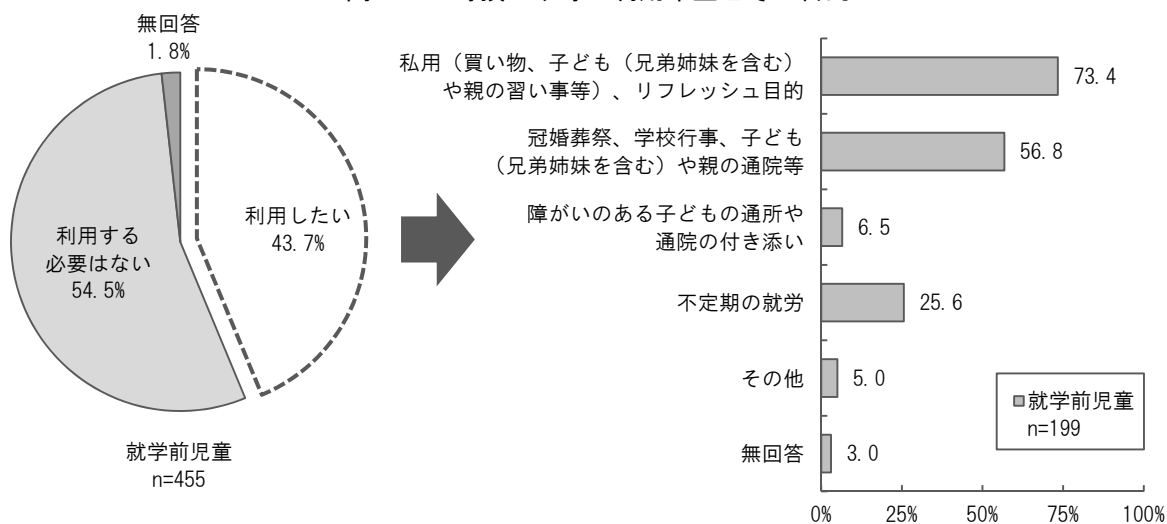
※「幼稚園の預かり保育」という選択肢は就学前児童のみ



※「ファミリーサポートセンター」「ベビーシッター」は回答がなかったため、グラフを省略しました。

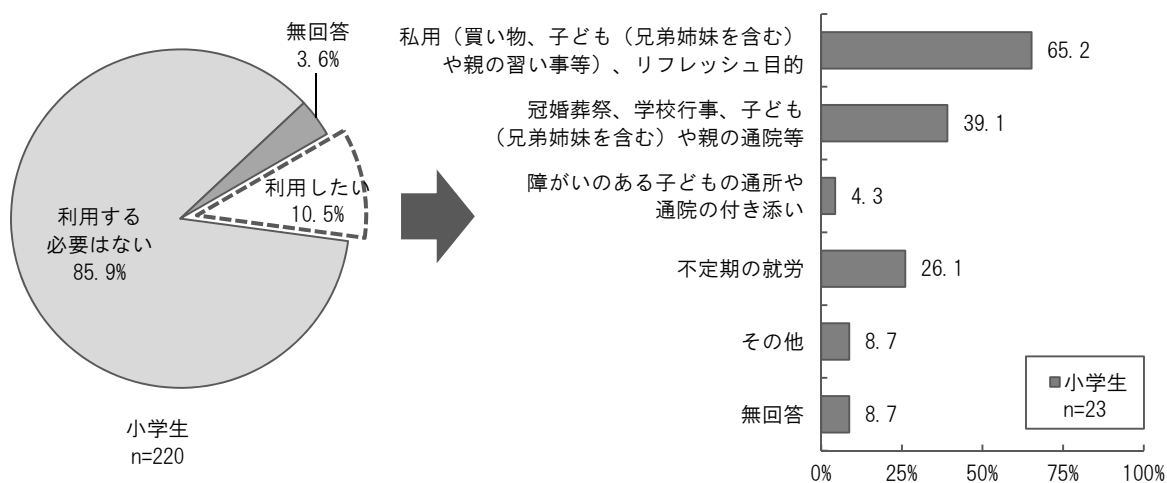
○就学前児童の一時預かり等の利用希望をみると、「利用する必要はない」(54.5%)、「利用したい」(43.7%)となっています。「利用したい」方の利用目的は、「私用(買い物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」(73.4%)、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」(56.8%)、「不特定の就労」(25.6%)となっています。

問20 一時預かり等の利用希望とその目的



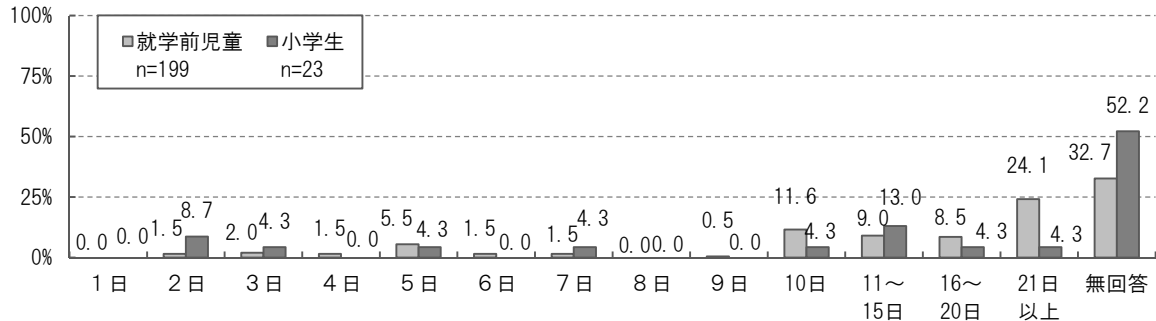
○小学生の一時預かり等の利用希望をみると、「利用する必要はない」(85.9%)、「利用したい」(10.5%)となっています。「利用したい」方の利用目的は、「私用(買い物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」(65.2%)、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」(39.1%)、「不特定の就労」(26.1%)となっています。

[問17] 一時預かり等の利用希望とその目的



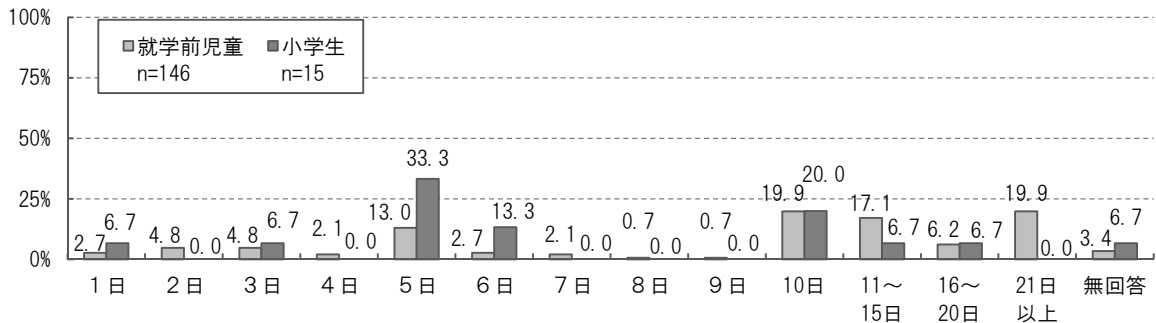
○利用希望年間合計日数は、就学前児童は「21日以上」（24.1%）、小学生は「11～15日」（13.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

問20.1[問17.1] 一時預かり等の利用希望日数（年間合計）

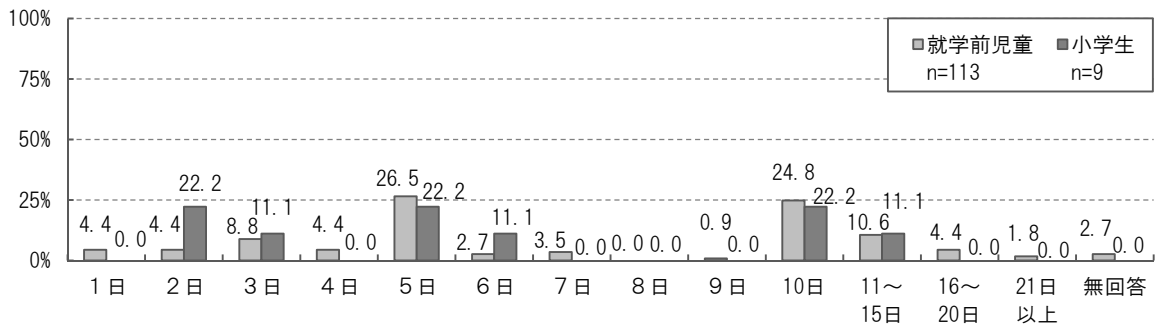


《利用希望日数（年間）》

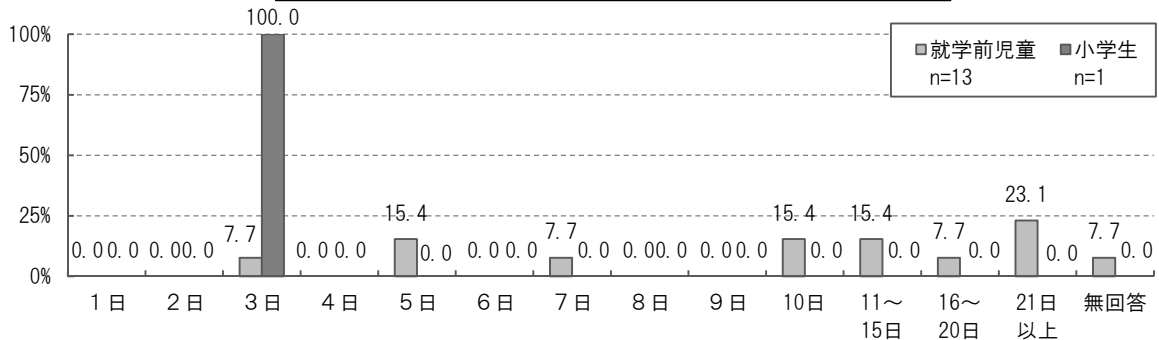
私用、リフレッシュ目的



冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等

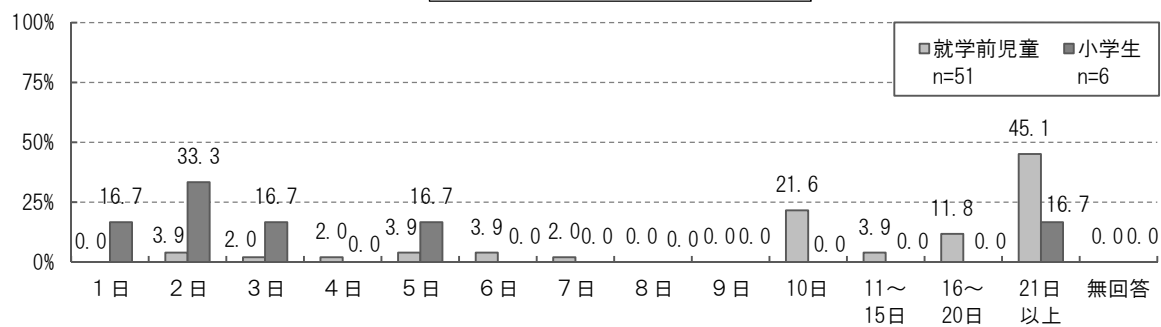


障がいのある子どもの通所や通院の付き添い

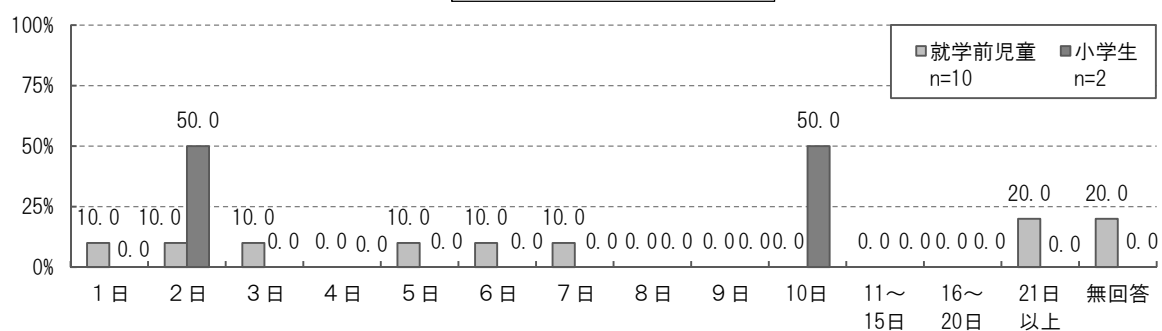




不定期の就労



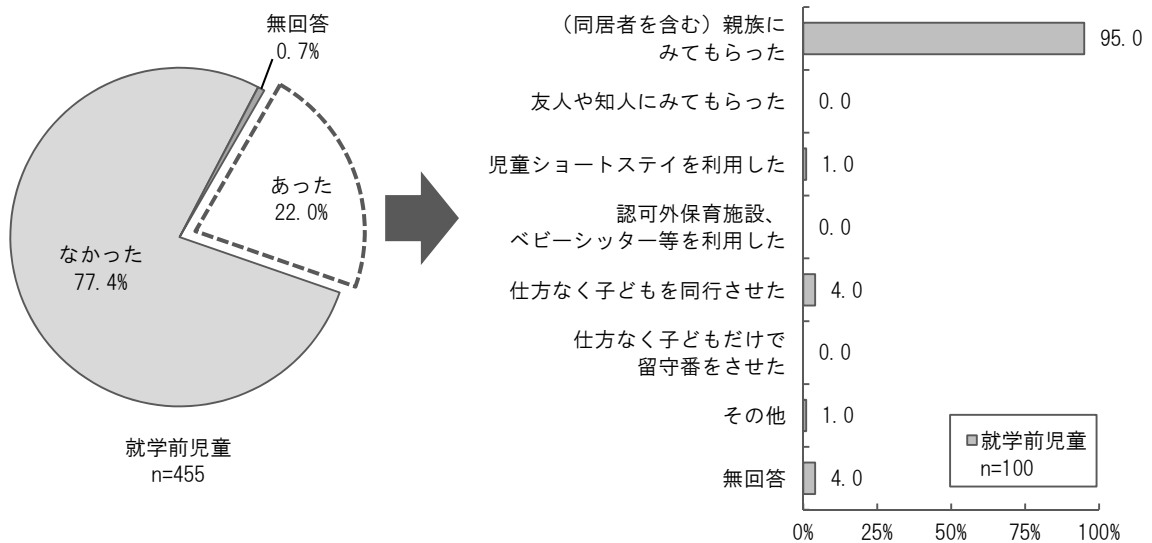
その他



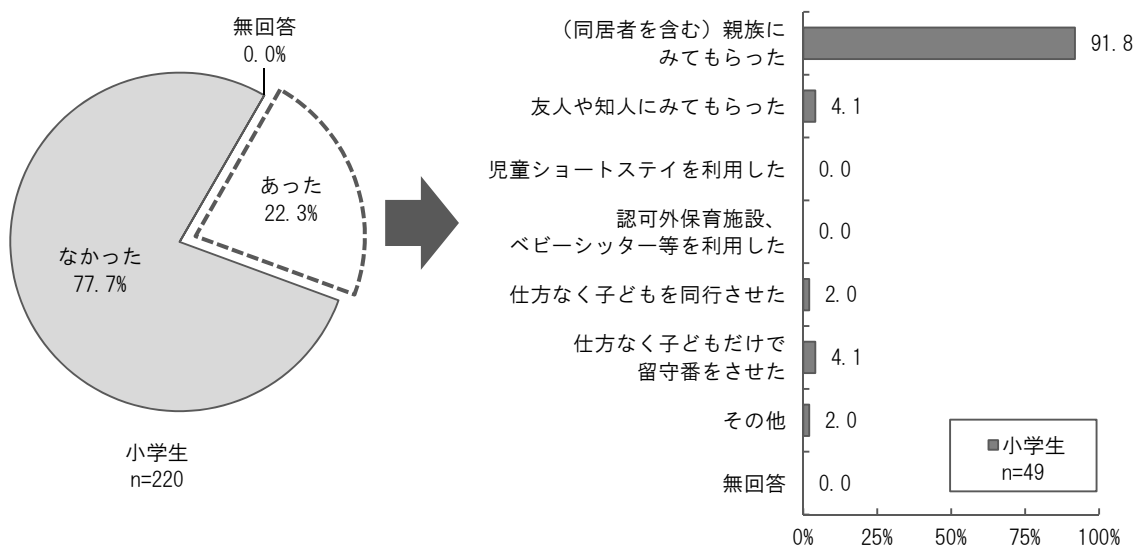
(2) 宿泊を伴う一時預かり等の利用状況

○この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで預けたことが「あった」は、就学前児童が22.0%、小学生が22.3%となっています。そのうち9割以上は「(同居者を含む)親族にみてもらった」と回答していますが、「仕方なく子どもを同行させた」(就学前児童4.0%・小学生2.0%)、「仕方なく子どもだけで留守番させた」(小学生4.1%)もありました。

問21 この1年間に子どもを泊りがけで預けた経験とその対処方法

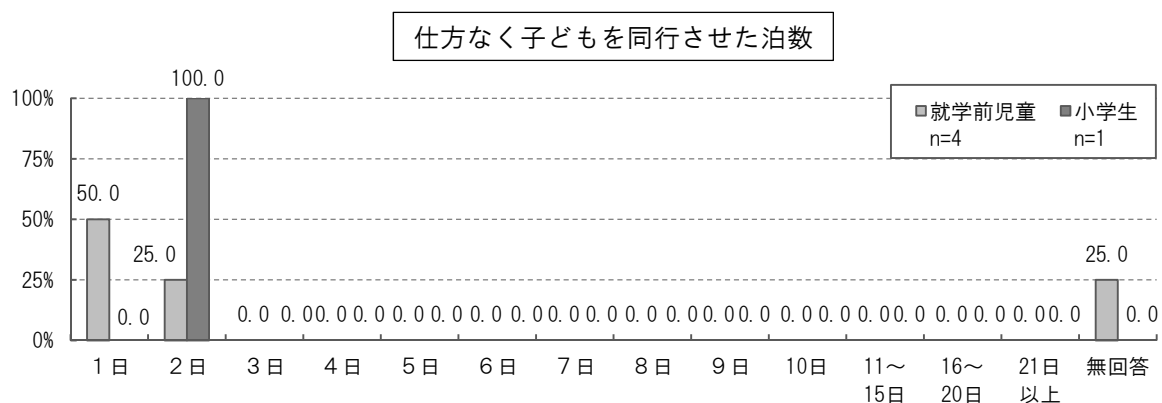
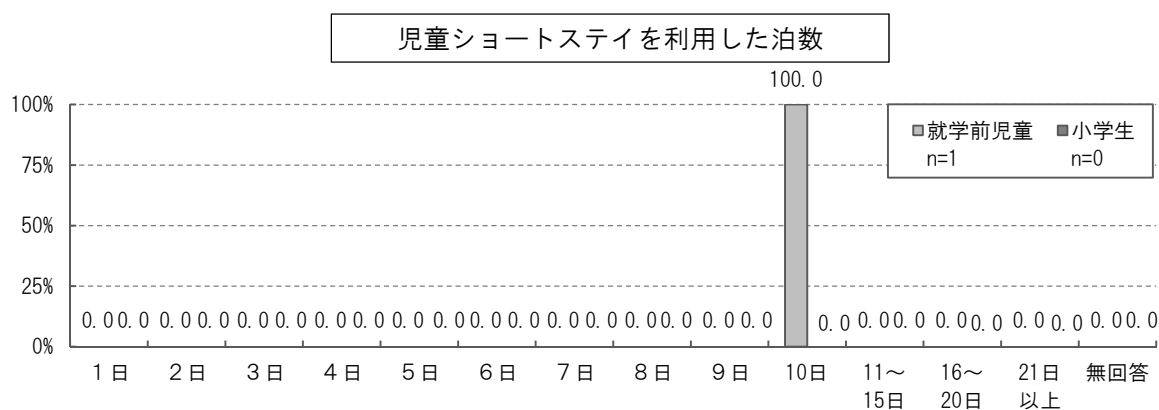
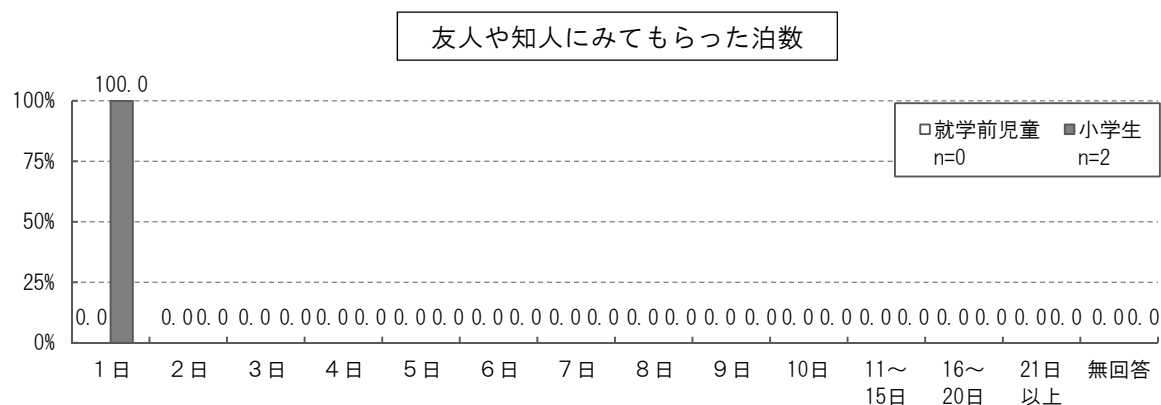
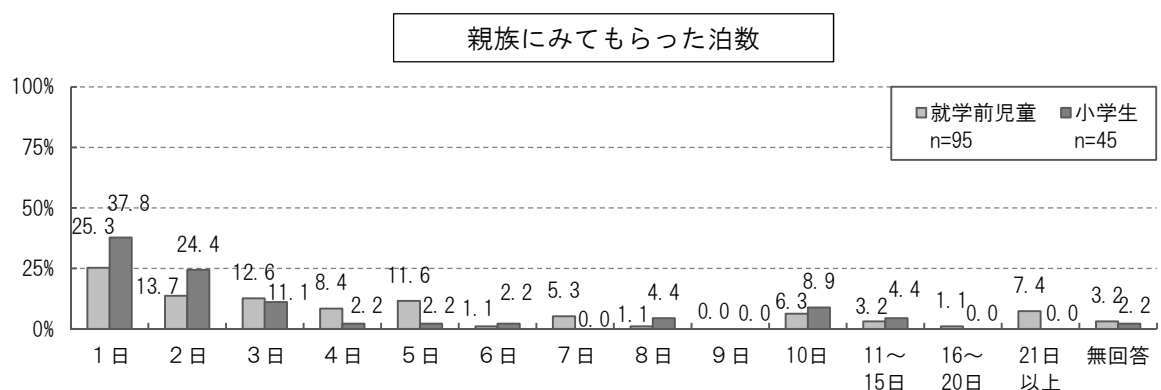


〔問18〕 この1年間に子どもを泊りがけで預けた経験とその対処方法

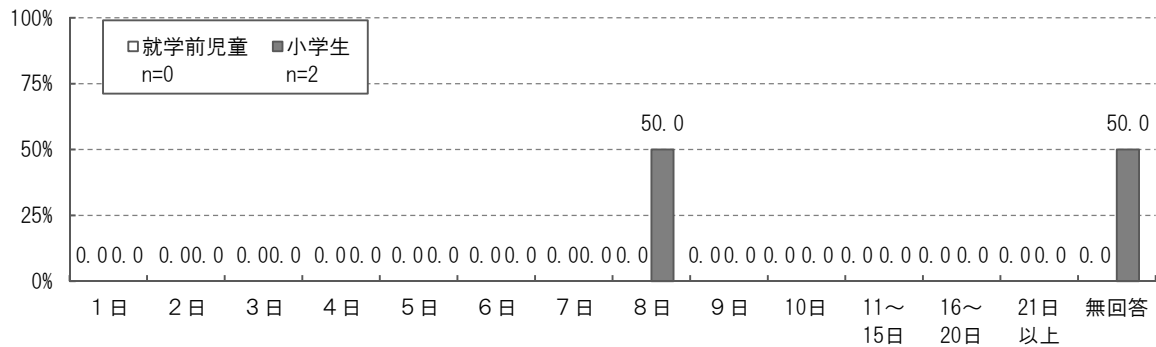


○対処方法別にこの1年間の宿泊数をみると、『(同居者を含む)親族・知人にみてもらった』は「1泊」(就学前児童25.3%・小学生37.8%)、「2泊」(就学前児童13.7%・小学生24.4%)となっています。

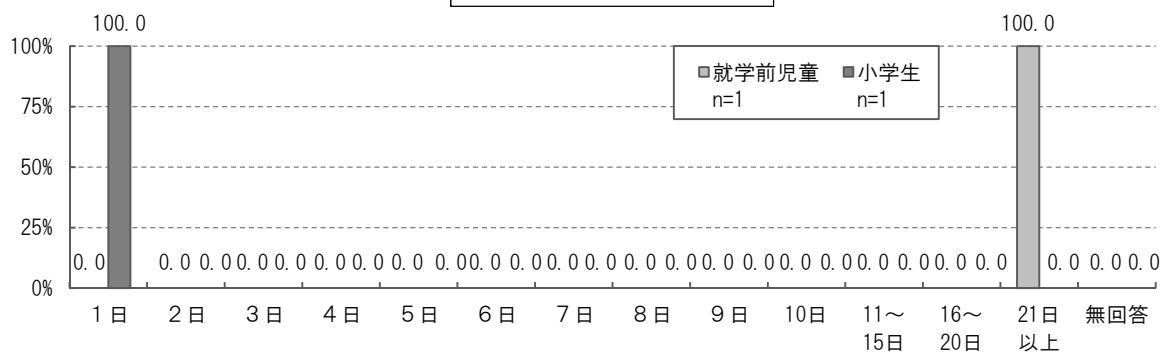
問21[問18] 子どもを泊りがけで預けた日数(年間)



仕方なく子どもだけで留守番をさせた泊数



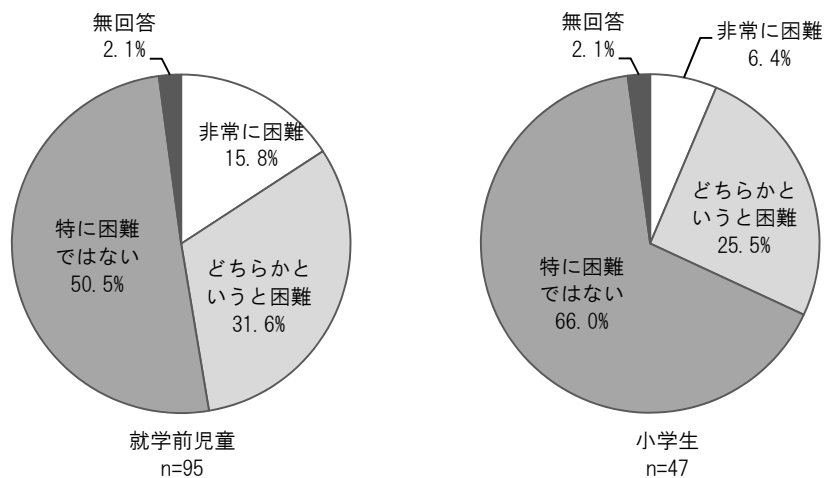
その他の泊数



※「認可外保育施設、ベビーシッター等を利用した」は回答者がなかったため、グラフを省略しました。

○（同居者を含む）親族・知人にみてもらう場合、「困難」（「非常に困難」＋「どちらかという困難」）と回答した割合は就学前児童で47.4%、小学生で31.9%となっています。

問21-1[問18-1] 親族・知人に預ける場合の困難度

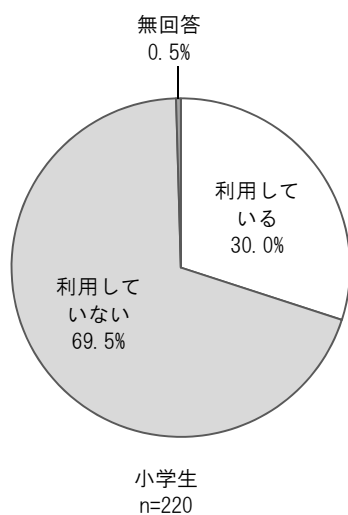


6 放課後の過ごし方について

(1) 放課後児童クラブの利用状況

○放課後児童クラブ（学度保育）の利用の有無をみると、「利用している」は30.0%となっています。

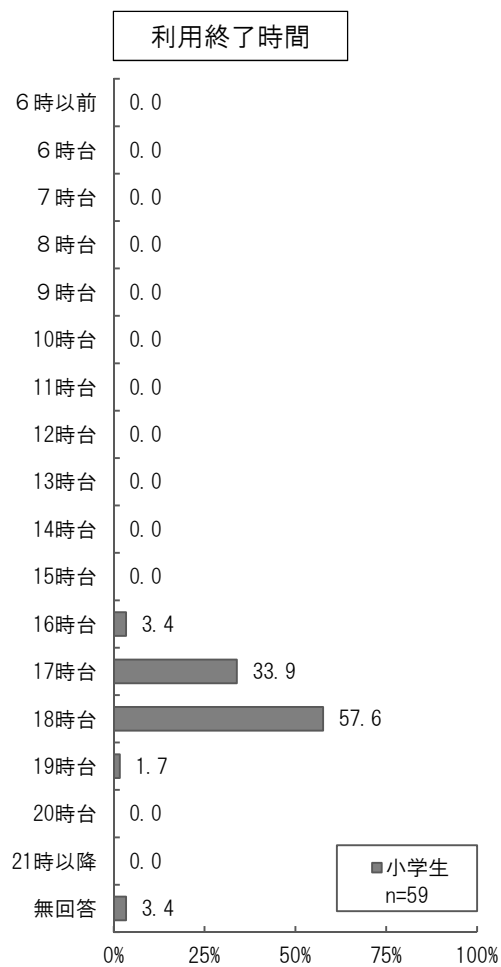
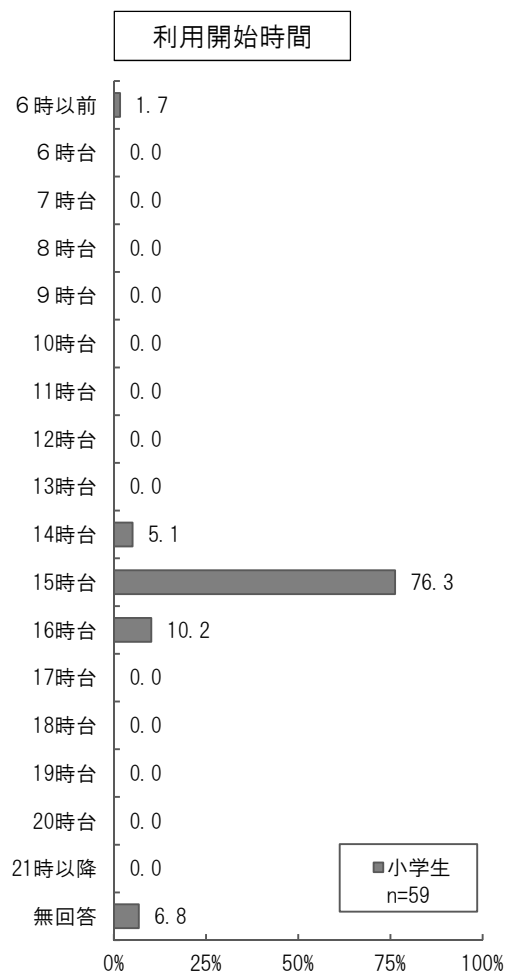
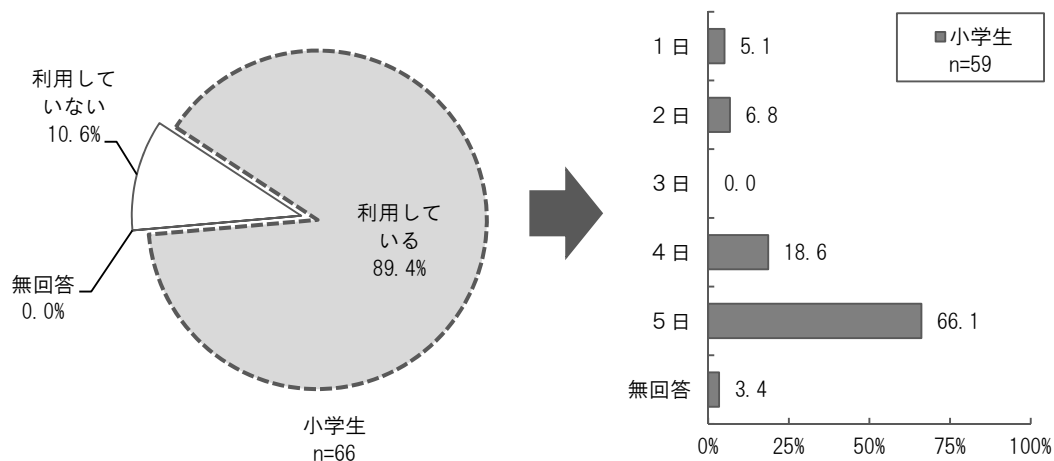
[問11] 放課後児童クラブ(学童保育)の利用の有無



○放課後児童クラブの平日の利用状況をみると、「利用している」は89.4%となっています。

○開始時刻は、「15時台」（76.3%）と回答した割合が最も高く、終了時刻は、「18時台」（57.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

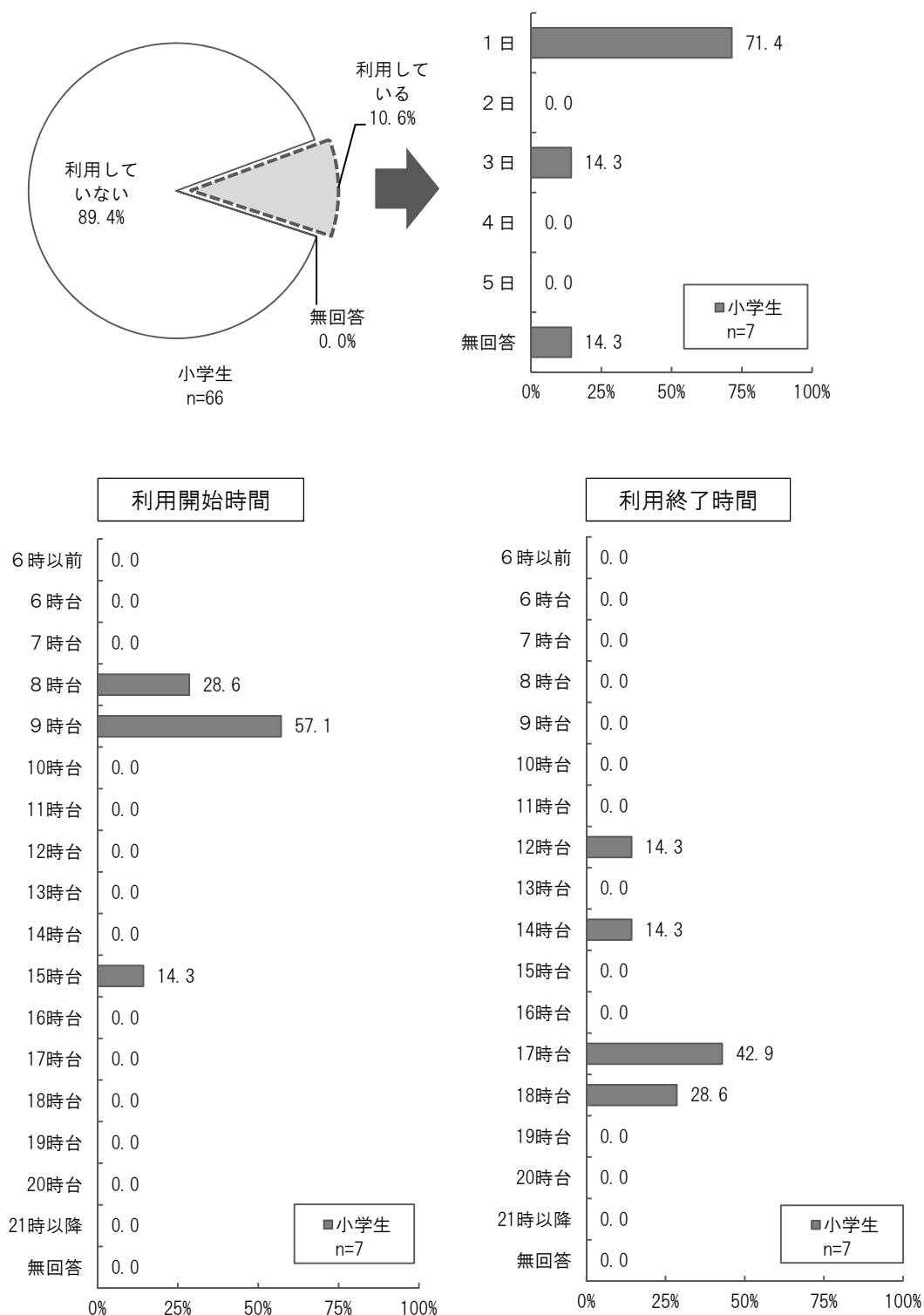
〔問11-1(1)〕 平日の放課後児童クラブの利用状況



○放課後児童クラブの土曜日の利用状況をみると、「利用している」は10.6%となっています。

○開始時刻は、「9時台」(57.1%)と回答した割合が最も高く、終了時刻は、「17時台」(42.9%)と回答した割合が最も高くなっています。

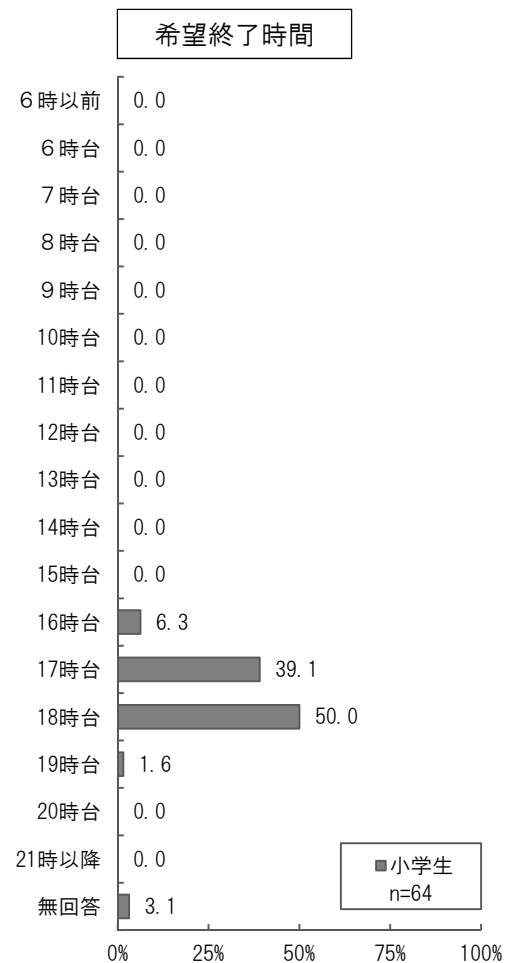
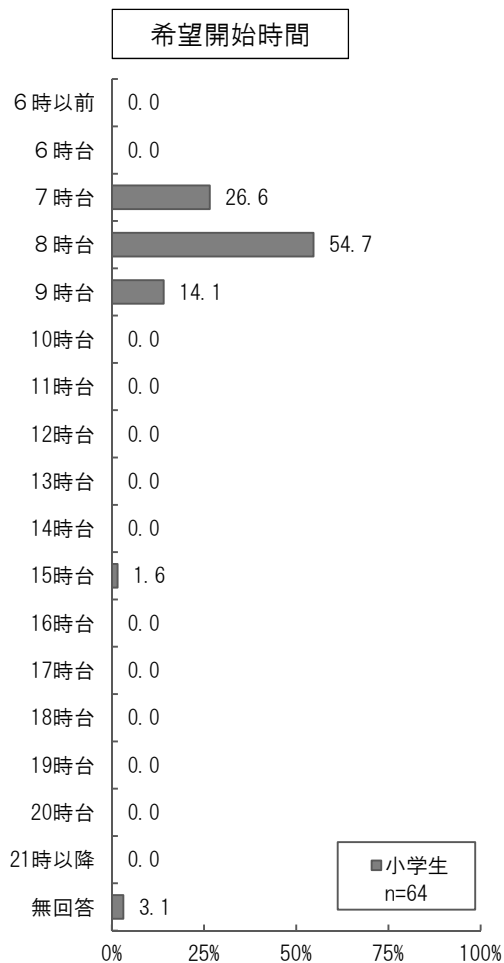
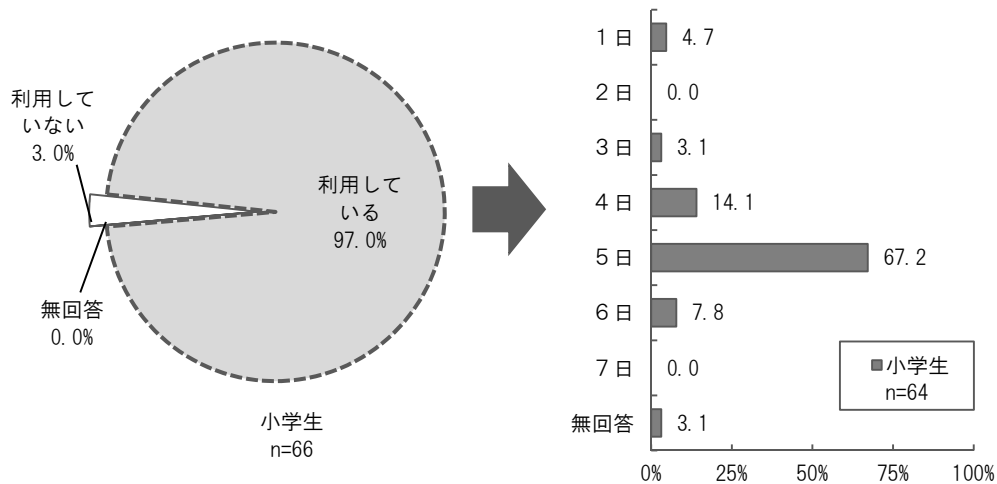
〔問11-1(2)〕 土曜日の放課後児童クラブの利用状況



○放課後児童クラブの夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の利用状況をみると、「利用している」は97.0%となっています。

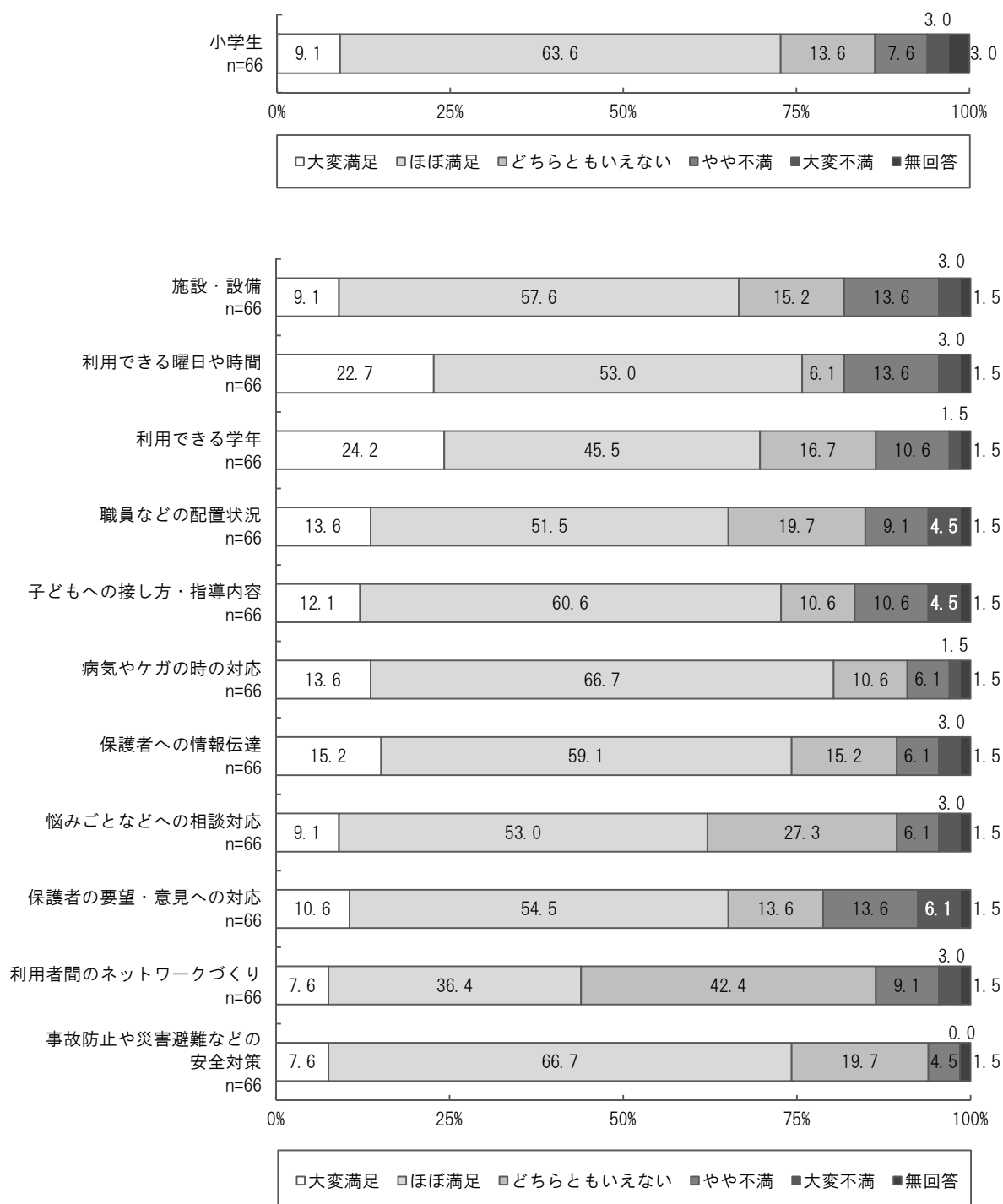
○開始時刻は、「8時台」(54.7%)と回答した割合が最も高く、終了時刻は、「18時台」(50.0%)と回答した割合が最も高くなっています。

〔問11-1(3)〕 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用状況



○放課後児童クラブに対する満足度をみると、「大変満足」+「ほぼ満足」と回答した方は72.7%います。

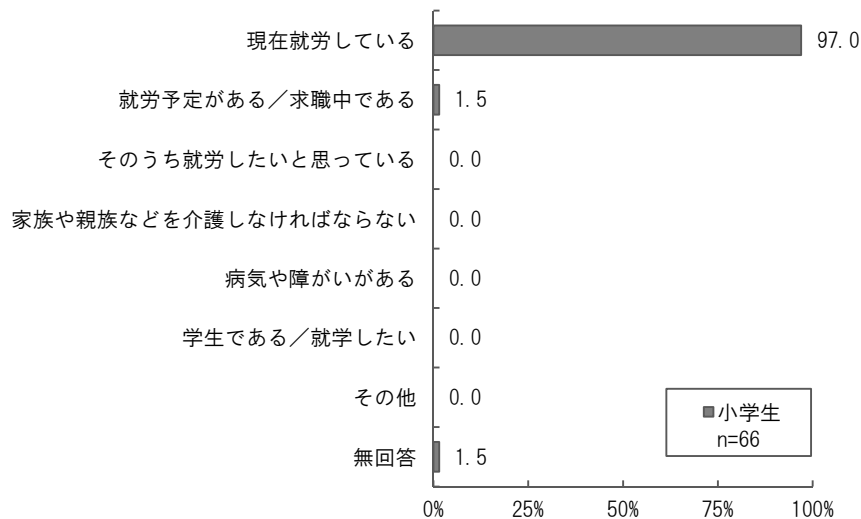
〔問11-2〕 放課後児童クラブに対する満足度



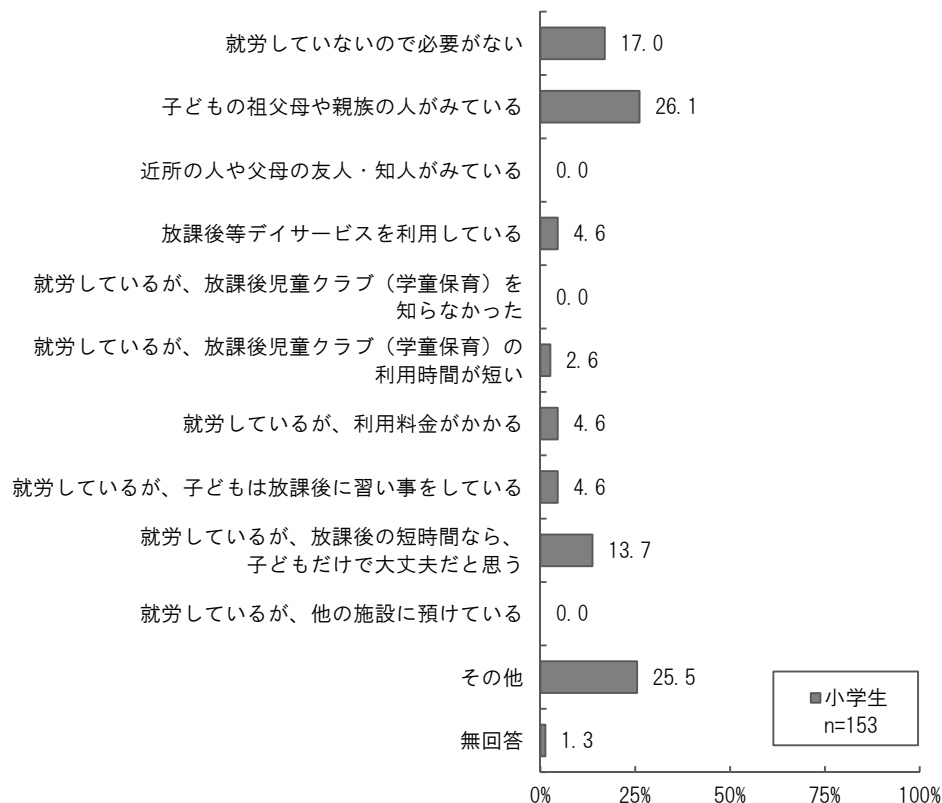
○放課後児童クラブを利用している理由をみると、「現在就労している」が97.0%と大半を占めています。

○一方、現在利用していない理由をみると、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」(26.1%)、「就労していないので必要がない」(17.0%)、「就労しているが、放課後の短時間なら、子どもだけで大丈夫だと思う」(13.7%)となっています。

〔問11-3〕 放課後児童クラブ（学童保育）を利用している理由



〔問11-4〕 放課後児童クラブ（学童保育）を利用していない理由

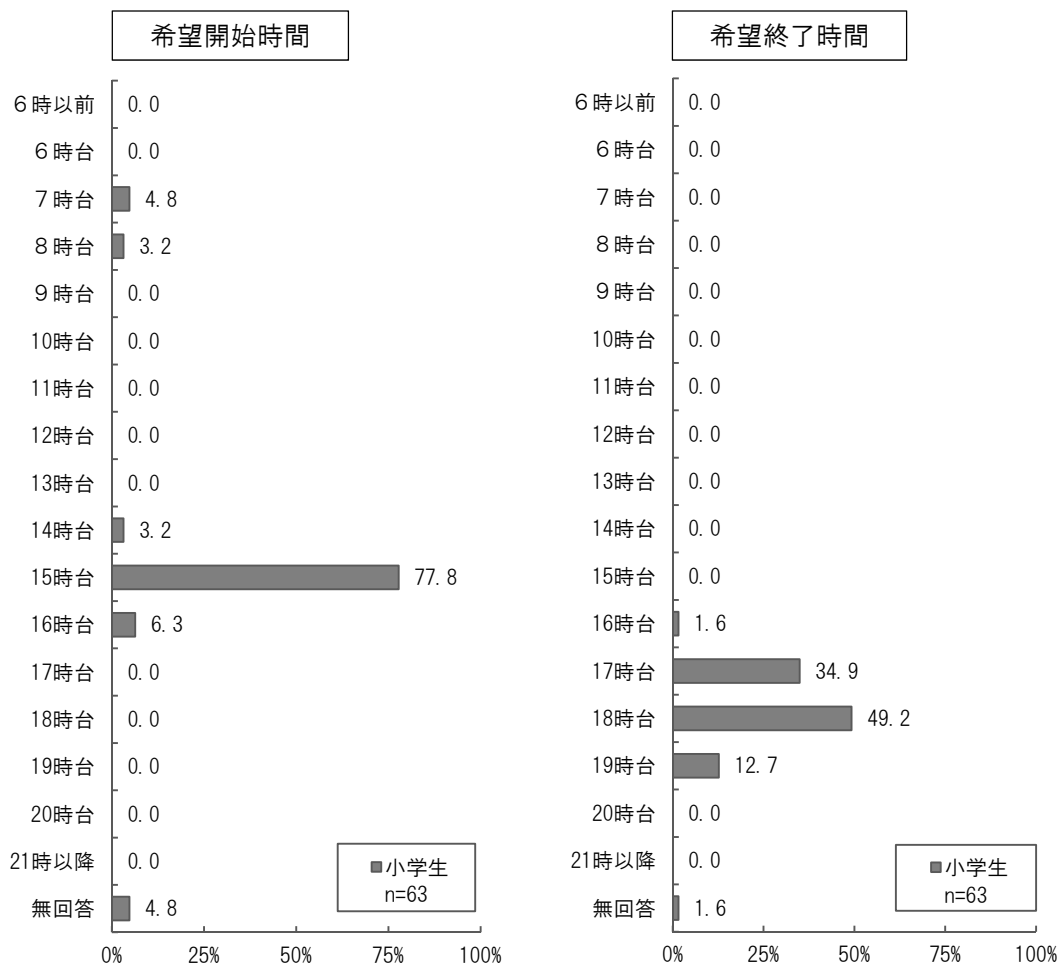
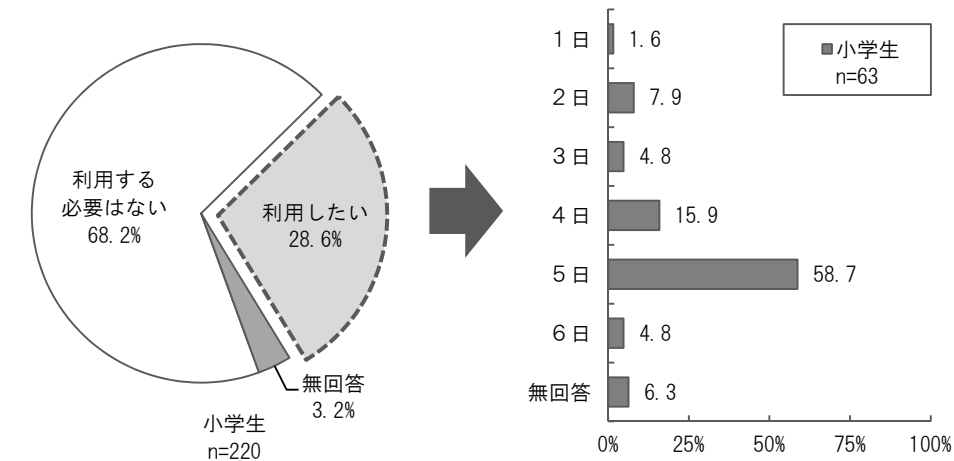


（２）今後の放課後児童クラブの利用意向

○放課後児童クラブの平日の利用意向をみると、「利用したい」は28.6%となっています。

○希望開始時刻は、「15時台」（77.8%）と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」（49.2%）と回答した割合が最も高くなっています。

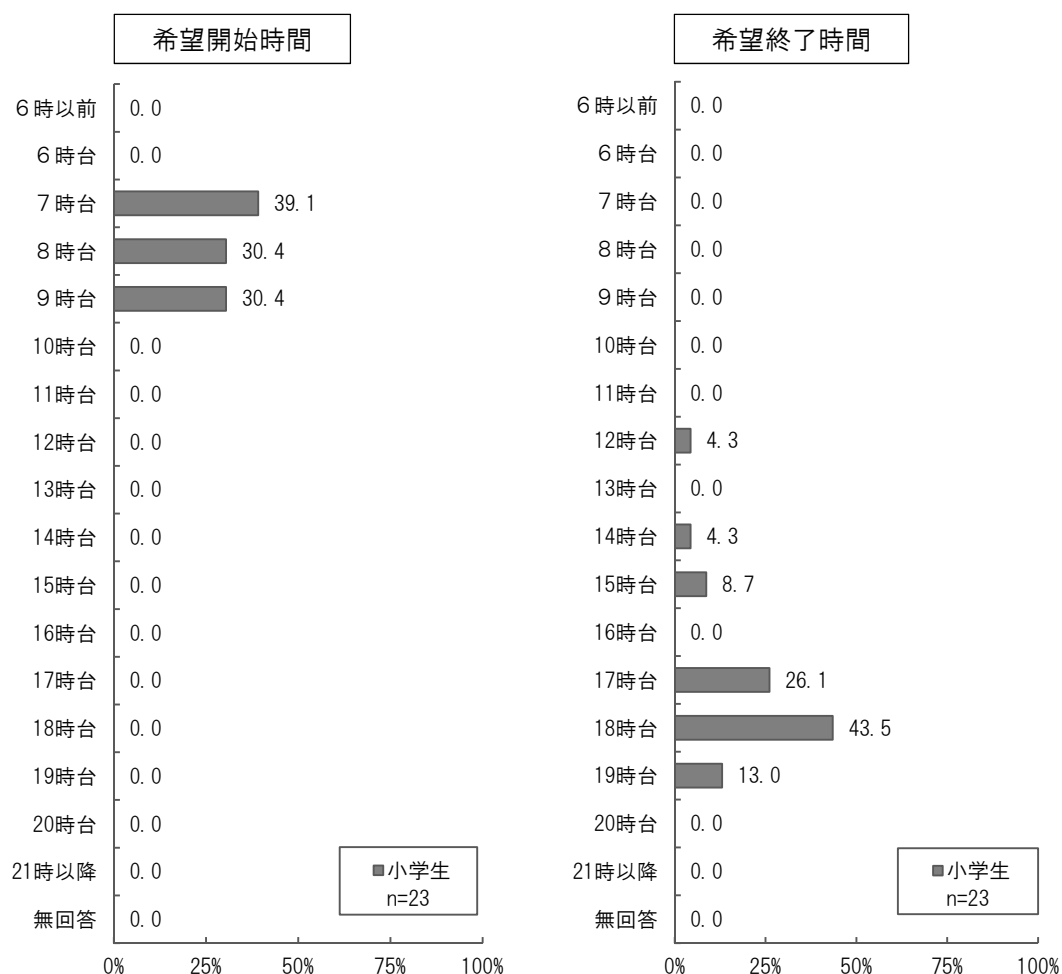
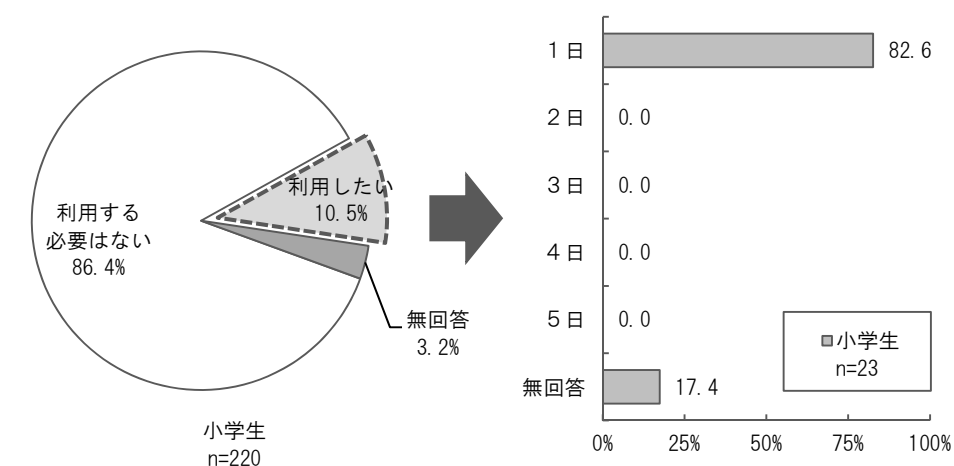
〔問12(1)〕 平日の放課後児童クラブの利用意向



○放課後児童クラブの土曜日の利用意向をみると、「利用したい」は10.5%となっています。

○希望開始時刻は、「7時台～9時台」、希望終了時刻は、「17時台～19時台」と回答した割合が高くなっています。

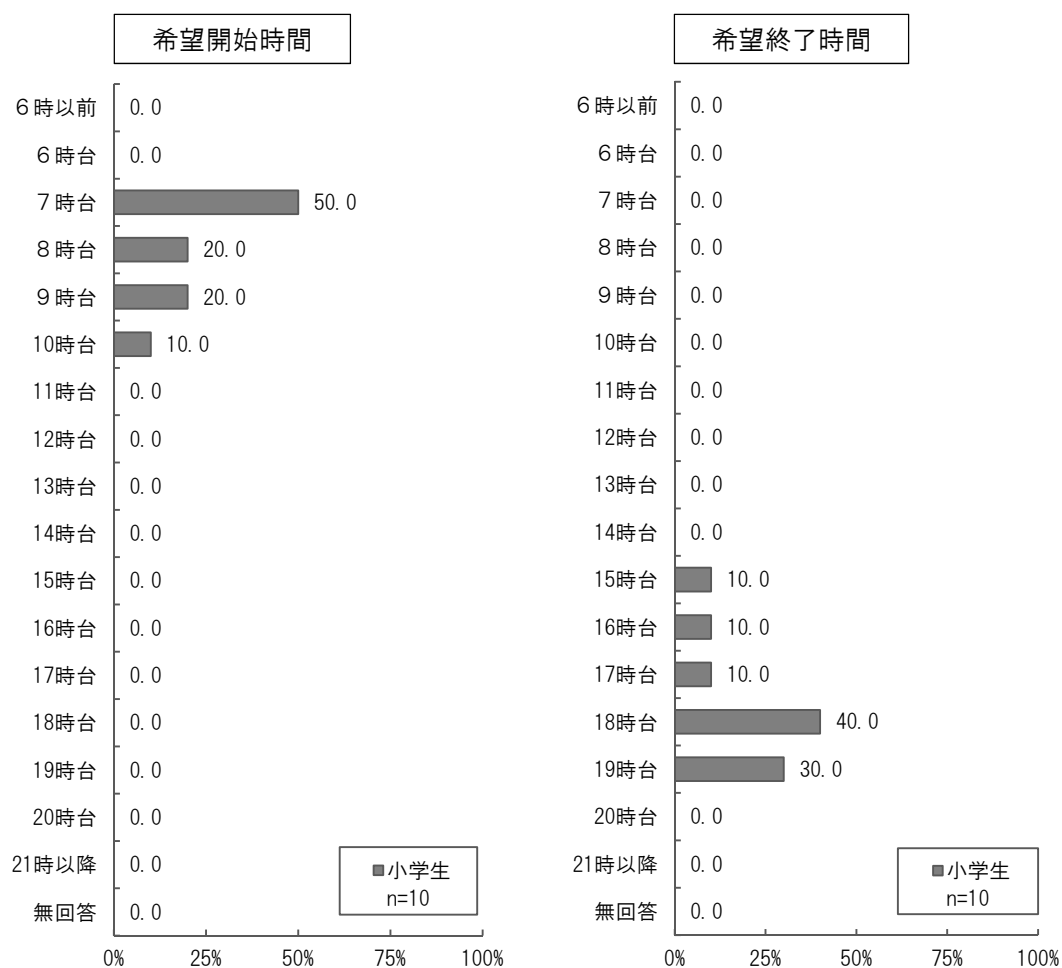
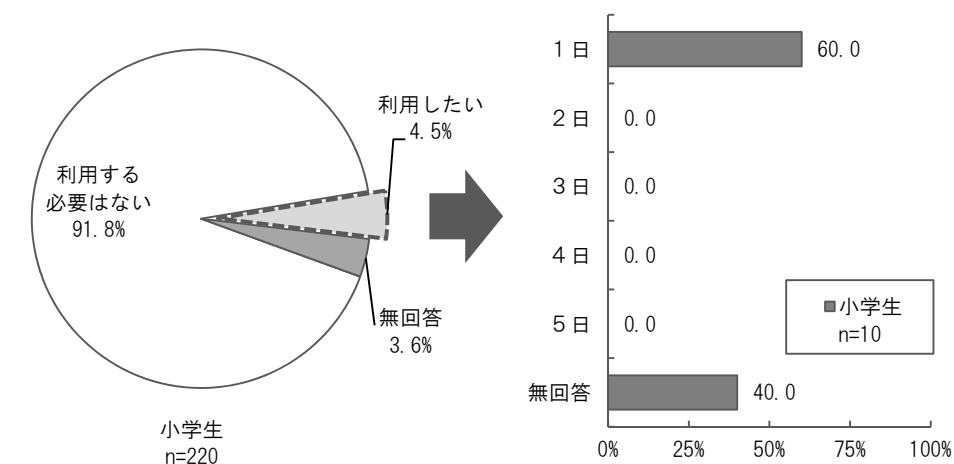
〔問12(2)〕 土曜日の放課後児童クラブの利用意向



○放課後児童クラブの日曜・祝日の利用意向をみると、「利用したい」は4.5%となっています。

○希望開始時刻は、「7時台」(50.0%)と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」(40.0%)と回答した割合が最も高くなっています。

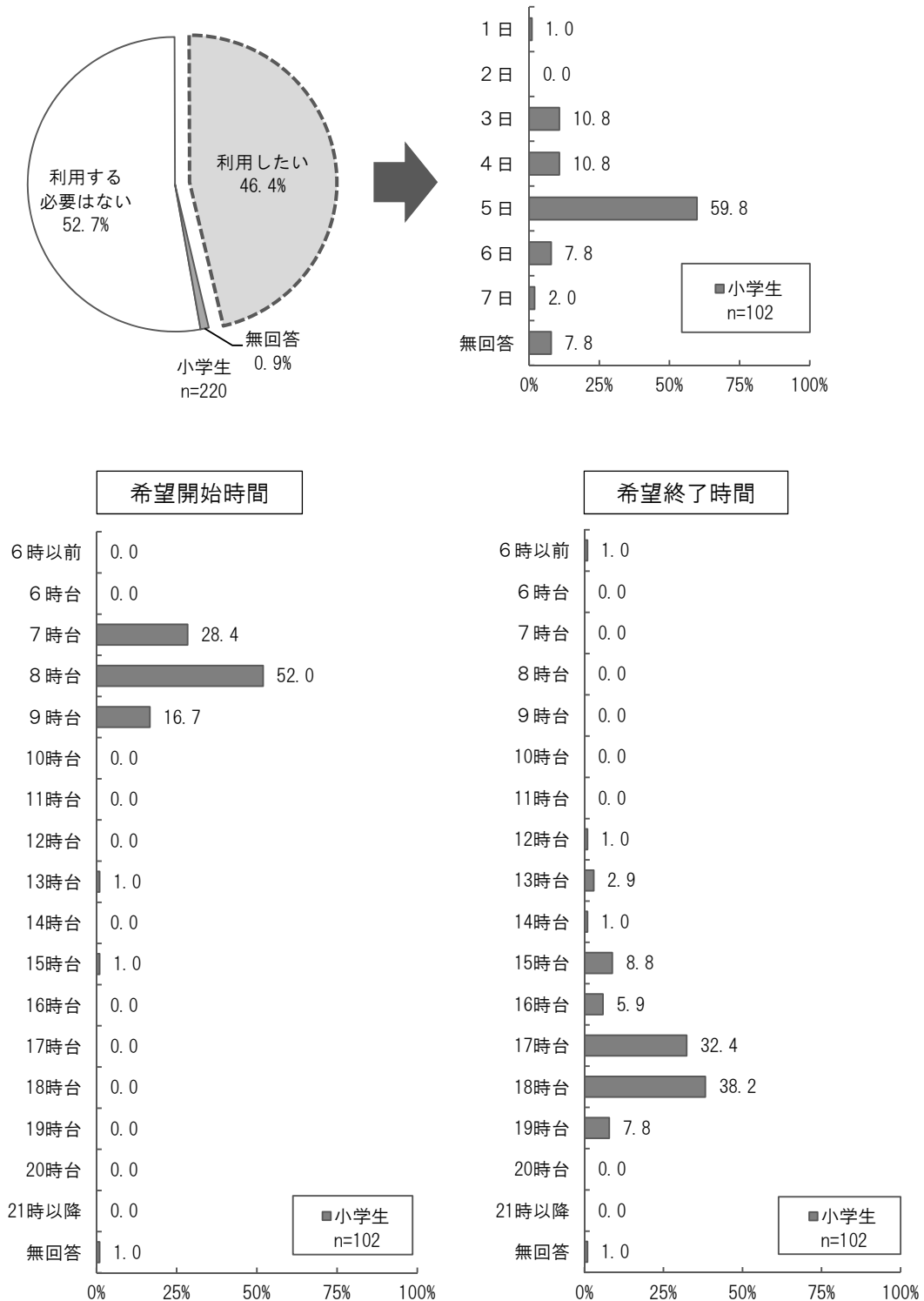
〔問12(3)〕 日曜・祝日の放課後児童クラブの利用意向



○放課後児童クラブの夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の利用意向をみると、「利用したい」は46.4%となっています。

○希望開始時刻は、「8時台」(52.0%)と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」(38.2%)と回答した割合が最も高くなっています。

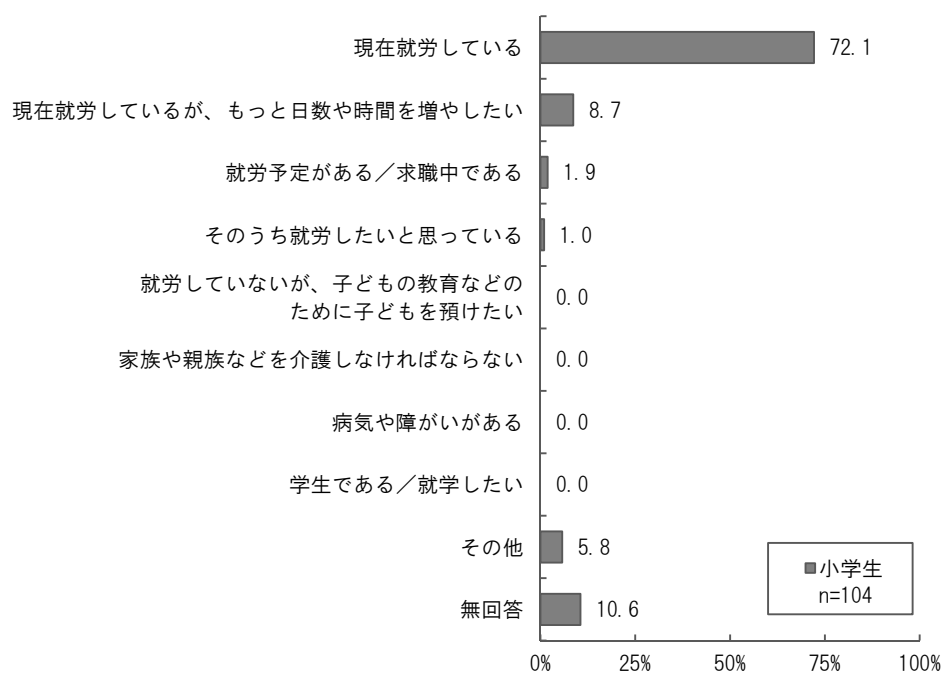
〔問12(4)〕 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用意向



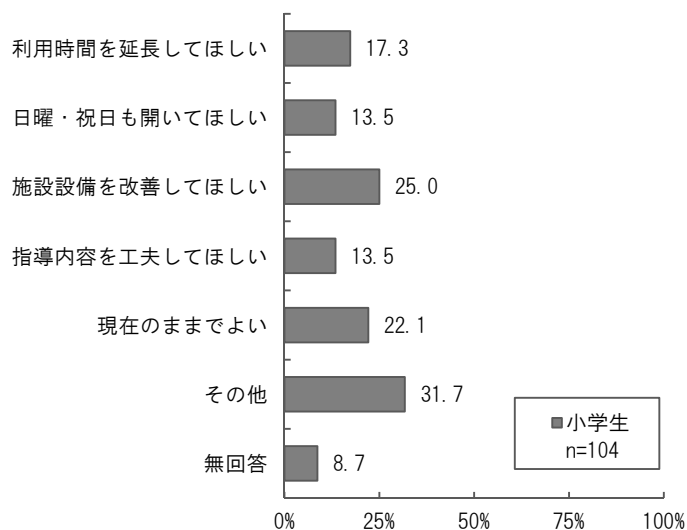
○放課後児童クラブを利用したい理由をみると、「現在就労している」（72.1％）と回答した割合が最も高くなっています。

○放課後児童クラブ（学童保育）に希望することをみると、「施設設備を改善してほしい」（25.0％）、「利用時間を延長してほしい」（17.3％）と回答した割合が高くなっています。一方、「現在のままでよい」も22.1％います。

〔問12-1〕 放課後児童クラブ（学童保育）を利用したい理由



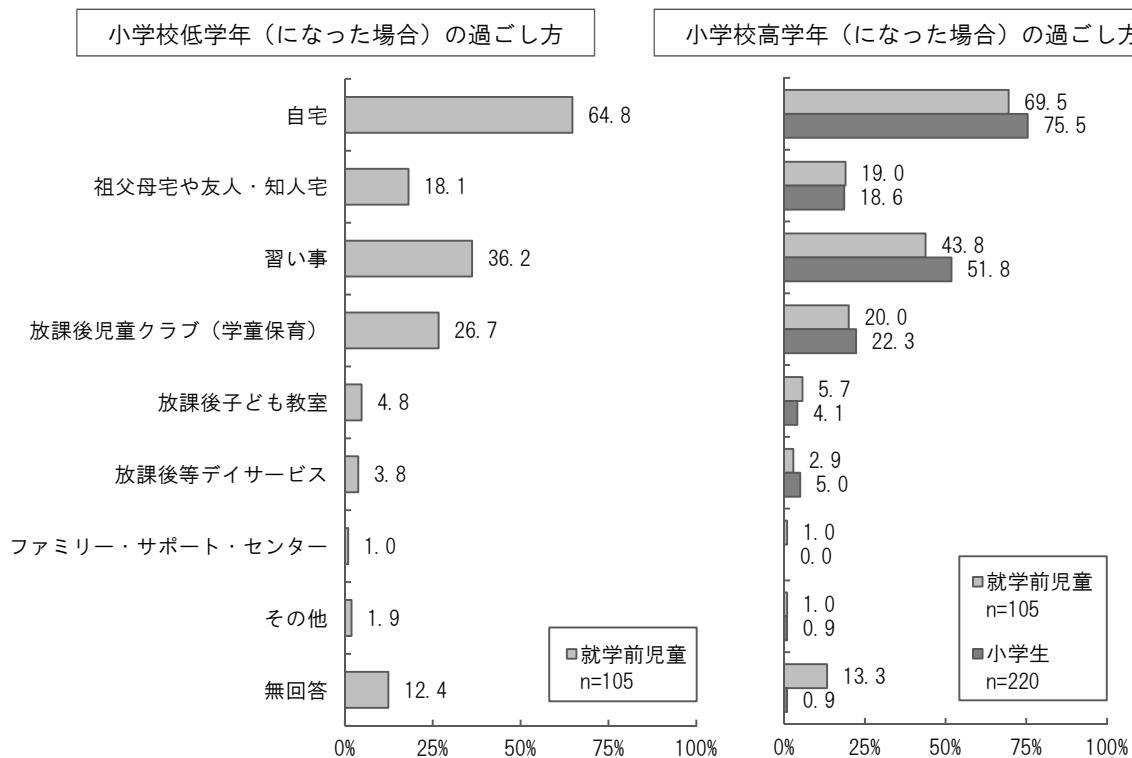
〔問12-2〕 放課後児童クラブ（学童保育）に希望すること



（３）平日の放課後の過ごし方の希望

- 放課後の過ごし方の希望をみると、就学前児童では低学年のうちは「自宅」(64.8%)、「習い事」(36.2%)、「放課後児童クラブ」(26.7%)の順に希望しています。高学年になると、「放課後児童クラブ」(20.0%)が6.7^{ポイント}減少した一方で、「自宅」(69.5%)が4.7^{ポイント}、「習い事」(43.8%)が7.6^{ポイント}増加しています。
- 小学生では、「自宅」(75.5%)、「習い事」(51.8%)、「放課後児童クラブ」(22.3%)の順に希望しています。

問22・問23[問13] 放課後の過ごし方の希望



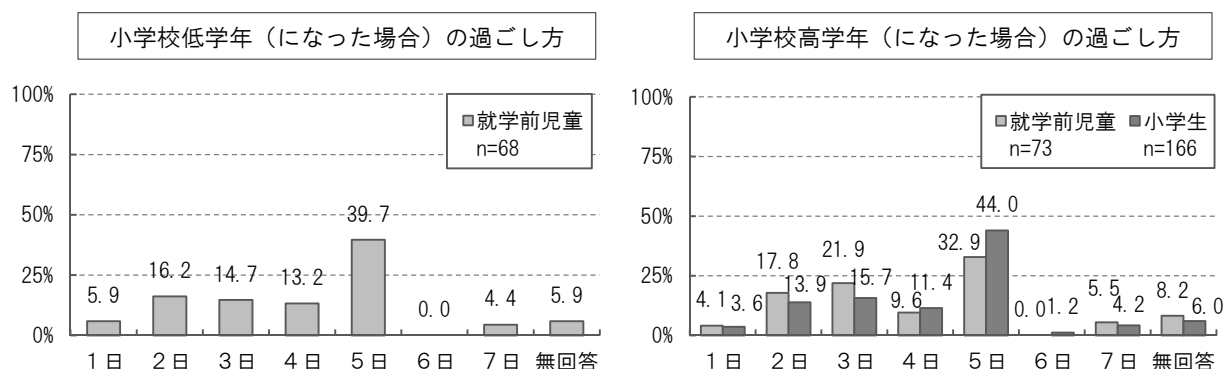
※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生の意味です。

※小学生の調査の選択肢は「高学年になった場合」のみです。

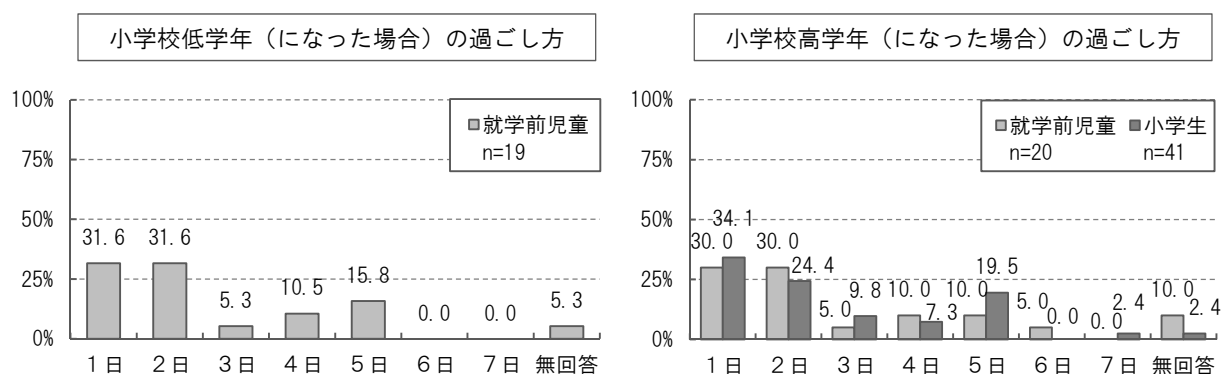
○就学前児童の保護者が放課後を過ごさせたい場所別に1週当たりの希望日数をみると、『自宅』では「5日」（低学年時期39.7%・高学年時期32.9%）と回答した割合が最も高くなっています。『祖父母宅や友人・知人宅』では、「1日」「2日」（低学年時期31.6%・高学年時期30.0%）と回答した割合が最も高くなっています。『習い事』では、「2日」（低学年時期44.7%・高学年時期45.7%）と回答した割合が最も高くなっています。『放課後児童クラブ』では、「5日」（低学年時期60.7%・高学年時期52.4%）と回答した割合が最も高くなっています。『放課後子ども教室』では、低学年時期は「1日」「2日」（各40.0%）、高学年時期は「3日」（50.0%）と回答した割合が最も高くなっています。

○一方、小学生の保護者が放課後を過ごさせたい場所別に1週当たりの希望日数をみると、『自宅』では「5日」（44.0%）と回答した割合が最も高くなっています。『祖父母宅や友人・知人宅』では、「1日」（34.1%）と回答した割合が最も高くなっています。『習い事』では、「2日」（41.2%）と回答した割合が最も高くなっています。『放課後児童クラブ』では、「5日」（38.8%）と回答した割合が最も高くなっています。『放課後子ども教室』では、「5日」（33.3%）と回答した割合が最も高くなっています。

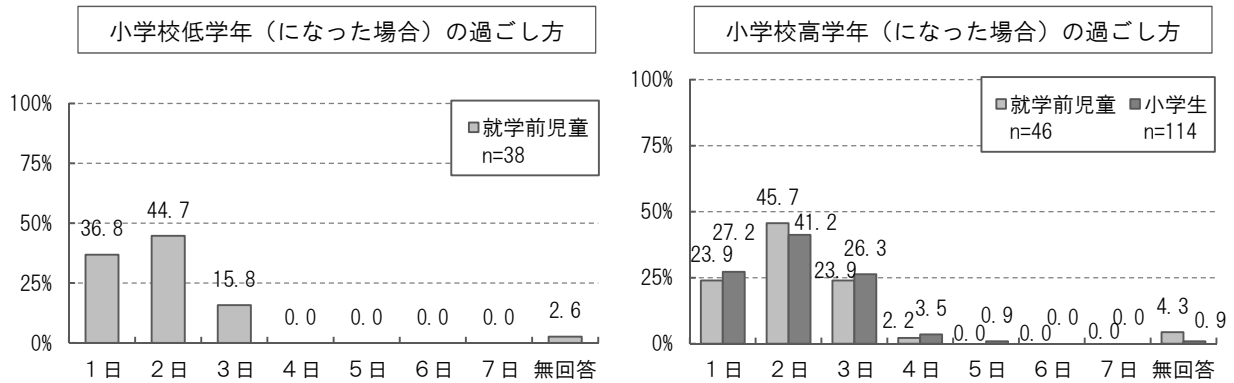
問22.1・問23.1[問13.1] 「自宅」希望日数（1週当たり）



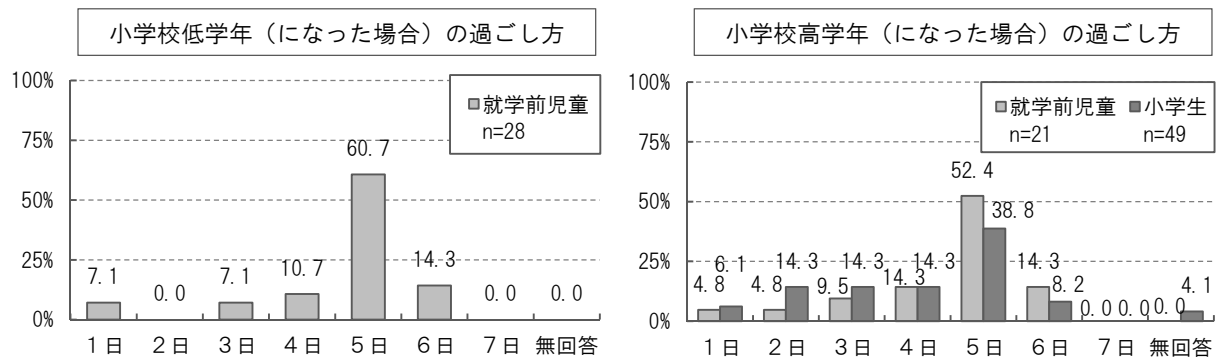
問22.2・問23.2[問13.2] 「祖父母宅や友人・知人宅」希望日数（1週当たり）



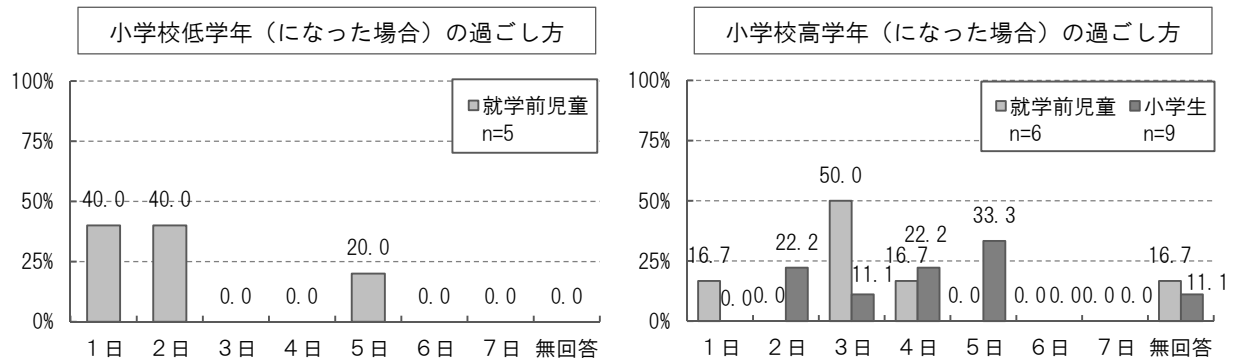
問22.3・問23.3[問13.3] 「習い事」希望日数（1週当たり）



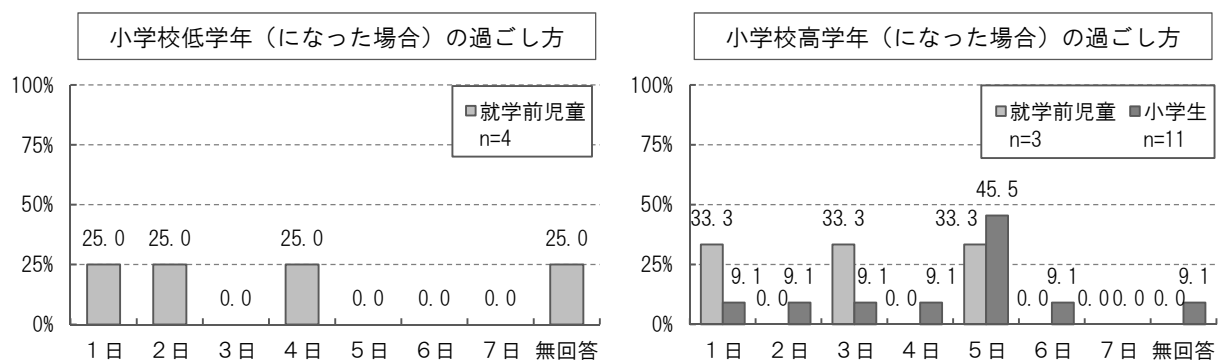
問22.4・問23.4[問13.4] 「放課後児童クラブ（学童保育）」希望日数（1週当たり）



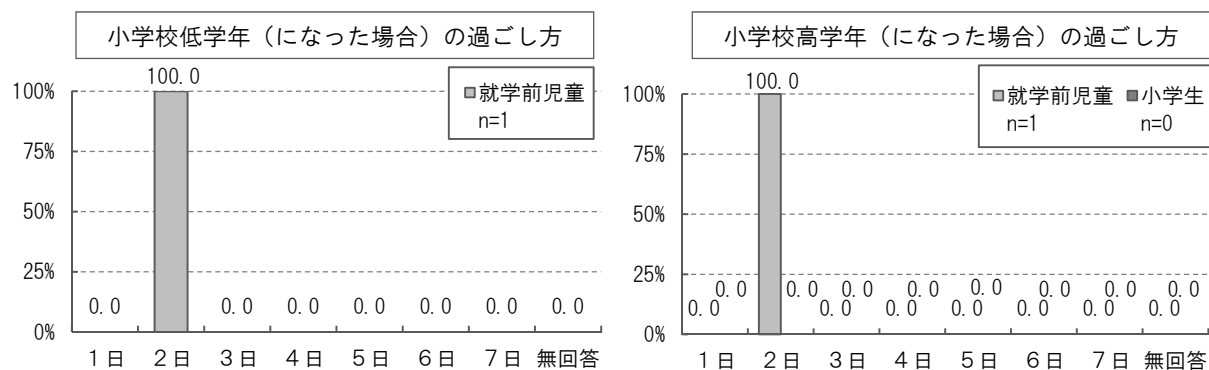
問22.5・問23.5[問13.5] 「放課後子ども教室」希望日数（1週当たり）



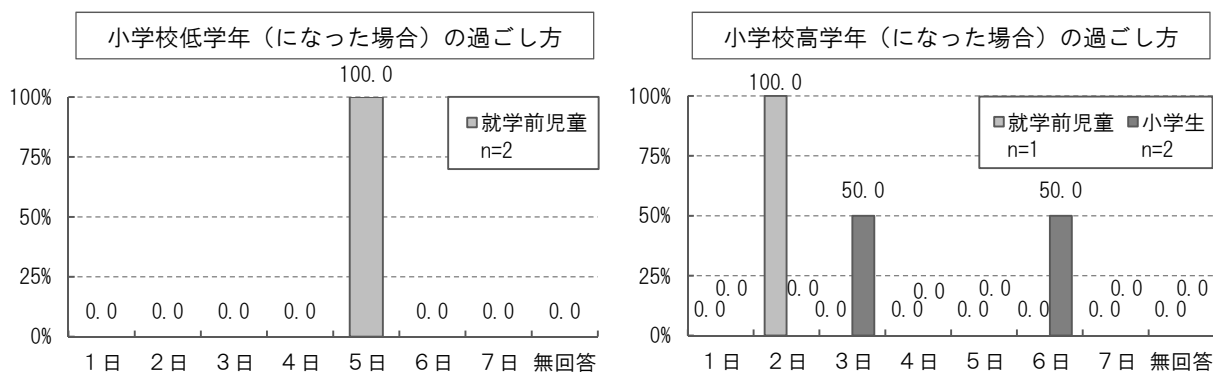
問22.6・問23.6[問13.6] 「放課後等デイサービス」希望日数（1週当たり）



問22.7・問23.7[問13.7] 「ファミリーサポートセンター」希望日数（1週当たり）



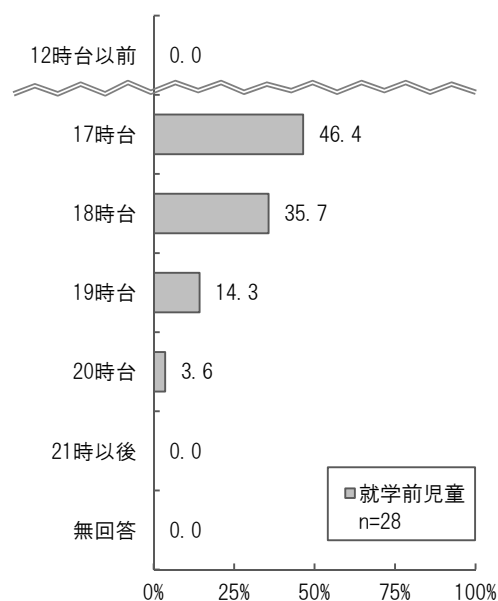
問22.8・問23.8[問13.8] 「その他」希望日数（1週当たり）



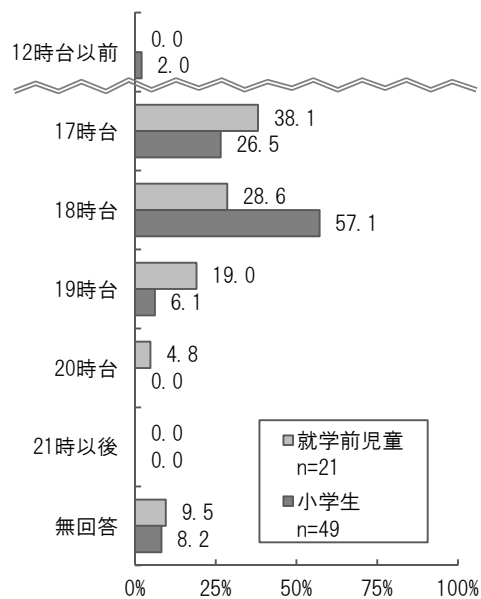
○放課後児童クラブの下校時からの利用希望時間帯をみると、就学前児童では「17時台まで」（低学年時期46.4％・高学年時期38.1％）と回答した割合が最も高くなっています。小学生では、「18時台まで」（57.1％）と回答した割合が最も高くなっています。

問22.4・問23.4[問13.4] 「放課後児童クラブ（学童保育）」下校時からの利用希望時間

小学校低学年（になった場合）の過ごし方



小学校高学年（になった場合）の過ごし方



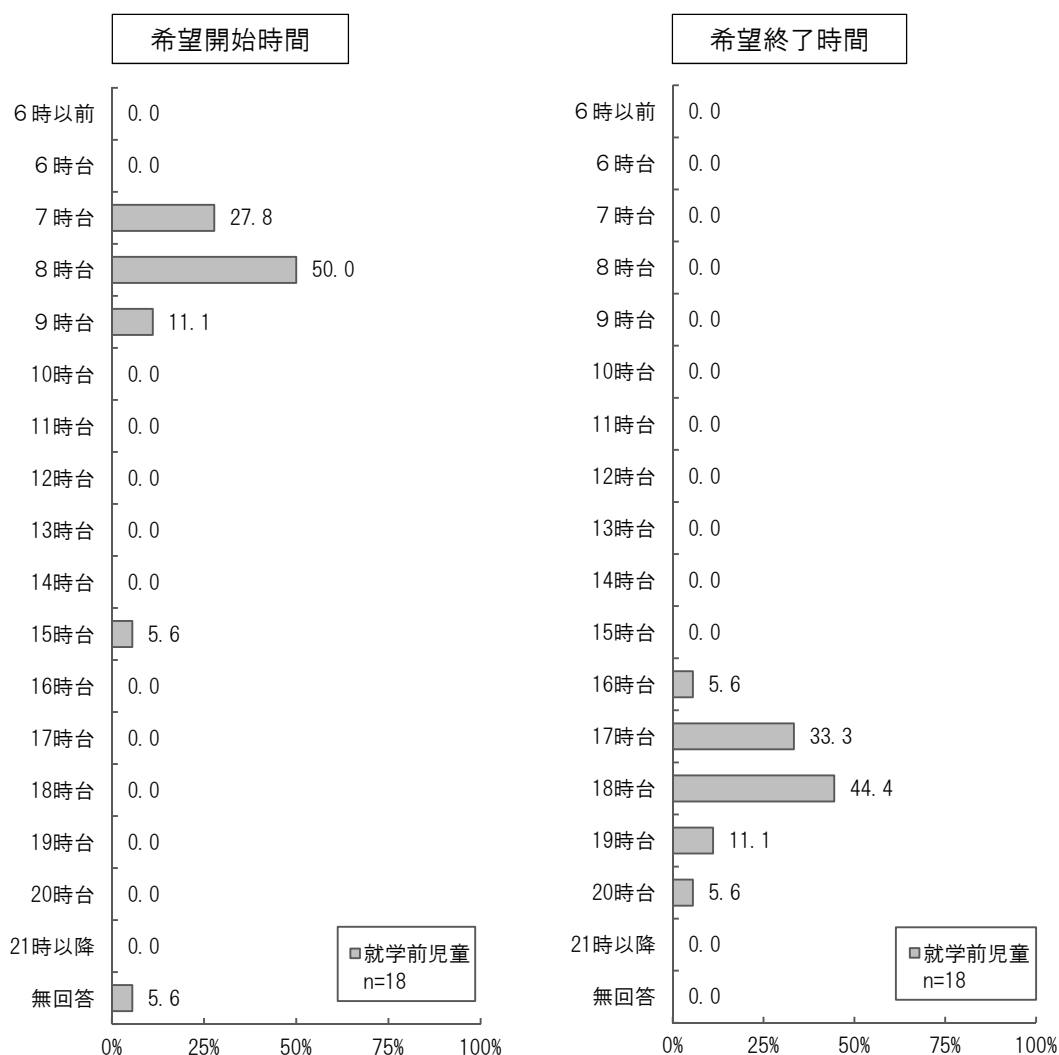
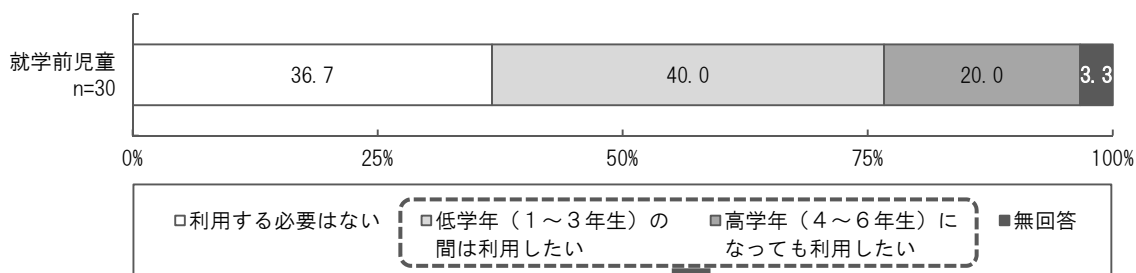
（４）土曜日、日曜・長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

① 就学前児童

○放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」は40.0%となっています。また、「高学年になっても利用したい」は20.0%となっています。

○希望開始時刻は、「8時台」（50.0%）と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」（44.4%）と回答した割合が最も高くなっています。

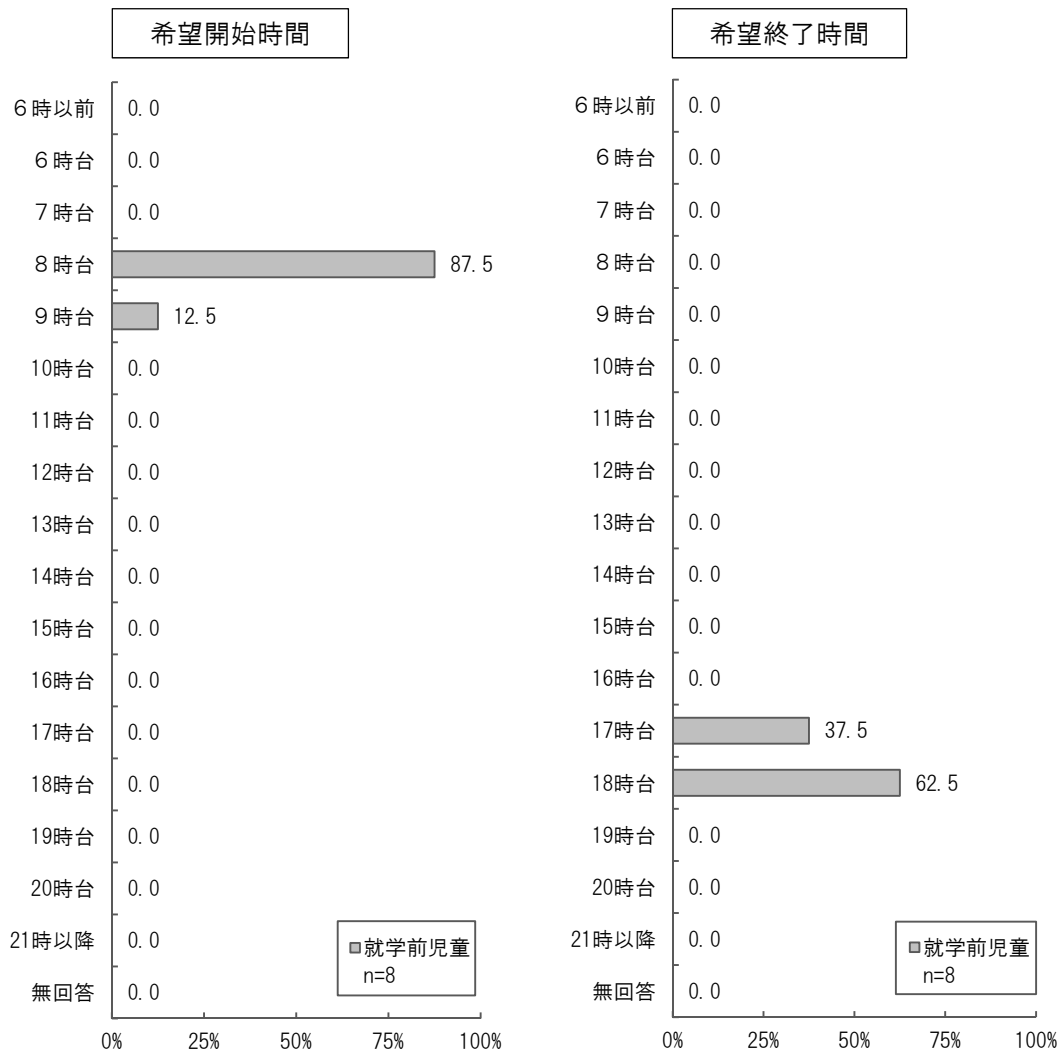
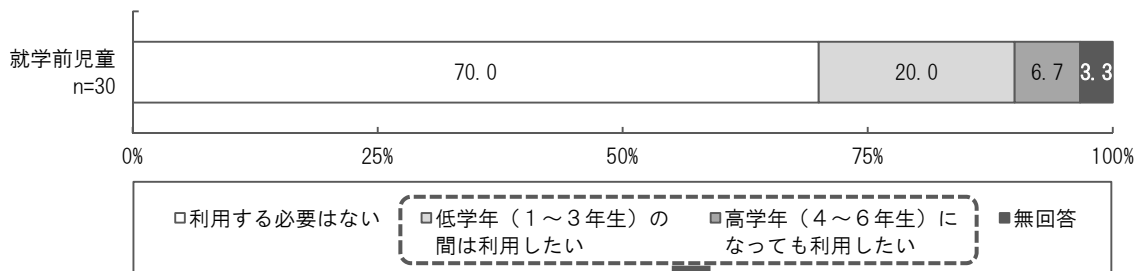
問24(1) 土曜日の放課後児童クラブの利用希望



○放課後児童クラブの日曜・祝日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」は20.0%となっています。また、「高学年になっても利用したい」は6.7%となっています。

○希望開始時刻は、「8時台」(87.5%)と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」(62.5%)と回答した割合が最も高くなっています。

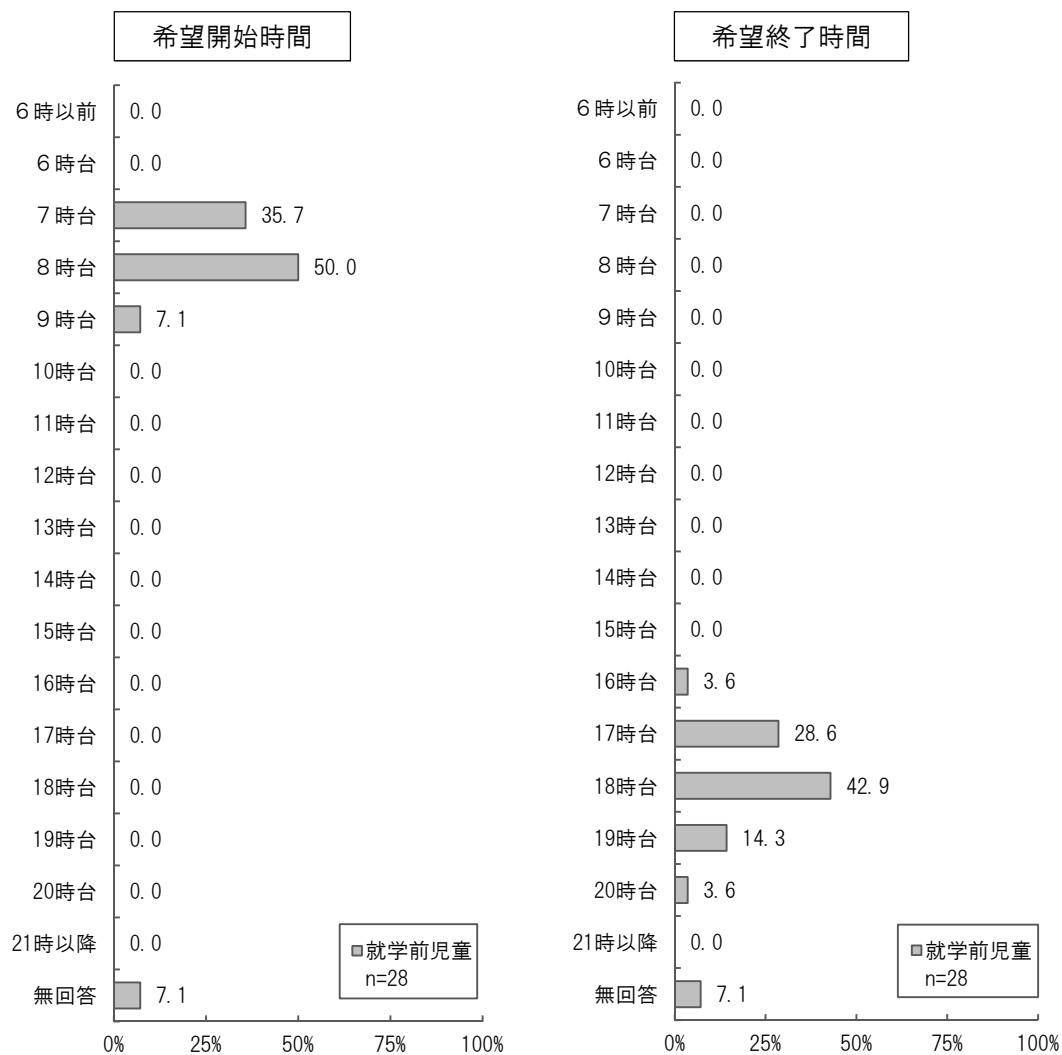
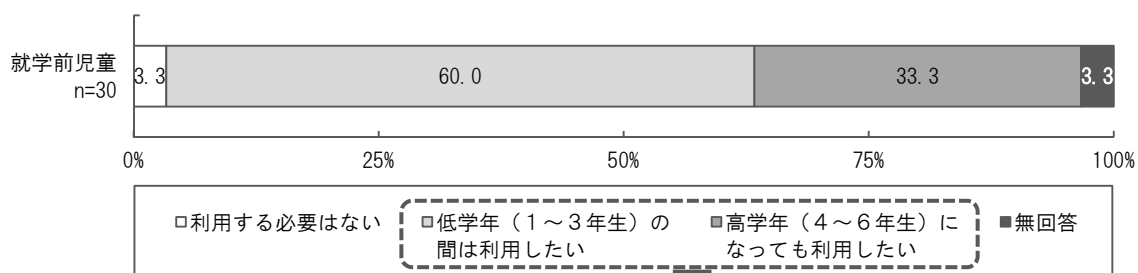
問24(2) 日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望



○夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」は60.0%となっています。また、「高学年になっても利用したい」は33.3%となっています。

○希望開始時間は、「8時台」(50.0%)と回答した割合が最も高く、希望終了時間は、「18時台」(42.9%)と回答した割合が最も高くなっています。

問24(3) 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

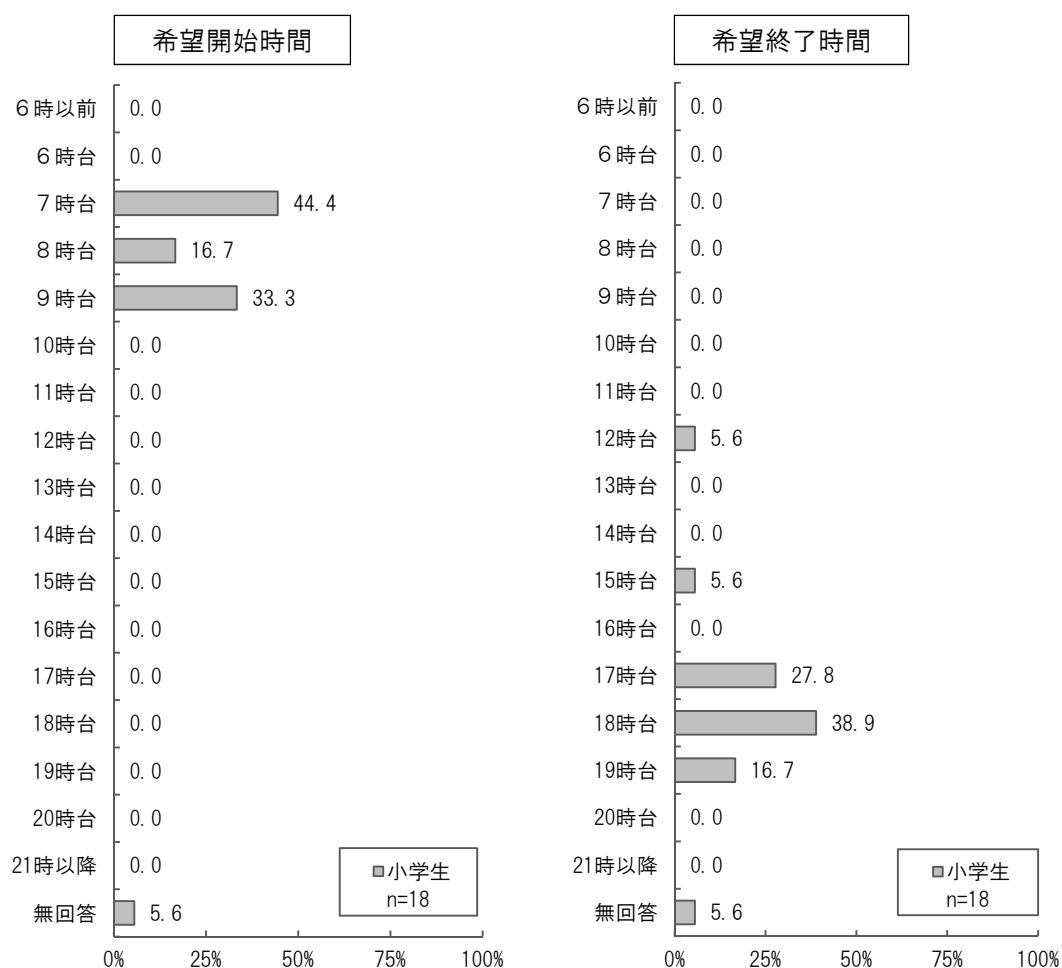
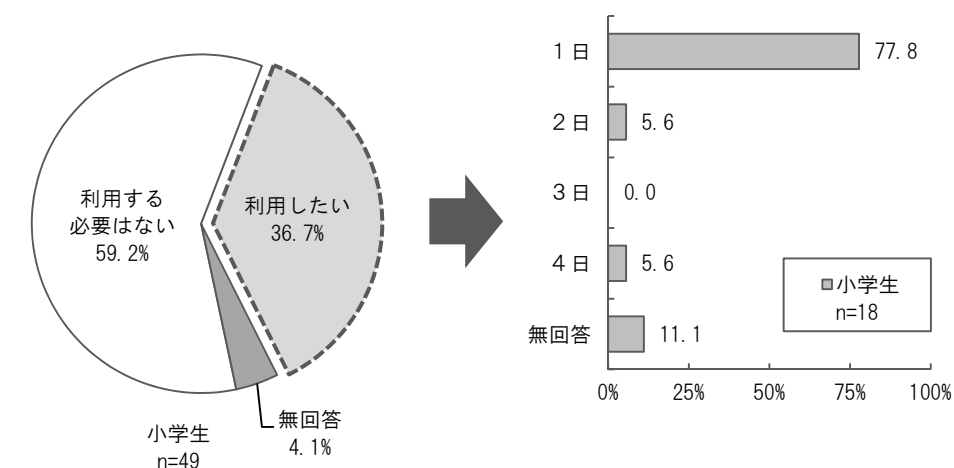


② 小学生

○放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、「利用したい」は36.7%となっています。

○希望開始時刻は、「7時台」（44.4%）と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」（38.9%）と回答した割合が最も高くなっています。

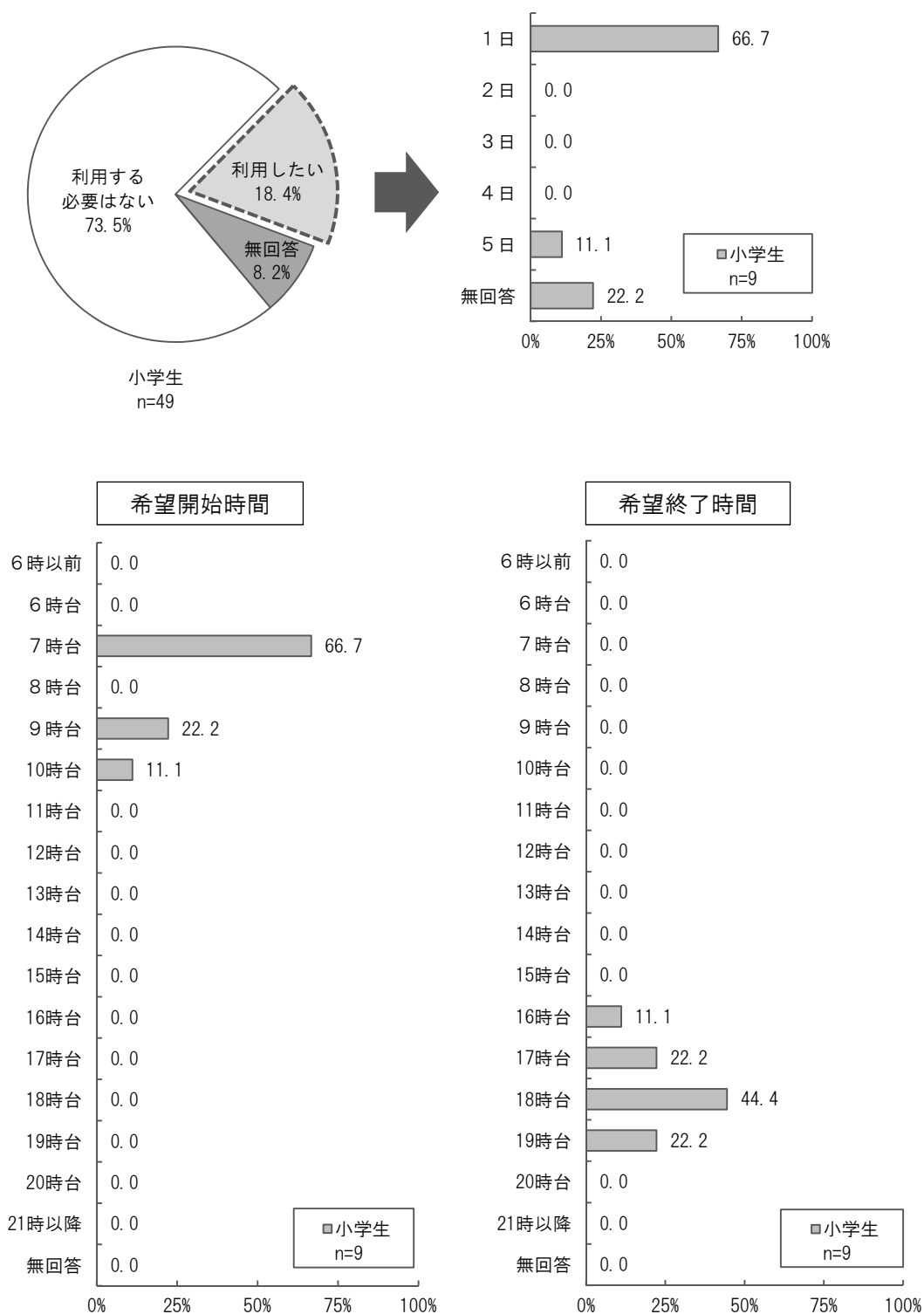
〔問14(1)〕 土曜日の放課後児童クラブの利用希望



○放課後児童クラブの日曜・祝日の利用希望をみると、「利用したい」は18.4%となっています。

○希望開始時刻は、「7時台」(66.7%)と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」(44.4%)と回答した割合が最も高くなっています。

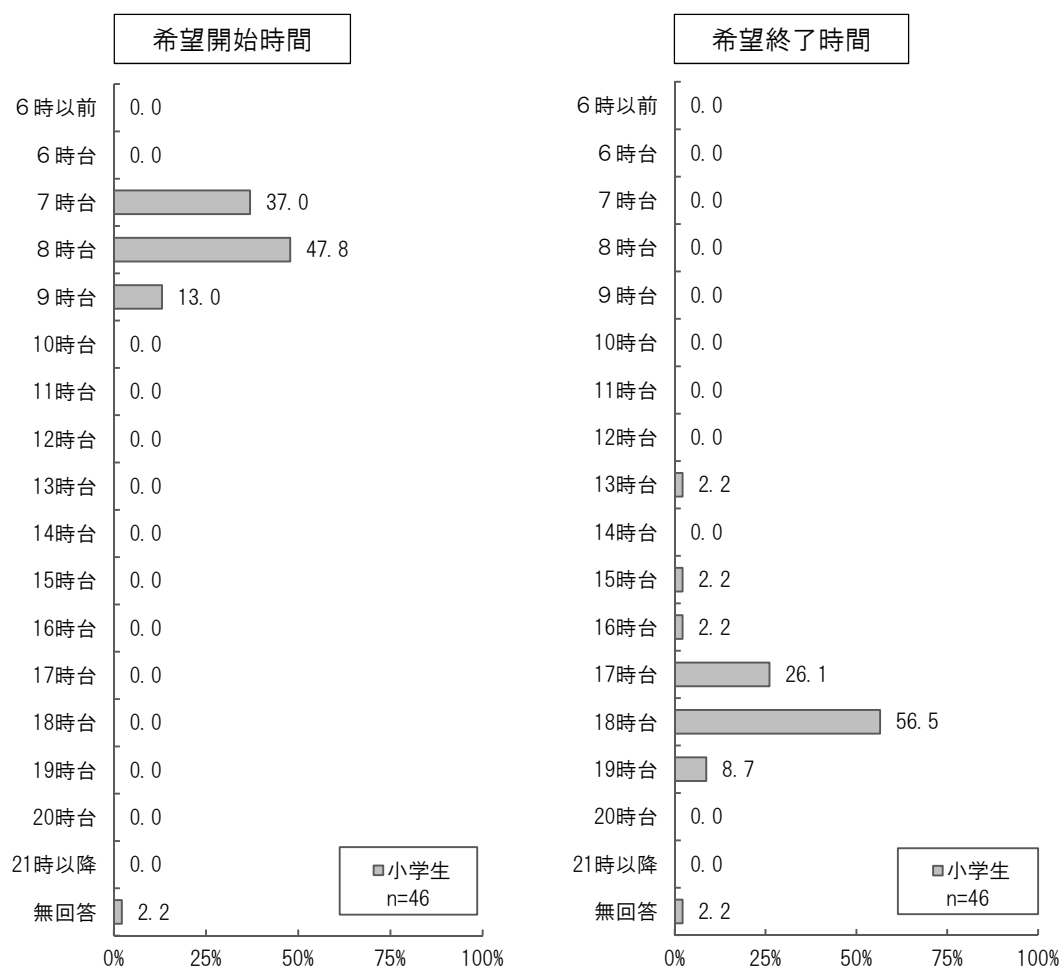
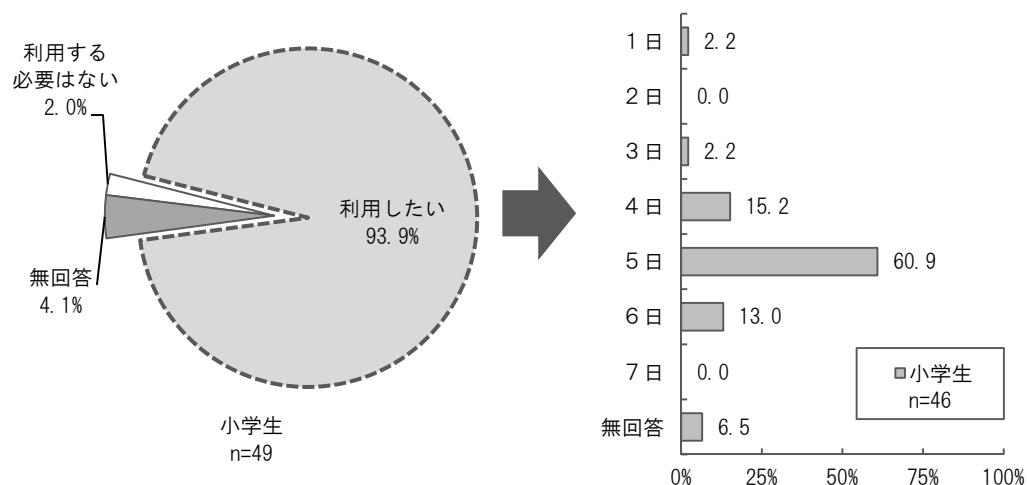
[問14(2)] 日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望



○放課後児童クラブの夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の利用希望をみると、「利用したい」は93.9%となっています。

○希望開始時刻は、「8時台」（47.8%）と回答した割合が最も高く、希望終了時刻は、「18時台」（56.5%）と回答した割合が最も高くなっています。

〔問14(3)〕 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望



第4章

育児休業制度の利用状況

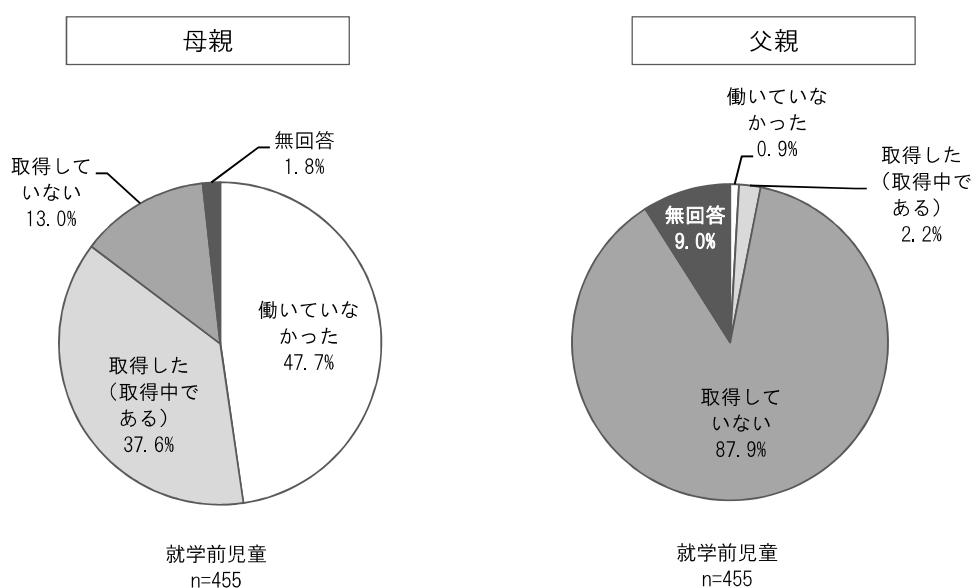
第4章 育児休業制度の利用状況

1 育児と仕事の両立支援制度について

(1) 育児休業制度の利用状況

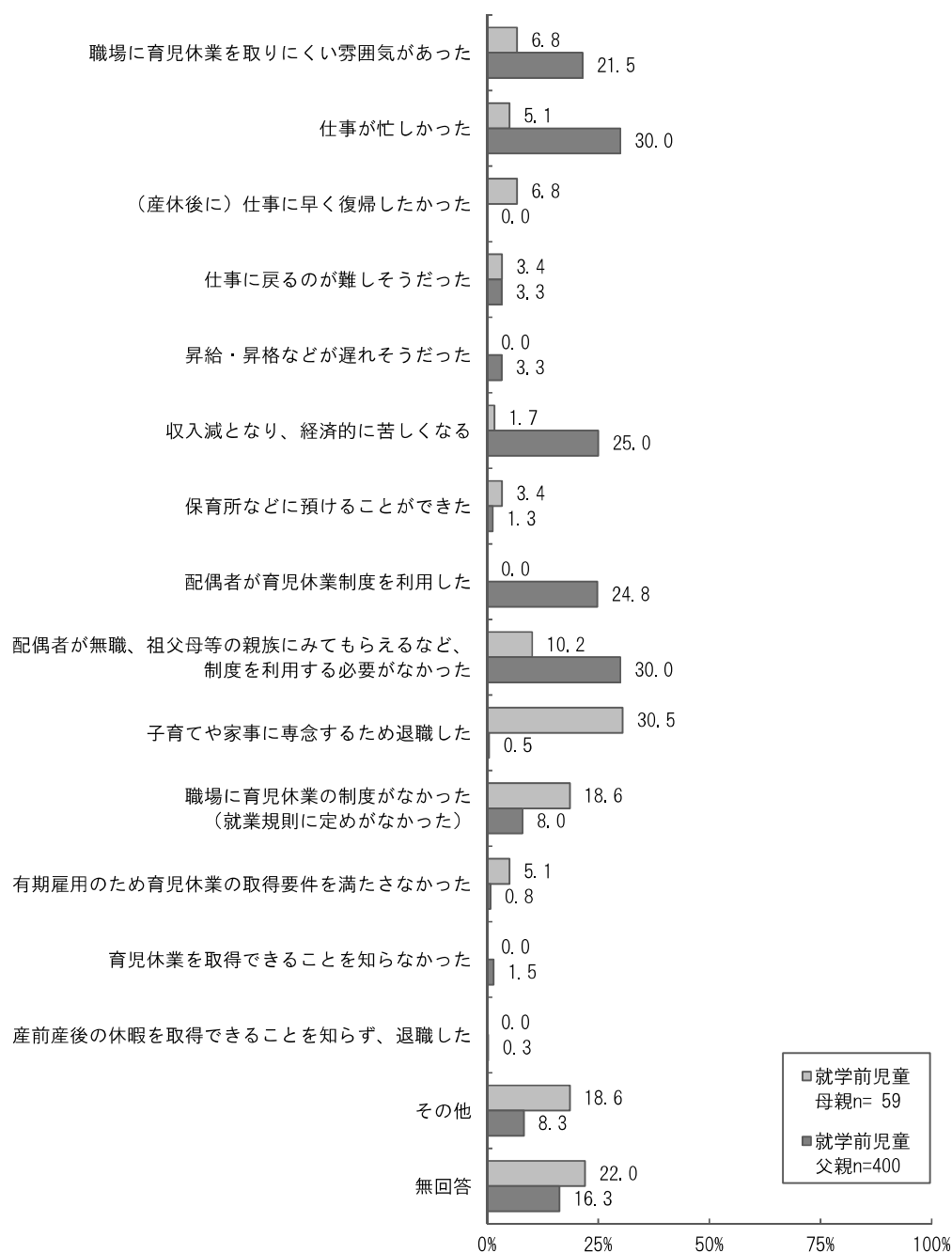
○育児休業制度の利用状況をみると、「取得した（取得中である）」母親は37.6%であるのに対し、父親は2.2%という状況です。

問25 育児休業制度の利用状況



○育児休業を取得していない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」（30.5%）、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」（18.6%）、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」（10.2%）をあげた割合が高く、一方父親は「仕事が忙しかった」「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」（各30.0%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（25.0%）、「配偶者が育児休業制度を利用した」（24.8%）など、母親の理由との違いがみられます。

問25.3 育児休業を取得していない理由



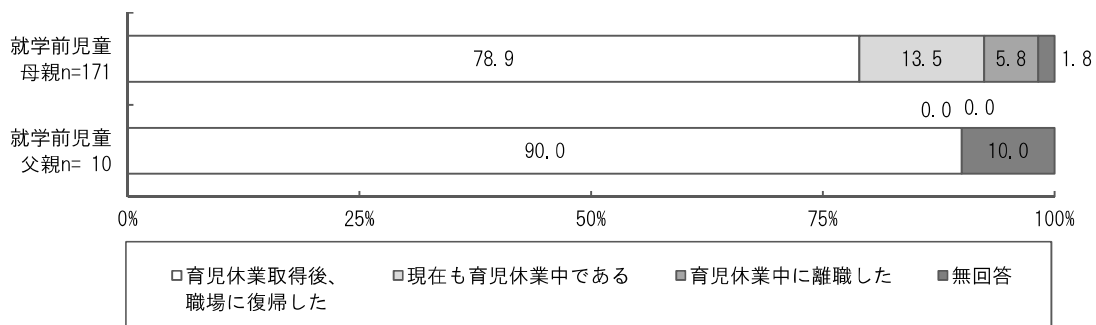
(2) 職場復帰の状況

○育児休業取得後の対処をみると、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」(78.9%)、「現在も育児休業中である」(13.5%)、「育児休業中に離職した」(5.8%)となっています。一方父親は、大半の方が「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答しています。

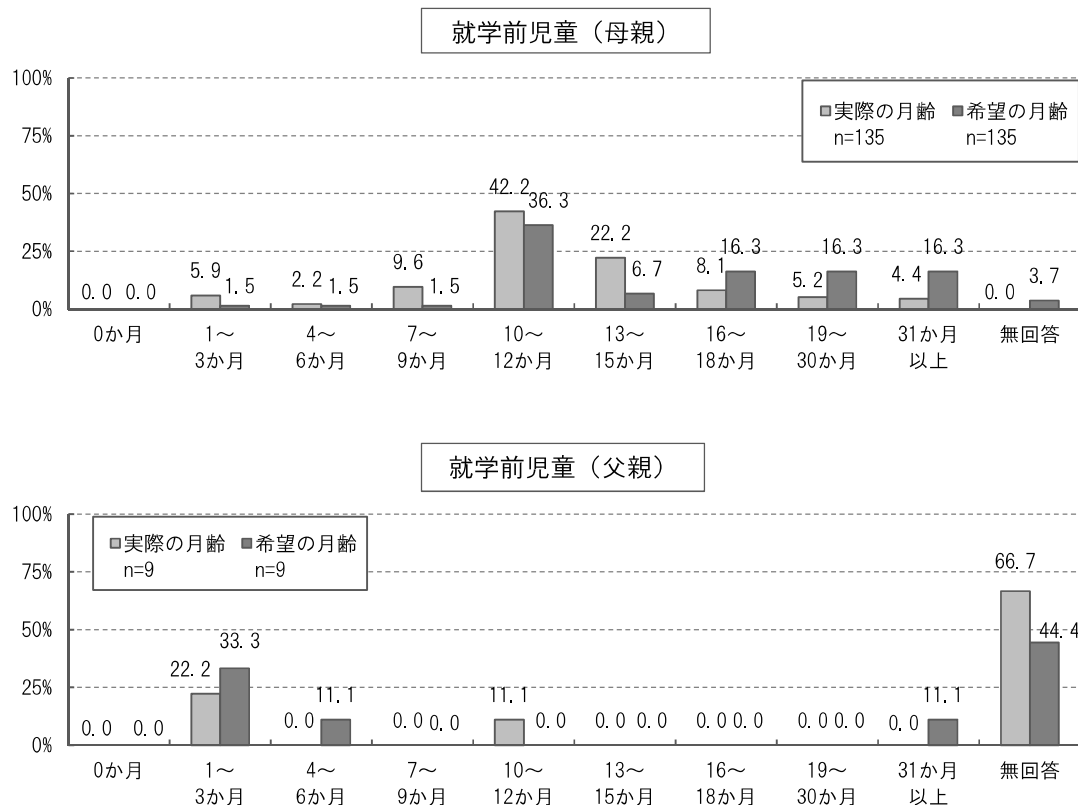
○育児休業から復帰したときの子どもの実歳の月齢をみると、母親は「10～12か月」(42.2%)、父親は「1～3か月」(22.2%)と回答した割合が最も高くなっています。

○希望する月齢では、母親は「10～12か月」(36.3%)、父親は「1～3か月」(33.3%)と回答した割合が最も高くなっています。

問25-1 育児休業取得後の職場復帰の状況



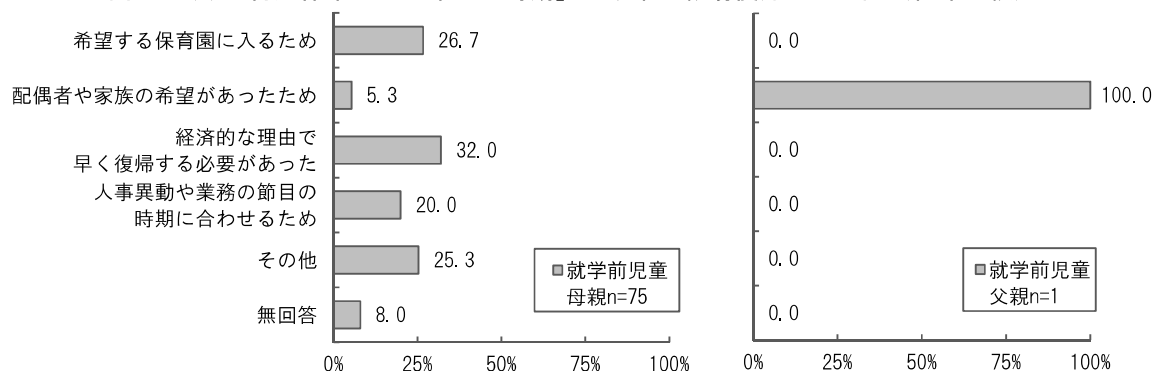
問25-2 育児休業から復帰したときの子どもの実歳の月齢と希望する月齢



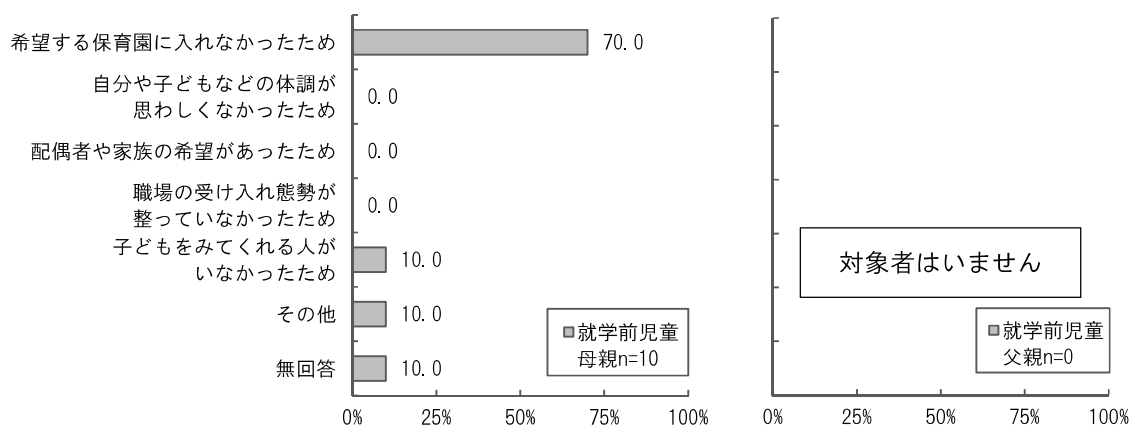
○育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由をみると、母親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（32.0％）が最も高く、父親の回答者は1人ですが「配偶者や家族の希望があったため」と回答しています。

○一方、「希望」より遅く職場復帰した理由をみると、母親では「希望する保育園に入れなかったため」（70.0％）が最も高くなっています。

問25-3(1) 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由（経年比較）



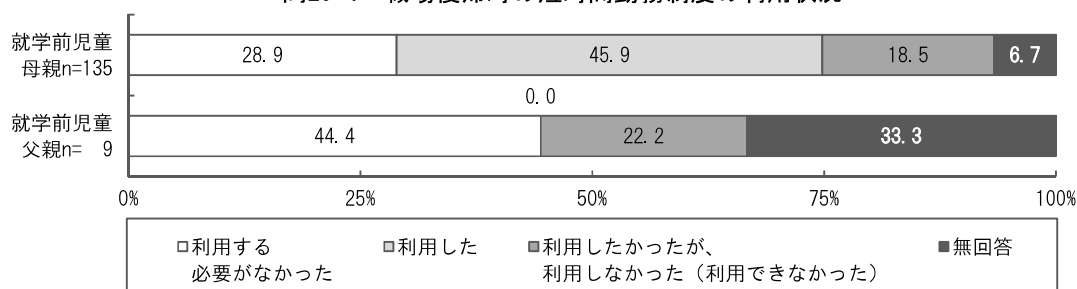
問25-3(2) 育児休業から「希望の時期」より遅く職場復帰した理由



（３）短時間勤務制度の利用状況

○職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親は「短時間勤務制度を利用した」（45.9％）と回答した割合が半数近くとなっています。

問25-4 職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況



第5章

子育て全般（独自設問）

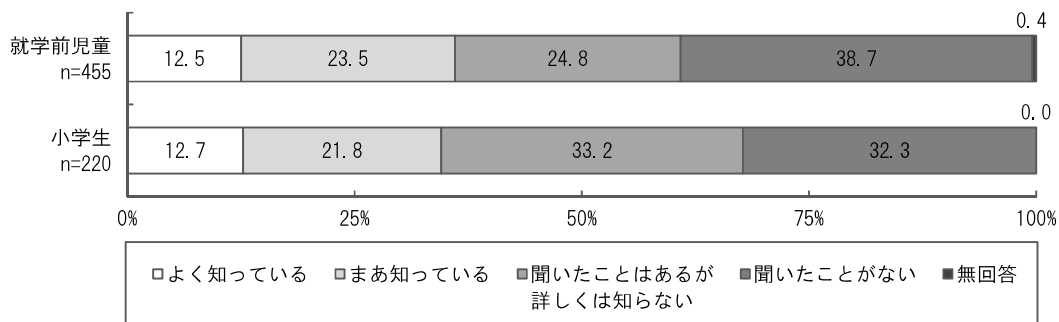
第5章 子育て全般（独自設問）

1 仕事と家庭の両立について

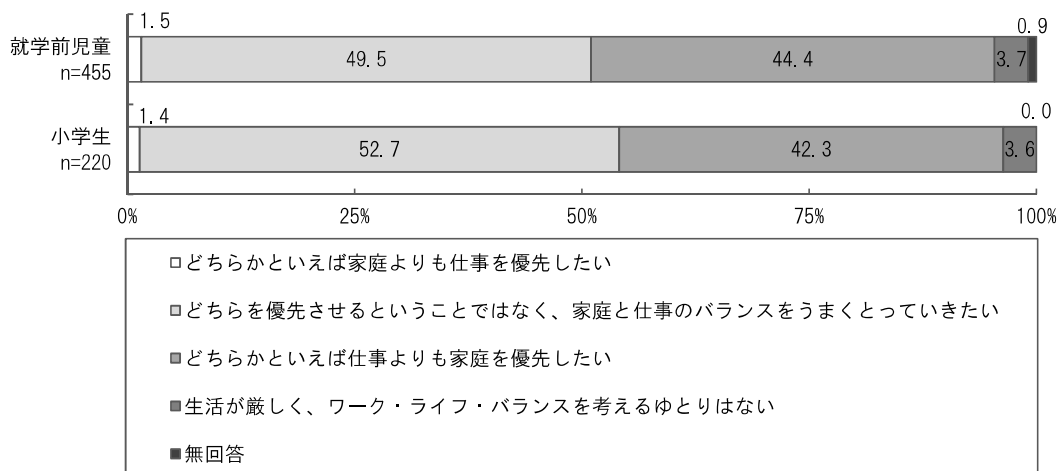
○「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度をみると、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（就学前児童24.8％・小学生33.2％）、「まあ知っている」（就学前児童23.5％・小学生21.8％）、「よく知っている」（就学前児童12.5％・小学生12.7％）となっています。

○「ワーク・ライフ・バランス」についての考え方をみると、就学前児童・小学生ともに「どちらを優先させるということではなく、家庭と仕事のバランスをうまくとっていきたい」（就学前児童49.5％・小学生52.7％）と回答した割合が最も高く、次いで「どちらかといえば仕事よりも家庭を優先したい」（就学前児童44.4％・小学生42.3％）となっています。

問26[問19] 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度

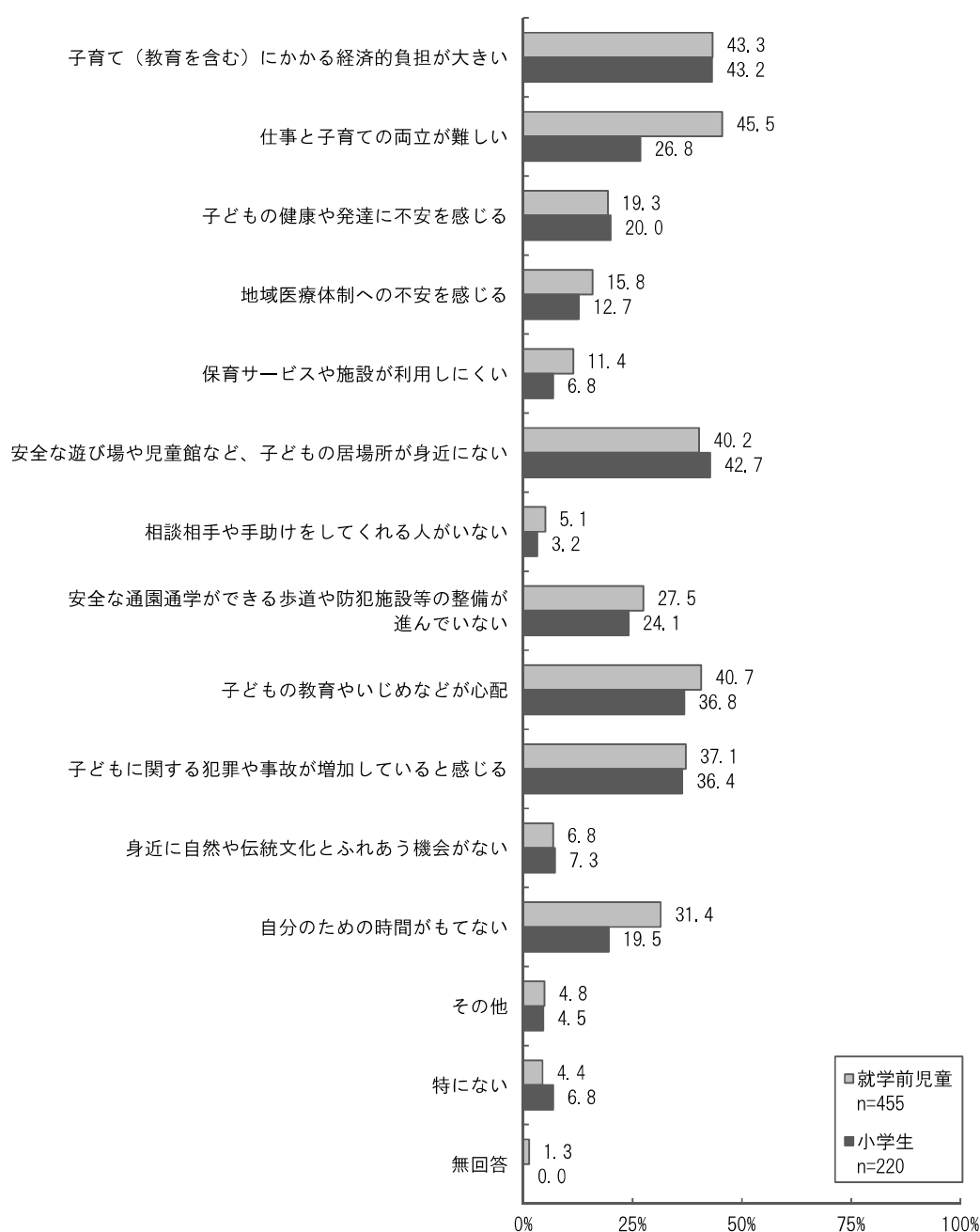


問27[問20] 「ワーク・ライフ・バランス」についての考え方



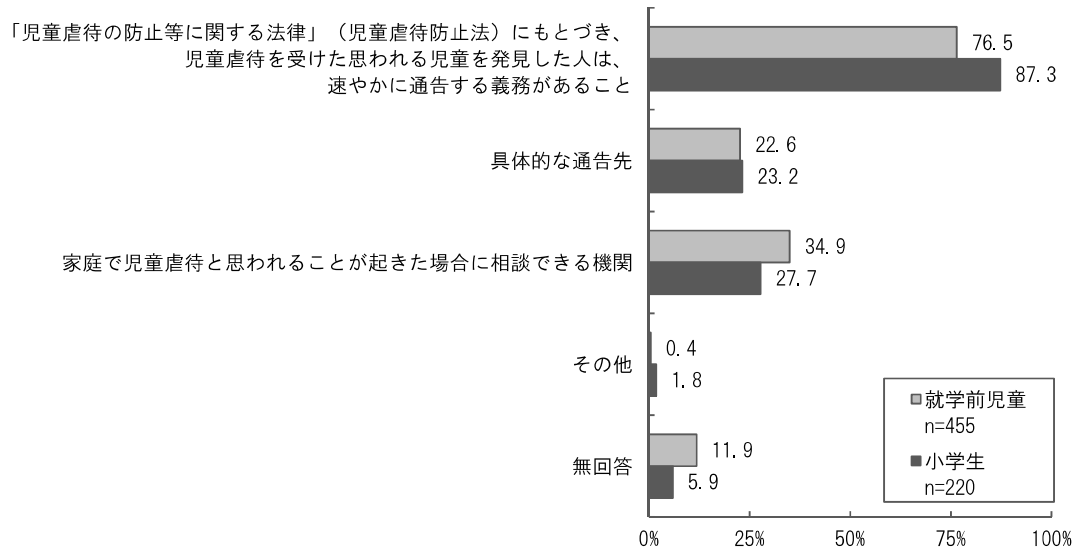
○子育てに感じている不安や負担感をみると、就学前児童では「仕事と子育ての両立が難しい」(45.5%)、「子育て(教育を含む)にかかる経済的負担が大きい」(43.3%)、「子どもの教育やいじめなどが心配」(40.7%)、「安全な遊び場や児童館など、子どもの居場所が身近にない」(40.2%)と回答した割合が高く、小学生では「子育て(教育を含む)にかかる経済的負担が大きい」(43.2%)、「安全な遊び場や児童館など、子どもの居場所が身近にない」(42.7%)、「子どもの教育やいじめなどが心配」(36.8%)、「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる」(36.4%)と回答した割合が高くなっています。

問28[問21] 子育てに感じている不安や負担感



○児童虐待についての知識をみると、就学前児童・小学生ともに「法にもとづき、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した人は、速やかに通告する義務があること」（就学前児童76.5%・小学生87.3%）と回答した割合が最も高くなっています。

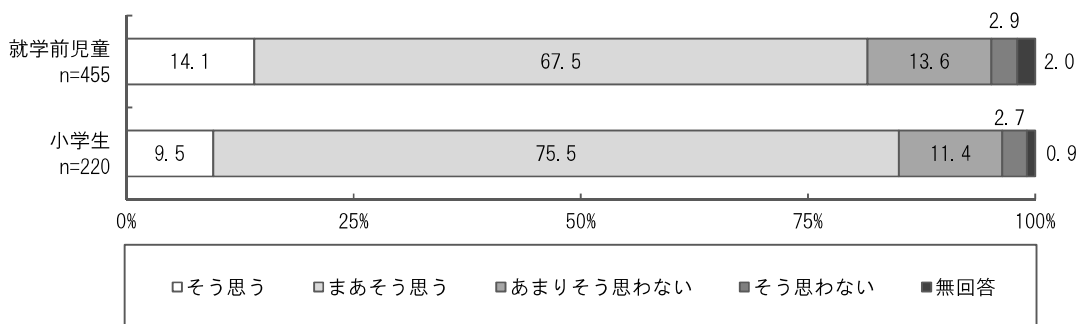
問29[問22] 児童虐待についての知識



2 子育ての環境や支援への期待

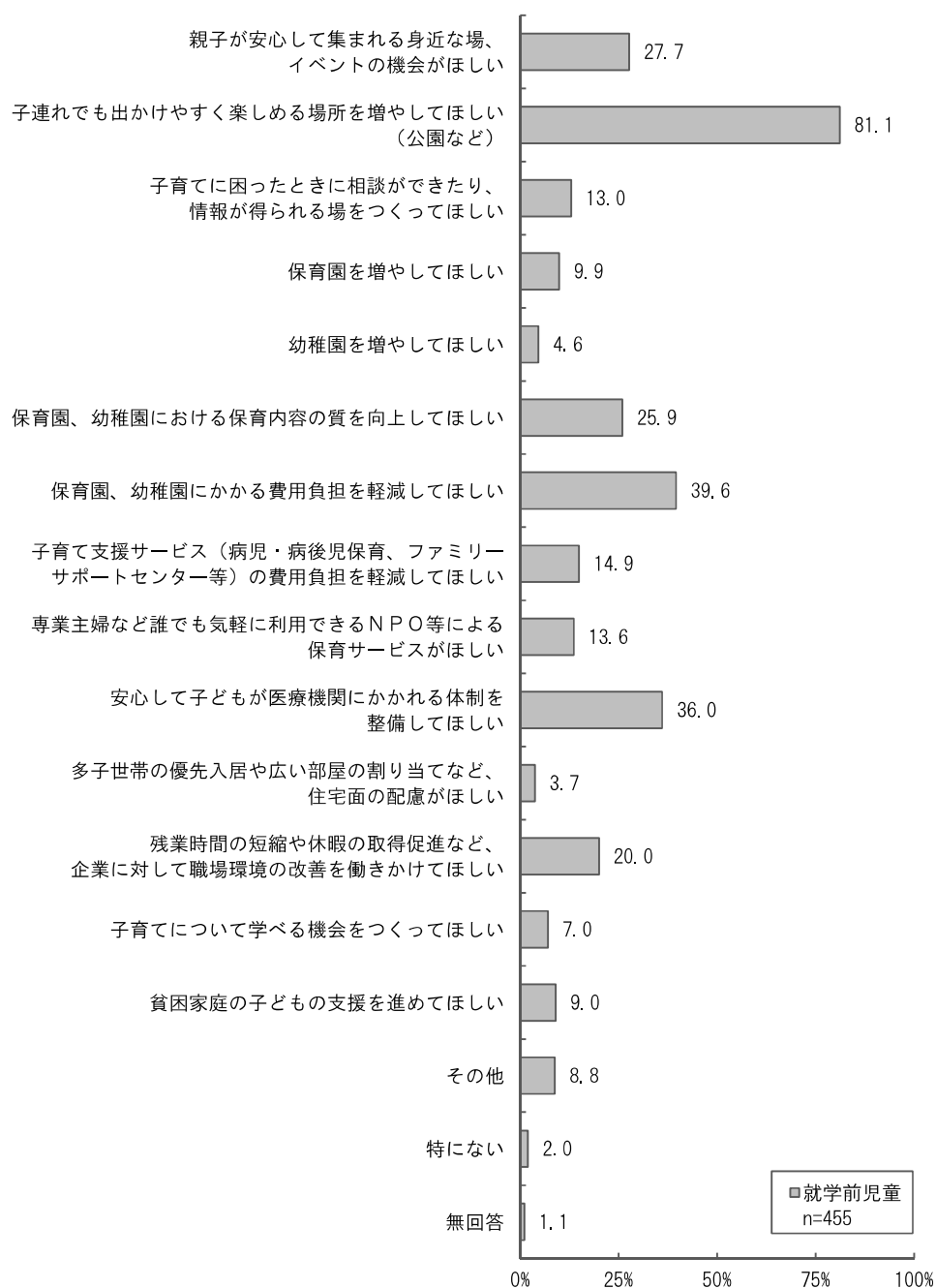
○安心して子どもを産み育てることができるまちと思うかどうかをみると、就学前児童・小学生ともに「そう思う＋まあそう思う」（就学前児童81.6%・小学生85.0%）と肯定的な回答をした方が8割を超えています。

問30[問23] 瀬戸内市は安心して子どもを産み育てることができるまちと思うか



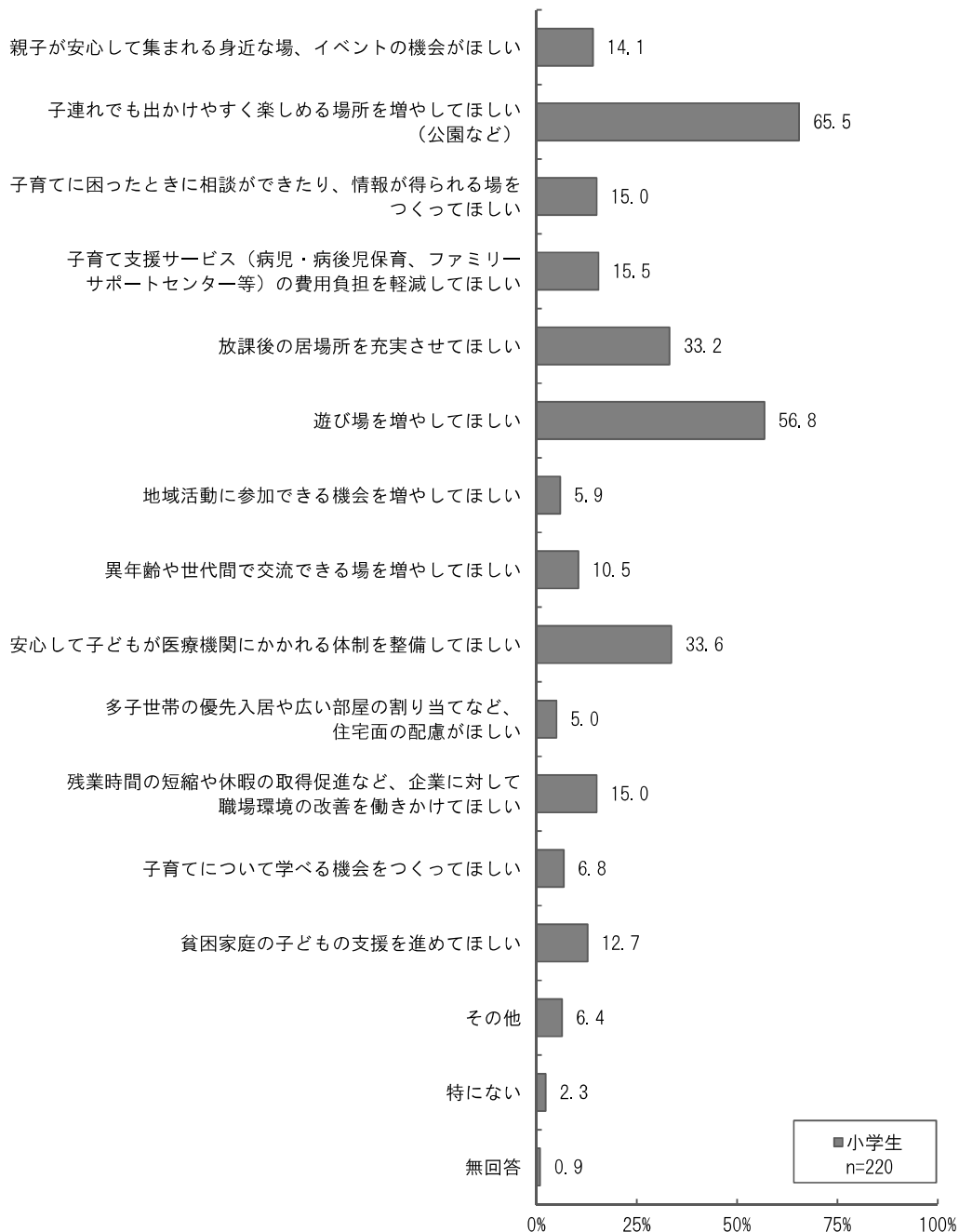
○充実してほしい子育て支援をみると、就学前児童では「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい（公園など）」（81.1%）と回答した割合が最も高く、次いで「保育園、幼稚園にかかる費用負担を軽減してほしい」（39.6%）、「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい」（36.0%）となっています。

問31 充実してほしい子育て支援



○充実してほしい子育て支援をみると、小学生では「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい（公園など）」（65.5%）と回答した割合が最も高く、次いで「遊び場を増やしてほしい」（56.8%）、「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい」（33.6%）となっています。

〔問24〕 充実してほしい子育て支援



第二期瀬戸内市
子ども・子育て支援に関するニーズ調査
結果報告書

発行日 平成 31 年 3 月

発行者 瀬戸内市役所 子育て支援課

住 所 〒701-4264 岡山県瀬戸内市長船町土師 277 番地 4

T E L 0869-26-5946

F A X 0869-26-8002

U R L <http://www.city.setouchi.lg.jp/>

